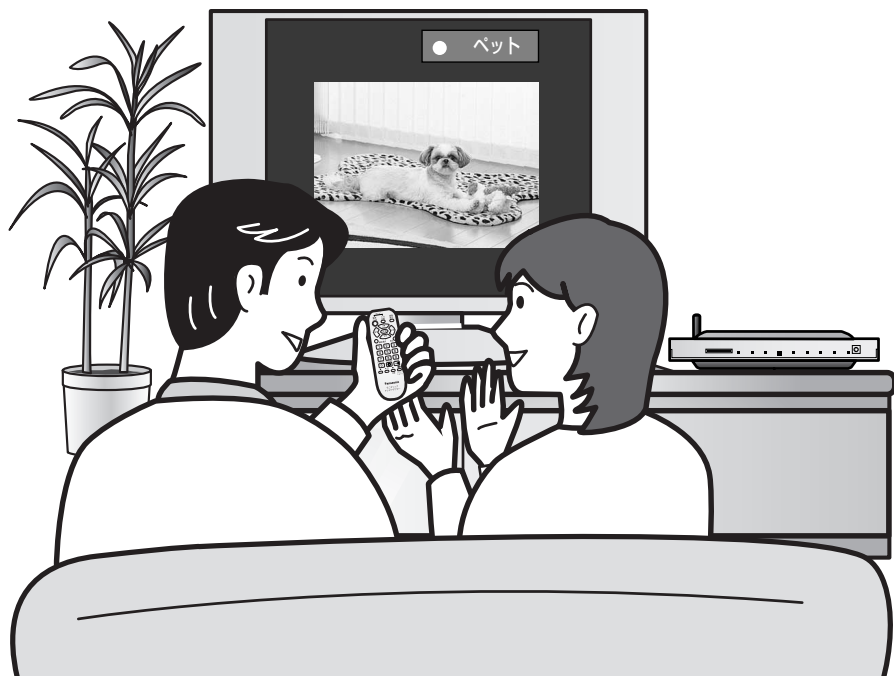
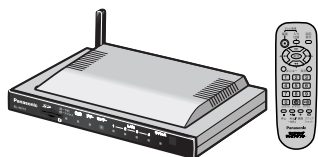
Panasonic®

取扱説明書

モニタリングテレビアダプター

品番 BL-WV10（ビーエル ダブリュブイ）

このたびは、パナソニック「モニタリングテレビアダプター」をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

保証書別添付

■ この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」（8 ～13ページ）は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

■ 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

特長

■ 気になる場所をテレビで見守ることができます

映像コードでモニタリングテレビアダプター (以下、本製品という) をテレビにつなぐと、当社製ホームネットワークカメラ (以下、カメラという) の画像をテレビに映し出せます。
無線カメラBL-C30を使うと、ワイヤレスだから、ケーブルが邪魔にならず、見たい場所にかんたんに設置できます。

■ カメラの向きを手元で変えられます（パン／チルト操作 ☞ 58ページ）

リモコンのカーソル(矢印)キーで、見たい方向にカメラのレンズを動かすことができます。本製品をテレビのそばにおいて、テレビでカメラの画像を見ながら、かんたんに遠隔操作できます。

■ 人を感知するとブザー音でお知らせします（みまもりもーど ☞ 66ページ）

カメラに搭載している「人感センサー」 (温度の変化で人などを検知する) により、人が近づくのをキャッチしたら、本製品のブザーが鳴り、テレビのそばにいる方にすぐお知らせします。

■ カメラの画像をかんたんに録画できます (☞ 70ページ)

本製品にSDメモリーカードをセットしておけば、カメラの画像を録画できます。
録画した画像は、リモコン操作でテレビに映し出すことができます。

■ みられたくないときはレンズをかくせます (かくれンズ ☞ 102、104ページ)

お部屋をモニターする必要がないときは、カメラのレンズを閉じておくことができます。

■ 最大8台のカメラを接続・操作できます

本製品1台につき、最大8台までのカメラを接続・操作できます。

■ 1度に4台のカメラ画像を表示することができます (☞ 64ページ)

マルチカメラ機能付きだから、4台のカメラの画像を同時にチェックすることができます。

■ かんたん設定※で、カメラの設定を自動で行います (☞ 26ページ)

本製品とカメラをケーブルでつなぐだけで、カメラの設定を自動で行います。

※ パッケージに記載の「無線おまかせってい」、「カメラおまかせってい」を本書では「かんたん設定」と記載します。

■ 推奨ルーター　：当社製カメラコントロールユニット
BL-BR30

■ BL-WV10対応カメラ※　：当社製ホームネットワークカメラ
BL-C10、BL-C30

KX-MS10対応カメラ※　：当社製ホームネットワークカメラ
BL-C30/K

（その他の当社製カメラ、他社製カメラについての動作保証はいたしかねます。）

- 以降、本書ではBL-C30、BL-C30/KをBL-C30と記載します。
- KX-MS10は、テレビに接続して電源を入れるだけで、カメラの画像を見ることができるよう、BL-C30と本製品のかんたん設定を完了しています。

BL-C10、BL-C30はバージョン1.20以上の対応となります※。
それ以前のバージョンでお使いのお客様は、パソコンでパナソニックのウェブサイト(http://panasonic.co.jp/pcc/products/hnetwk/support/) にアクセスして、バージョンアップしてお使いください。

※ 本製品対応カメラのパッケージにはシールを貼っています。
ご確認のうえ、ご購入いただくようお願いいたします。

BL-WV10 対応
ご家庭のテレビでも
かんたんモニタリング！
この製品はバージョン1.20以降

(平成16年12月現在)

もくじ

ご使用の前に

設定／設置する

画像を見る

録画／再生する

設定メニュー

その他

困ったときには

付録

はじめに

本体と付属品

ご使用いただく前に、本体と付属品を確認してください。
万一、不足の品がありましたら、お手数ですがお買い上げの販売店までご連絡ください。

□本体……………………1台	□ACアダプター※………1個 品番：PQLV202JPZ (コード長　約1.8 m)	□ACコード※……………1本 品番：PSJA1095Z (コード長　約55 cm)
□イーサネットケーブル‥1本 (カテゴリー5ストレートケーブル) (ケーブル長　約1 m)	□スタンド…………………1個	□リモコン※………………1個 品番：EUR648055
□映像コード………………1本 (コード長　約1.5 m)	□電池 (単3形)…………2個	☑取扱説明書 (本書)…1冊 □かんたんガイド………1部 □保証書……………………1式 □ご愛用者登録のお願い‥1枚 □電波に関するお願い ラベル……………………1枚

※印の付属品はサービスルート扱いの商品です

ご準備いただくもの

● **ネットワークカメラ**

接続するカメラをご購入ください。
本製品対応のカメラはBL-C10、BL-C30 (ともにバージョン1.20以降) です。
(☞ 3ページ)

● **イーサネットケーブル (カテゴリー5ストレートケーブル)**

本製品とカメラを有線で接続する場合は、カメラを設置する場所により、必要な長さのイーサネットケーブルを、カメラの台数分ご準備ください。

● **SDメモリーカード**

カメラの画像を録画する際に必要です。
SDメモリーカードについての詳細は71ページを参照してください。

取扱説明書［本書］に使用しているマーク／表記について

● ☞………… 参照するページを示します。

●

….. 操作上お守りいただきたい重要事項や禁止事項が書かれています。必ずお読みください。

●

….. 便利な使いかたやアドバイスなどの関連知識を記載しています。

【本書内での表記について】

● 本書では、リモコンのボタンを「キー」、画面上のボタンを「ボタン」と記載します。
● 本書では、(決定) の上下左右キーで項目を選択する操作を「選択する」と記載します。

【商標／登録商標について】

● イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
● SDロゴは商標です。
● QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。
QuickTimeは米国および他の国々で登録された商標です。
● その他記載の会社名・商品名などは、各会社の商標または登録商標です。

安全上のご注意　必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、
必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。**
（下記は絵表示の一例です。）

⃠	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 警 告

ACコードやプラグを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない

禁　止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

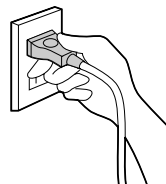
●コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

⚠ 警告

ACコードのプラグのほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります。

- ACコードのプラグをコンセントから抜き、乾いた布でふいてください。

ACコードのプラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

ACコードのプラグを抜き差しするときはプラグ（金属でない部分）を持つ

感電の原因になります。

専用のACアダプター（極性統一形端子）以外は使わない

禁　止

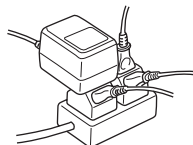
専用以外のACアダプターを使用すると、電圧や＋－の極性が異なっていることがあるため、発煙・火災の恐れがあります。

本製品やACアダプターから煙・異臭・異音が出たり、落下などにより破損したときは使用を中止する

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

- ACアダプターを抜いて販売店へご相談ください。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC 100 V以外での使用はしない

禁　止

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠警告

ぬれた手でACアダプターやACコードの抜き差しはしない

感電の原因になります。

ぬれ手禁止

本製品およびACアダプターをぬらさない

水ぬれ禁止

近くに花びん、コップなどを置かないでください。発火・感電の原因になります。

- ぬらした場合は、ACアダプターを抜いて販売店へご相談ください。

絶対に分解したり、修理・改造をしない

分解禁止

故障したり火災・感電の原因になります。

- 修理は販売店へご相談ください。

雷が鳴ったら本製品やACアダプターに触れない

接触禁止

感電の原因になります。

落下させたり、強い衝撃を加えない

禁　止

けがや故障の原因になります。

心臓ペースメーカーの装着部位から22 cm以上離す

電波によりペースメーカーの作動に影響を与える場合があります。

医用電気機器の近くでの設置や使用をしない

禁　止

手術室、集中治療室、CCU※などには持ち込まないでください。

本製品からの電波が、医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

⚠ 警告

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くには設置しない

禁　止

本製品からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因になります。

本製品内部にクリップやピンなど金属物や異物を入れない

禁　止

感電・故障の原因になります。

電池はネックレスなどの金属物といっしょに持ち運んだり、保管しない

禁　止

液もれ・発熱・破裂の原因になります。

SDメモリーカードは乳幼児の手の届くところに置かない

禁　止

誤って飲み込む恐れがあります。

- 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

単3形電池は、充電・ショート・分解・加熱・火中に投入しない

禁　止

電池破裂によるけがや、液漏れにより眼に入ったり、皮膚に付着すると傷害を起こす原因になります。

- 液が眼に入ったり身体に付着した場合は、水でよく洗い流してください。身体に異常が感じられた場合は、医師に相談してください。

安全上のご注意　必ずお守りください

⚠ 注意

ケーブルを引っぱったり、コネクター部やアンテナ部に無理な力を加えない

禁　止

損傷や感電の原因になることがあります。

水平でない場所や振動の激しい場所には設置しない

禁　止

落下により、けがの原因になることがあります。

火気を近づけない

火気禁止

火災の原因になることがあります。

水、湿気、ほこり、油煙などの多い場所（調理台や加湿器のそばなど）に設置しない

禁　止

感電・ショートや故障の原因になることがあります。

長時間使用しないときや、お手入れするときは、必ずACコードのプラグをコンセントから抜く

電源プラグを抜く

漏電・感電の原因になることがあります。

新しい電池と古い電池を混ぜたり、指定以外の電池を使用しない

禁　止

間違えますと電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因になることがあります。

⚠ 注 意

使えなくなった電池は、すぐにとりだす

液もれの原因になることがあります。

- ●液もれが起きた電池は使用しないでください。
- ●万一、もれた液が身体に付いたら、水でよく洗い流してください。

正しくお使いいただくためのお願い

長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房器の近くなどに設置しないでください。

（変形・変色または故障・誤動作の原因になります。）

本製品は、涼しくて湿気が少なく、なるべく温度が一定の場所に設置してください。

動作温度：0 ℃～40 ℃
動作湿度：20 %～85 %
（ただし、結露なきこと）

ジャック内部に触れないでください。

（故障の原因になります。）

隣接して使用しているラジオから2 m以上離してください。
また、同一コンセントでご使用の場合は、コンセントを別にしてください。

（ラジオに雑音が入ることがあります。）

お手入れの際は、電源を切ってください。

（誤動作の原因になります。）

乾いた柔らかい布でふいてください

（台所用洗剤（中性）を水で薄め、柔らかい布に含ませ、固くしぼってふいてください。）

ベンジンやシンナー、研磨剤などを使って本製品をふかないでください。

（本製品が変形・変色することがあります。）

- 本製品を分解・改造することは法律で禁じられていますので、故障の際は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。
- この装置は、情報処理装置など電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
  取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 停電などの外部要因により生じたデータの損失ならびに、その他直接、間接の損害につきましては、当社は責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

無線通信の使用範囲について

本製品と無線機器の距離が約50 cm～120 m (屋内見通し距離)・約50 cm～600 m (屋外見通し距離) の範囲でお使いください。
(無線機器の性能や周囲の環境によっては、使用範囲が狭くなります。)

次のような機器と同時に本製品を使用しないでください。
(電波が混信したり、誤動作の原因になります。)

- 特定無線局や移動通信機器のある屋内
- 電子レンジの近く
- 盗難防止装置やPOSシステムなど2.4 GHz周波数帯域を利用している機器のある屋内

本製品と無線機器の間に次のような物体があるときは設置場所を変更してください。
(電波を通しにくい物体が周囲にあると通信ができなかったり通信速度が遅くなる場合があります。)

- 鉄のドア
- スチール棚
- コンクリート、石、レンガなどの壁
- 防火ガラス

正しくお使いいただくためのお願い

電波に関するお願い

本製品は、2.4GHz帯の周波数を使用する無線機器です。
全帯域を使用しかつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式は、DS-SS方式およびOFDM方式で、想定干渉距離は40mです。本製品には、それを示すマークが貼付されています。

2.4DS/OF4

本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局(免許を要する無線局) が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかまたは電波の発射を停止したうえ、お客様ご相談センター（☞ 175ページ）にご連絡いただき、混信回避のための処置などについてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、お客様ご相談センター（☞ 175ページ）へお問い合わせください。

同様の内容を記載したラベルを添付しています。
内容をご一読のうえ、見やすい場所に掲示してください。

セキュリティに関するお願い！

本製品をご使用になる場合、下記のような被害を受けることが想定されますので、セキュリティ対策を十分に行ってください。

- ●本製品を経由したお客様プライバシー情報の漏えい
- ●悪意のある第三者による本製品の不正操作
- ●悪意のある第三者による本製品の妨害や停止

なお、設定情報や利用情報など、すべての情報は暗号化されていないことをご理解のうえ、ご使用ください。

行うべきセキュリティ対策は下記のとおりです。

■ 当社が関与できない外部業者に修理を依頼するときは、必要に応じて個人情報をバックアップしたあと、本製品を初期化してお買い上げ時の設定に戻してください。(☞ 123ページ)

■ 他人に譲渡するときは、必要に応じて個人情報をバックアップしたあと、本製品を初期化してお買い上げ時の設定に戻してください。(☞ 123ページ)

■ 本製品を廃棄するときは、本製品を初期化してお買い上げ時の設定に戻したり(☞ 123ページ)、あるいは、電気的消去や物理的破壊などの手段により本製品上の情報を抹消してください。

■ 本製品またはカメラへアクセスするためのユーザー名／パスワード、本製品に対する設定情報は、お客様の責任管理下にあります。(☞ 93ページ)
それらの情報に関わる利用者または利用者グループ以外の第三者が、参照、更新、削除、複写できないようにアクセスを制限してください。

■ お客様の利用情報（録画した動画・静止画など）は、お客様の責任管理下にあります。それらの利用者情報に関わる利用者または利用者グループ以外の第三者が、参照、更新、削除、複写できないようにアクセスを制限してください。

■ 本製品を、修理、廃棄、譲渡する場合には、本製品に挿入されているSDメモリーカードは、取りはずしてください。

プライバシー、肖像権について

■ カメラの設置や利用につきましては、ご利用されるお客様の責任で被写体のプライバシー、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。

※「プライバシーは、私生活をみだりに公開されないという法的保障ないし権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。

正しくお使いいただくためのお願い

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するお願い！
お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です

無線LANでは、イーサネットケーブルを使用するかわりに、電波を利用してパソコンなどと無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にネットワーク接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

■ 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、

- ● ID、パスワード、通信画像やEメール

などの通信内容を盗み見られる可能性があります。

■ 不正に侵入される

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、

- ● 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- ● 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- ● 傍受した通信内容を書き替えて発信する（改ざん）
- ● コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANアダプター、ホームネットワークカメラやホームネットワークステーションをはじめとする無線LAN製品（以下、無線LAN製品という）は、これらの問題に対応するためのセキュリティに関する設定が用意されていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行い使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LAN製品をご使用になる前に、必ず無線LAN製品のセキュリティに関する設定を取扱説明書に従って行ってください。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティに関する設定が破られることもありえますので、ご理解のうえ、ご使用ください。
セキュリティに関する設定について、お客様ご自分で対処できない場合には、お客様ご相談センター(☞ 175ページ)までお問い合わせください。

当社では、お客様がセキュリティに関する設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、無線LAN製品を使用することをおすすめします。
セキュリティに関する設定を行わない、あるいは、無線LANの仕様上やむをえない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社では、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

上記文掲載URL:
http://panasonic.co.jp/pcc/products/hnetwk/support/jeita_info.html

パナソニック コミュニケーションズ株式会社

パソコンでカメラを操作する際の注意点

カメラはルーターに接続したパソコンからも操作／設定することができます※。
パソコンからカメラの登録ユーザーごとに使える機能を制限することができますが、本製品で使用しているユーザーに対して機能制限の設定を変更しないでください。
変更すると、「センサー利用する」に設定していてもセンサー利用ができないなど、正常に動作しない場合があります。

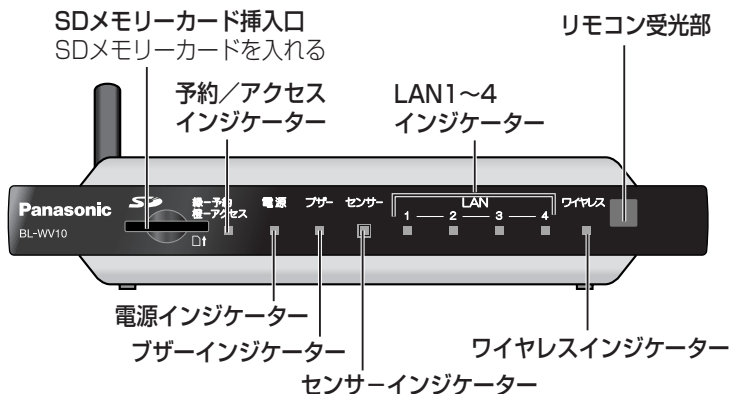
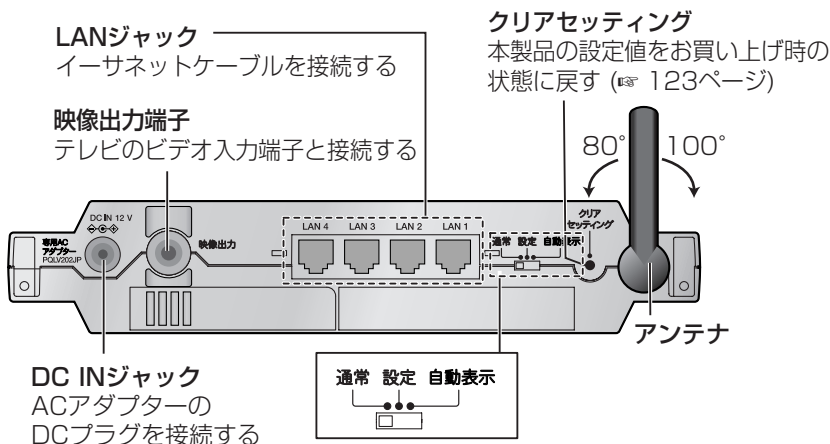
※ パソコンからカメラに接続するには、すでにカメラに設定されているユーザー名、パスワードを本製品に設定する、または新規でユーザー名、パスワードを作成して本製品に設定してから、かんたん設定を行ってください。(☞ 125ページ)

各部のなまえとはたらき

前面／背面

【前面】

【背面】

通常　設定　自動表示

モード切換スイッチ

切り換えることで各機能をご利用になれます。
モードを切り換えたあと、電源を入れ直すとモードが切り換わります。

- 通常：カメラ画像のモニタリング、録画など常用するときに使用します。
- 設定：かんたん設定をするときに使用します。
- 自動表示：登録カメラのモニタリング画面を順次表示します。

■本体インジケーターについて

インジケーターは、本製品の動作状態やネットワークの状況を表示します。

	インジケーター	点灯	表示内容
かんたん設定時	電源	オレンジ (点滅)	かんたん設定モードで動作中です。
	ワイヤレス	緑	BL-BR30とのかんたん設定が完了しました。またはカメラとのかんたん設定中です。
		緑 (点滅)	カメラとのかんたん設定が完了しました。
通常動作中	予約/アクセスインジケーター	緑	タイマー予約が「入」の状態です。
		緑 (点滅)	実行できる予約がない場合、SDメモリーカードに空きがないなどの理由で、タイマー予約を「入」にできない場合に、約6秒間点滅します。
		消灯	タイマー予約が「切」の状態です。
		オレンジ (点滅)	SDメモリーカードからデータを読み込み時、またはデータを書き込み時に点滅します。
	電源	緑	電源が入っています。
		赤 (点滅)	起動時の自己診断で異常が検知されました。
		オレンジ (点滅)	自己診断中です。
	ブザー	緑	ブザー機能が「入」の状態です。
		消灯	ブザー機能が「切」の状態です。
	センサー	オレンジ	センサー検知機能が「オン」の状態です。
		オレンジ (点滅)	●カメラがセンサー検知したときは、0.5秒間隔で点滅します。 ●センサー検知後は、1秒間隔で点滅します。(点滅を解除するには ☞ 68ページ)
		消灯	センサー検知機能が「オフ」の状態です。
	LAN1～4	緑	有線カメラと接続しています。
	ワイヤレス	緑	無線カメラと接続しています。

各部のなまえとはたらき

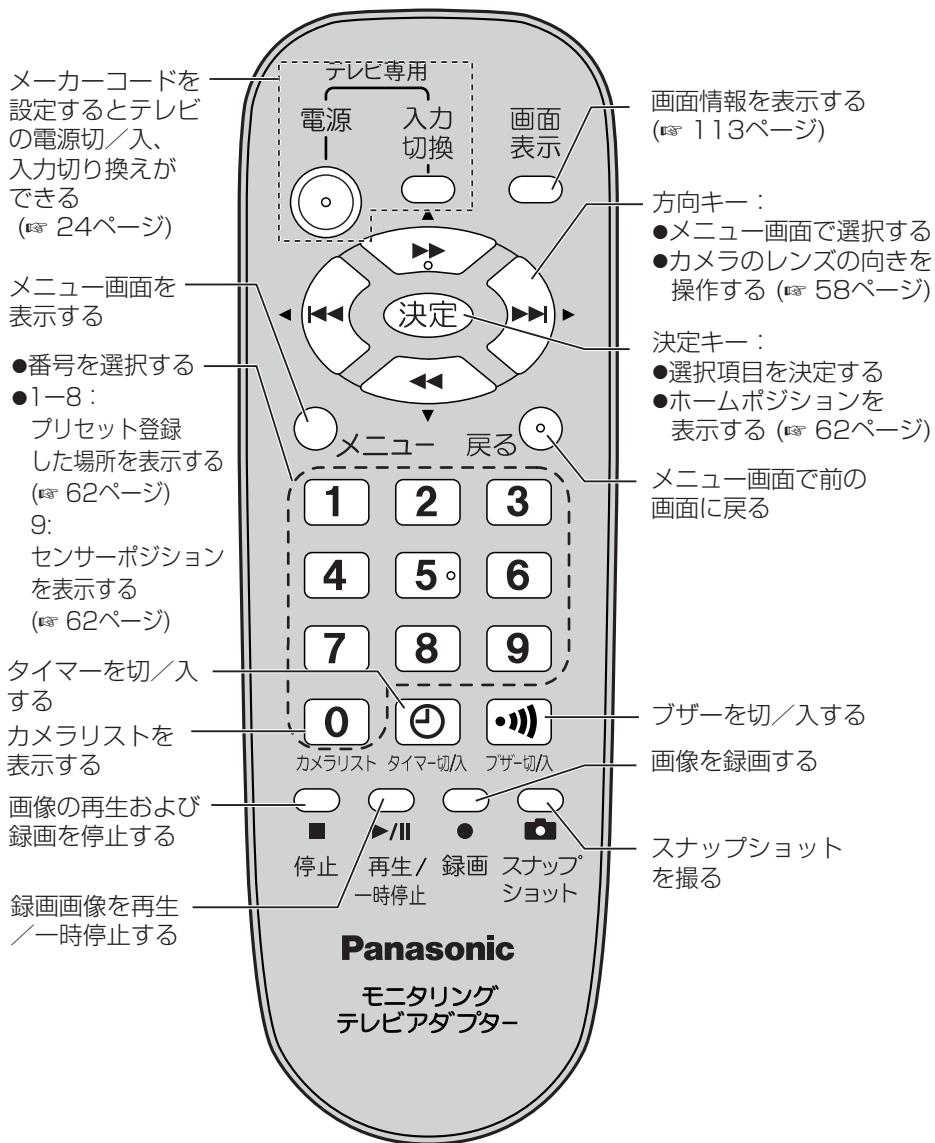
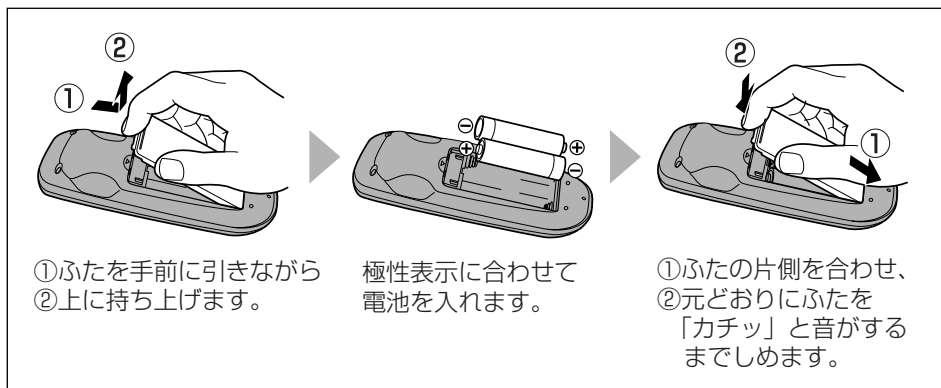
リモコン

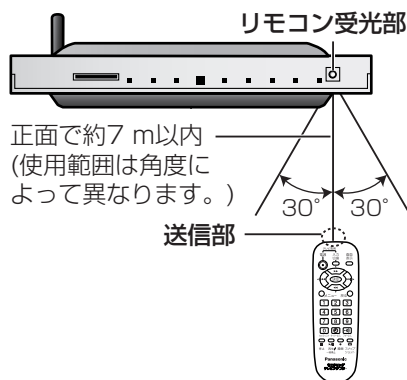
■ リモコンの準備

電池を入れる

①ふたを手前に引きながら
②上に持ち上げます。

極性表示に合わせて
電池を入れます。

①ふたの片側を合わせ、
②元どおりにふたを
「カチッ」と音がする
までしめます。

リモコンの使用範囲

リモコンはリモコン受光部から約7 m以内、左右30°以内の範囲で使用可能です。

- 受光部とリモコンの間に障害物を置かないでください。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てないでください。
- 受光部と送信部にほこりや汚れが付くとリモコンの使用範囲が短くなることがありますので、きれいに拭いておいてください。

- 本製品をラックに入れて使用するときは、ラックのガラス扉の厚さや色などによってリモコンの使用範囲が短くなることがあります。また、電池の消耗の度合いによってもリモコンの使用範囲が短くなることがあります。

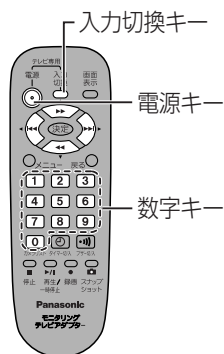
各部のなまえとはたらき

リモコンの設定をする

本製品のリモコンでテレビの電源、入力切換を操作できます。
テレビを操作するときは、リモコンをテレビに向けて操作してください。
Panasonic製以外のテレビをご使用の場合は、リモコンにメーカーコードを設定してください。

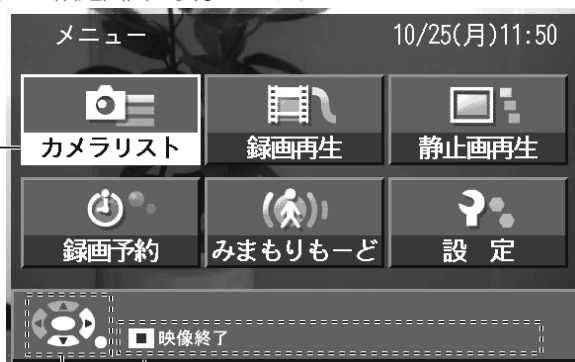
「電源」キーを押しながら、数字キー (2桁) を押す

● リモコンにメーカーコードが設定されます。

メーカー	コード	メーカー	コード
パナソニック	01	東芝	11
	02	NEC	12
	03		13
サンヨー	04	パイオニア	14
	05	日立	15
シャープ	06	フナイ	16
	07	JVC	17
	08	三菱	18
富士通	09		19
ソニー	10	アイワ	20

- 同一メーカーでコードが複数あって、コードを設定してもリモコンでのテレビ操作ができない場合は、他のコードを設定してください。
- 上記メーカー以外のテレビをご使用の場合は、テレビの電源の切／入、入力切換はテレビのリモコンを使って行ってください。
- 電池を取りはずした状態で(電池交換時など) 約30分以上経過すると、リモコン設定はお買い上げ時の設定に戻ります。
  その場合は、再度メーカーコードを設定し直してください。

■項目の選択方法

例）メニュー画面での選択

リモコンの（決定）で項目を選択し（決定）を押すと
それぞれの設定画面が表示されます。

それぞれの画面ごとに使用可能なキーと
そのキーを押した場合の動作 (操作ガイド) が
表示されます。

それぞれの画面ごとに、使用可能なキーが白抜きで
表示さます。

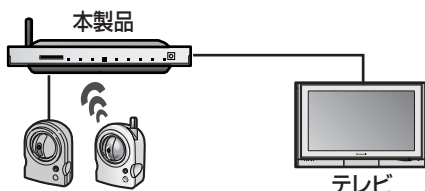
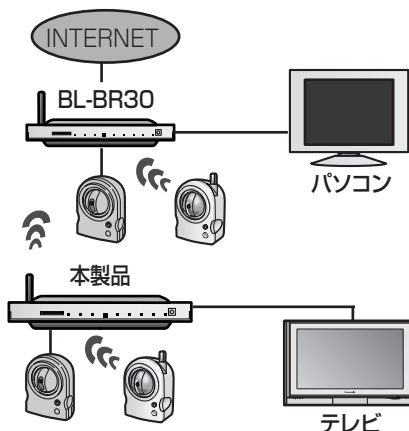
カメラを接続する

ご使用の環境について

本製品を使用するには、ネットワーク情報やユーザー名パスワードなどが設定されたカメラを、本製品のカメラリストに登録する必要があります。
これらの設定を自動で行うのが「かんたん設定」です。

本製品とカメラのかんたん設定は、接続方法によって3通りの場合があり、それぞれ手順が異なります。

接続するカメラには、グループカメラとグループ外カメラがあります。
(☞ 27ページ)

●カメラと直接接続して使用する場合 (☞ 28ページ)

●カメラコントロールユニットBL-BR30と接続する場合 (☞ 37ページ)

- 本製品と無線で接続できるルーターは、Panasonic製BL-BR30のみです。
  上記以外のルーターは、有線で接続してください。

●BL-BR30以外のルーターと接続する場合 (☞ 46ページ)

- かんたん設定中は、テレビ画面で設定進行状況を確認することができます。
  また、かんたん設定終了をブザー音やワイヤレスインジケーターで確認することもできます。

■ グループカメラ、グループ外カメラについて

本書では、カメラを接続方法によってグループカメラとグループ外カメラに分けて扱います。

グループカメラは、カメラ画像のモニタリングのみではなく、カメラの詳細な設定などが可能であり、本製品のさまざまな機能を利用できます。

グループ外カメラは、パソコンなどの他の機器でカメラの設定を行って使用することを想定しており、本製品の機能が制限される場合があります。

INTERNET

インターネット経由で接続するカメラはグループ外カメラ

ルーター

ユーザー名：AAAAAA
パスワード：BBBBBB

ユーザー名：WWWWWW
パスワード：XXXXXX

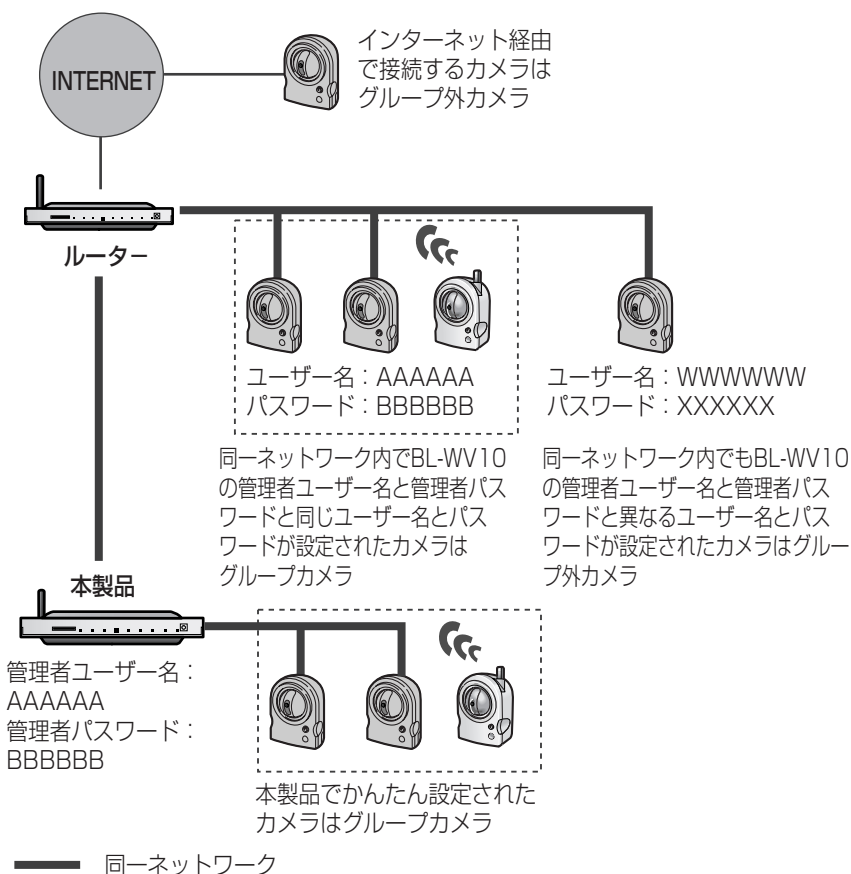
同一ネットワーク内でBL-WV10の管理者ユーザー名と管理者パスワードと同じユーザー名とパスワードが設定されたカメラはグループカメラ

同一ネットワーク内でもBL-WV10の管理者ユーザー名と管理者パスワードと異なるユーザー名とパスワードが設定されたカメラはグループ外カメラ

本製品

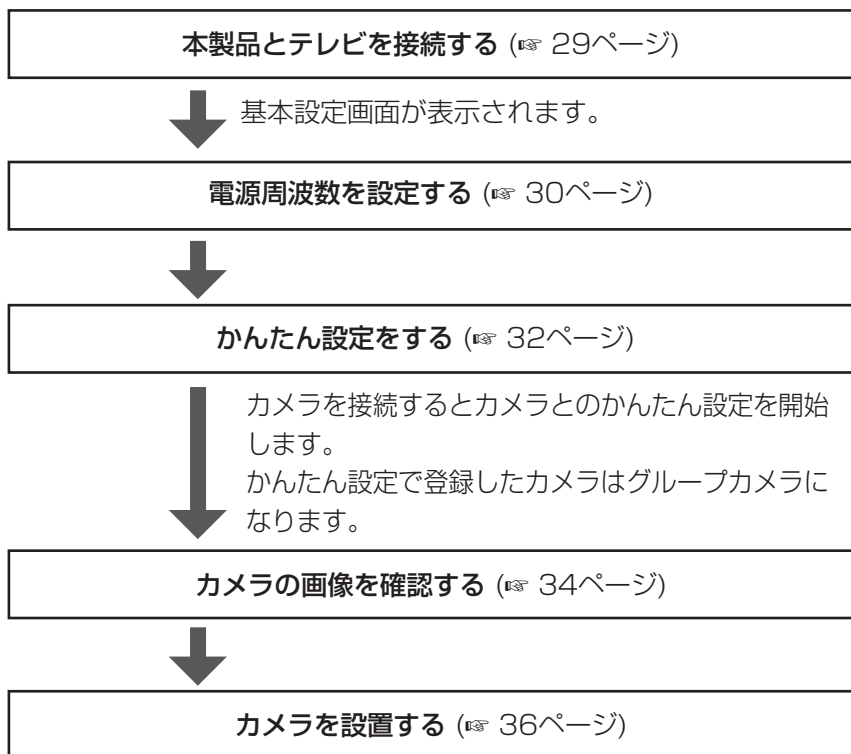
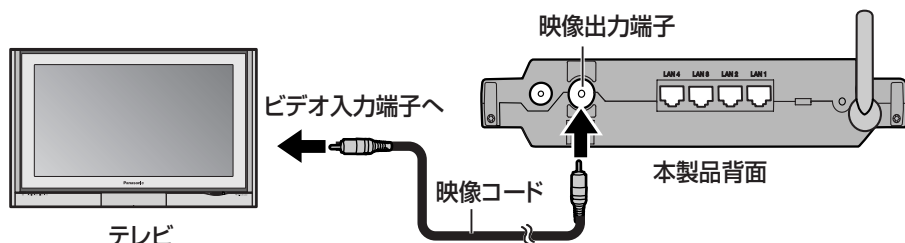
管理者ユーザー名：AAAAAA
管理者パスワード：BBBBBB

本製品でかんたん設定されたカメラはグループカメラ

同一ネットワーク

- 本製品で、カメラ画像をモニタリングできるのは、グループカメラ、グループ外カメラ合わせて最大8台までです。
- BL-C10、BL-C30ともにバージョンが1.20より前の場合は、「旧ファームを搭載したカメラです」と表示され、グループ外カメラとして登録されます。

カメラを接続する

かんたん設定をする（カメラと直接接続して使用する場合）

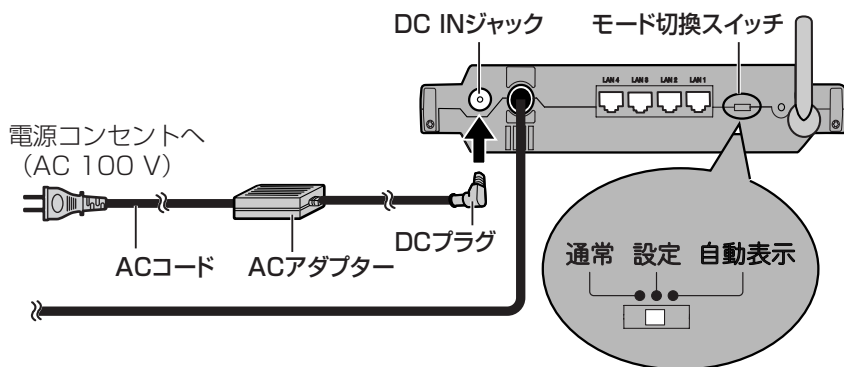
カメラの登録は、「かんたん設定」機能を利用して自動で登録できます。

■本製品とテレビを接続する

1 映像コードで本製品の映像出力端子とテレビのビデオ入力端子 (黄色) を接続する

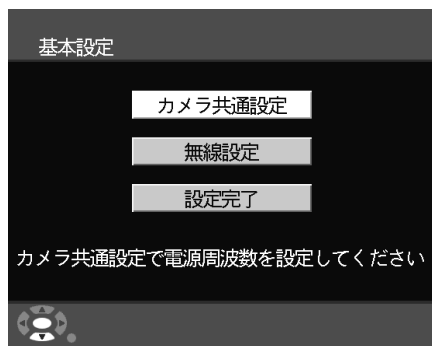
2 テレビの電源を入れる

3 テレビの入力切換を「ビデオ」にする

4 本製品背面のモード切換スイッチが「設定」になっていることを確認する

5 ACアダプターのDCプラグを、本製品のDC INジャックに差し込む

6 ACアダプターにACコードをつなぎ、コンセントに差し込む

カメラを接続する

●テレビ画面に基本設定画面が表示されます。

● 基本設定画面は、かんたん設定を完了させると以降表示されません。
設定内容は、設定メニューで確認、変更ができます。(☞ 90ページ)
基本設定画面を再度表示するには、本製品をお買い上げ時の設定に戻す必要があります。(☞ 123ページ)

■電源周波数を設定する

東日本地区でお使いのお客さまは、設定変更の必要はありません。
手順5～6を行ってください。
西日本地区のお客さまは手順1～6を行ってください。

お買い上げ状態の設定でカメラをかんたん設定で登録すると、カメラの電源周波数は50 Hzに設定されます。西日本地区でお使いのお客様は、画面ちらつきの原因となりますので、電源周波数の設定を60 Hzに切り換えてから、かんたん設定を行ってください。

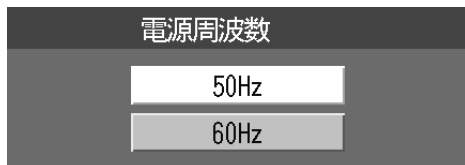
1 基本設定画面 (☞ 上記) で「カメラ共通設定」を選択し(決定)を押す

●カメラ共通設定画面が表示されます。

カメラ共通設定

IPアドレス	192.168.0.131
管理者ユーザー名	
管理者パスワード	
電源周波数	50Hz

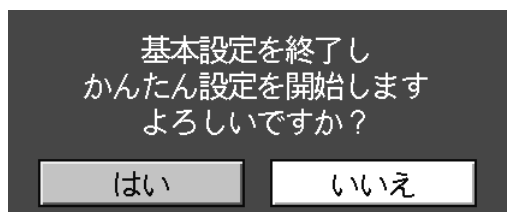
2 「電源周波数」を選択し (決定) を押す

●電源周波数設定画面が表示されます。

3 60 Hzを選択し (決定) を押す

4 戻る◯ を押す

●基本設定画面に戻ります。

5 「設定完了」を選択し (決定) を押す

●かんたん設定開始確認画面が表示されます。

6 「はい」を選択し (決定) を押す

●かんたん設定を開始します(☞ 32ページ)

● カメラ共通設定画面でIPアドレスを変更すると、かんたん設定でグループカメラで登録できなくなりますので、変更しないでください。

カメラを接続する

■かんたん設定をする

基本設定完了後、ネットワークと無線の「かんたん設定」を自動で開始します。

- 設定は約2分で完了します。設定が完了すると、画面に「設定完了」と表示され、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

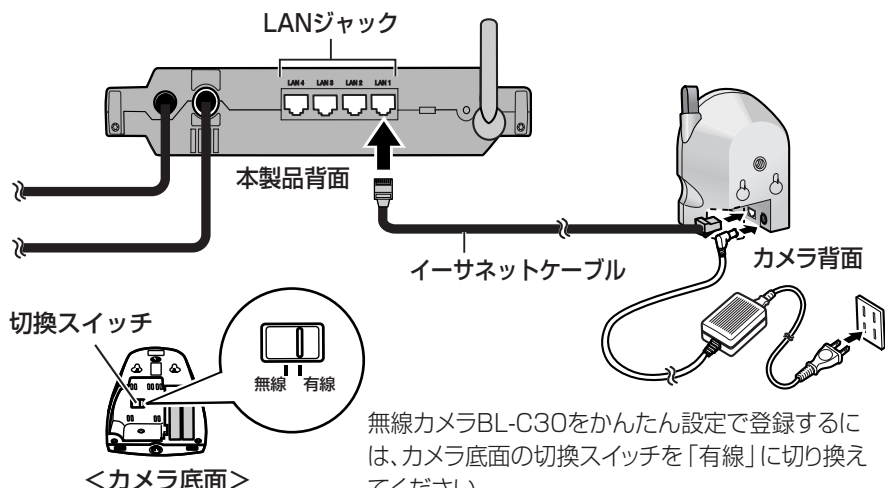
かんたん設定	
本体ネットワーク ルーターなし	設定完了
無線 対応ルーターなし	設定完了
カメラ1	未登録
カメラ2	未登録
カメラ3	未登録

ネットワークと無線のかんたん設定が完了すると「設定完了」と表示されます。

1 カメラを付属のイーサネットケーブルで本製品のLANジャック1〜4のいずれかに接続する

2 カメラの電源を入れる

- カメラとの「かんたん設定」を開始します。

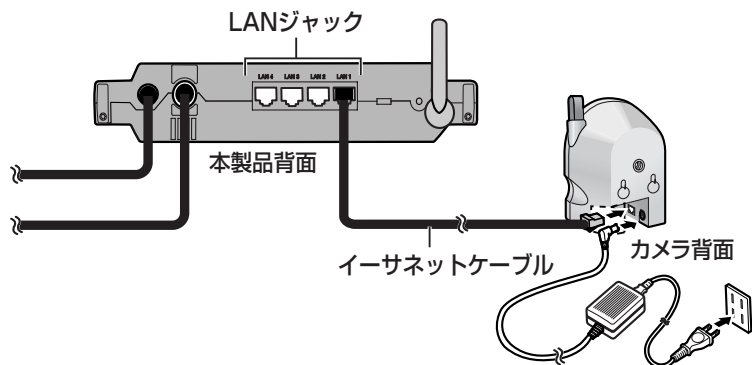
無線カメラBL-C30をかんたん設定で登録するには、カメラ底面の切換スイッチを「有線」に切り換えてください。

- すでにカメラにユーザー名、パスワードが設定されている場合は、かんたん設定で本製品のユーザー名、パスワードに書き換えることができません。グループカメラとして登録するには、カメラを初期設定値に戻してから(☞ 180ページ) 接続してください。
- カメラは電源投入後20分間、かんたん設定を行うことができます。カメラを認識しない場合、または画面下に「カメラを再起動しています」の表示が出て2分以上経過しても、カメラの登録が始まらない場合は、カメラを初期設定値に戻して (☞ 180ページ)、再度接続してください。

- カメラを登録する際にカメラを再起動する場合があり、登録に時間がかかることがあります。カメラの再起動に1～2分かかる場合もあります。
- かんたん設定中は、ワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

- 登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点滅します。

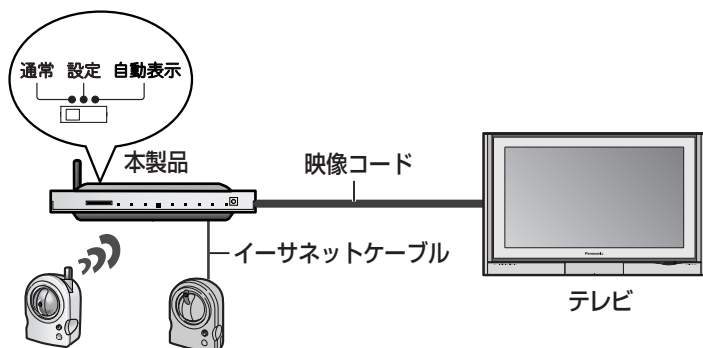
カメラの登録が完了すると「登録完了」と表示されます。

3 カメラを追加登録する場合は、イーサネットケーブルを追加するカメラにつなぎ直して、カメラの電源を入れる

- 登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが登録したカメラの台数分、緑点滅します。

4 すべてのカメラを手順3の操作で登録後、本製品の電源を切る

カメラを接続する

■カメラの画像を確認する

1 かんたん設定で登録したすべてのカメラを接続して、電源を入れる

- 無線カメラBL-C30を無線接続するときは、イーサネットケーブルを抜いて、カメラの切換スイッチを「無線」に切り換えてから、カメラの電源を入れ直してください。

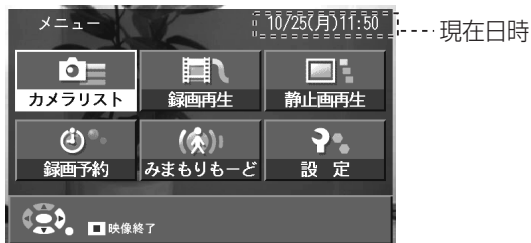
<カメラ底面>

2 本製品背面のモード切換スイッチを「通常」に切り換えて電源を入れる

- 起動画面表示後、カメラのモニタリング画面が表示されます。

⇩

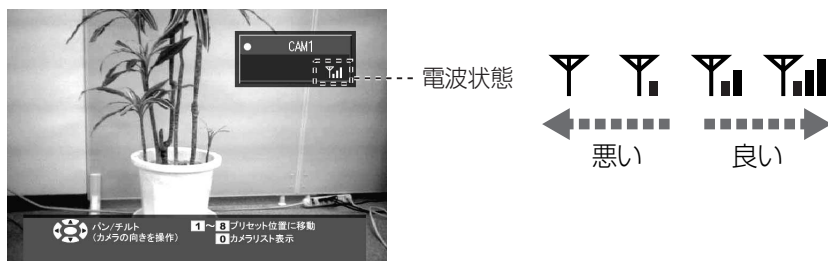
- カメラ起動時は、カメラリスト1に登録されているカメラのモニタリング画像が表示されます。複数台のカメラを登録した場合は、マルチカメラ画面で(☞ 64ページ) 登録したすべてのカメラのモニタリング画面が表示されることを確認してください。
- 時刻自動取得コマンドに対応しているカメラが1台も起動していない場合は、起動画面表示後、「時刻合わせ」画面が表示されます。
  キーで現在日時を選択して 決定 を押してください。

- カメラの画像が表示されない場合は、接続を確認して再度カメラの電源を入れ直してください。それでも表示されない場合は、カメラを初期設定値に戻してから (☞ 180ページ) 再度かんたん設定で登録し直してください。
- 取得した時刻は ◯メニュー を押して表示されるメニュー画面の右上に表示されます。取得した時間が間違っている場合は、手動で時刻を設定する必要があります。設定メニューの「時刻合わせ」画面で時刻を設定してください。(☞ 91ページ)

カメラを接続する

■カメラを設置する

カメラの設置は、「カメラの画像を確認する」(☞ 34ページ) でカメラの画像が表示されるのを確認してから行ってください。

1 カメラを設置場所に設置する

- カメラの設置はカメラに付属の各設置ガイドに従って行ってください。
- モニタリング画面表示中に [画面表示] を押すと画面情報が表示されます。無線カメラBL-C30を設置するときは、画面情報で電波状態を確認してください。電波状態が悪いとカメラとの接続ができない場合や、動画表示が停止することがあります。

かんたん設定をする (カメラコントロールユニットBL-BR30と接続して使用する場合)

本製品とテレビ、BL-BR30を接続する (☞ 38ページ)

基本設定画面が表示されます。

電源周波数を設定する (☞ 39ページ)

ユーザー名とパスワードを設定する (☞ 40ページ)

- カメラをすでにBL-BR30と接続して使用している場合は、カメラに設定されているユーザー名、パスワードを本製品の管理者ユーザー名、管理者パスワードに設定してから、かんたん設定を行ってください。設定しないでかんたん設定を行うと、登録したカメラは、グループ外カメラとして登録されます。
- 管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定しないで、お買い上げ時の状態のカメラを登録すると、かんたん設定時に自動でユーザー名、パスワードを設定します。
- 自動でユーザー名、パスワードを設定されたカメラの画像を、パソコンから見ることはできません。

かんたん設定をする (☞ 41ページ)

BL-BR30、カメラとのかんたん設定をします。

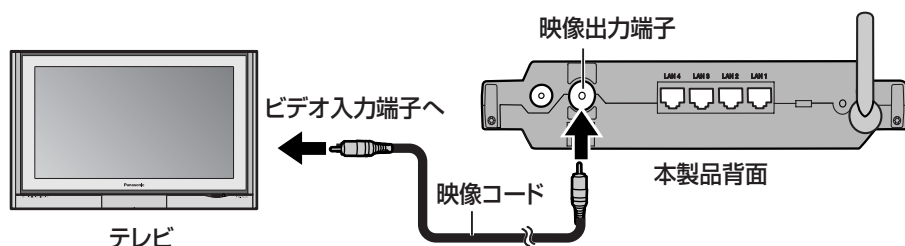
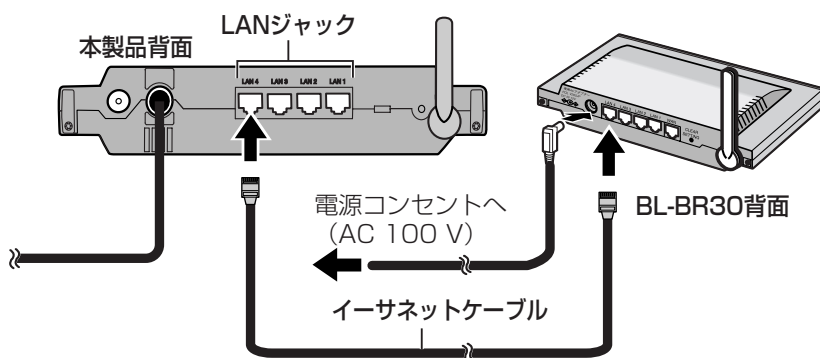
カメラの画像を確認する (☞ 43ページ)

BL-BR30とカメラを設置する (☞ 45ページ)

カメラ画像をネットワークに公開するには (☞ 126ページ)

カメラを接続する

■本製品とテレビ、BL-BR30を接続する

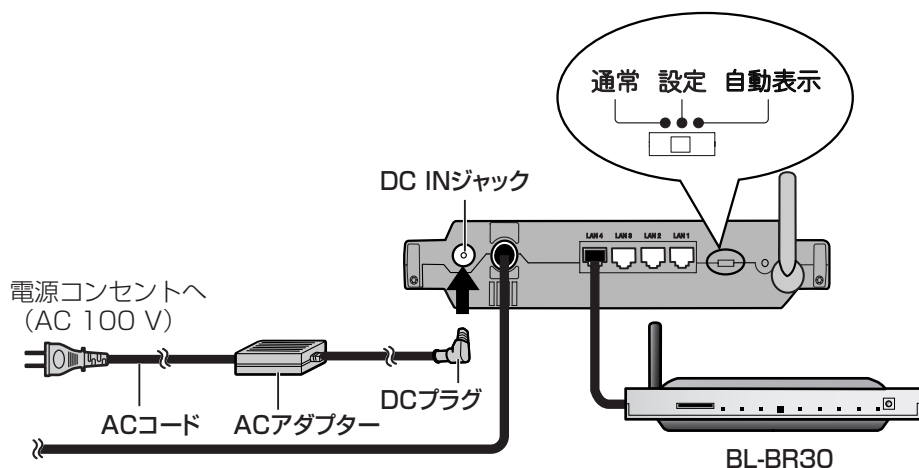
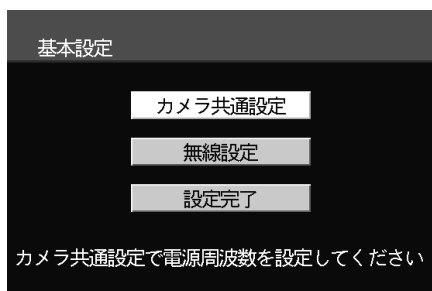
1 映像コードで本製品の映像出力端子とテレビのビデオ入力端子 (黄色) を接続する

2 BL-BR30を付属のイーサネットケーブルで本製品のLANジャック1～4のいずれかに接続し、BL-BR30の電源を入れる

- BL-BR30と接続して使用しているカメラの電源は、すべて入れておいてください。

3 テレビの電源を入れる

4 テレビの入力切換を「ビデオ」にする

5 本製品背面のモード切換スイッチが「設定」になっていることを確認する

6 ACアダプターのDCプラグを本製品のDC INジャックに差し込む

7 ACアダプターにACコードをつなぎ、コンセントに差し込む

●テレビ画面に基本設定画面が表示されます。

● 基本設定画面は、かんたん設定を完了させると以降表示されません。
設定内容は、設定メニューで確認、変更ができます。(☞ 90ページ)
基本設定画面を再度表示するには、本製品をお買い上げ時の設定に戻す必要があります。(☞ 123ページ)

■ 電源周波数を設定する

西日本地区でお使いのお客さまは、30～31ページの手順1～4までの操作を行ってください。間違えて手順5～6の「設定完了」の操作を行うと、自動でかんたん設定を開始します。ユーザー名、パスワードを設定する (☞ 40ページ) 場合は、お買い上げ時の設定に戻して (☞ 123ページ)、再度設定をやり直してください。

■ユーザー名とパスワードを設定する(カメラの画像をパソコンで見る場合)

設定変更が必要ない場合は、手順7〜8を行って基本設定を完了してください。

- お買い上げ時状態のカメラには管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定しなくても自動でユーザー名、パスワードが設定されます。
  ただし、管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定しない場合には、カメラの画像をパソコンから見ることはできません。
  カメラの画像をパソコンで見るには、管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定してから、かんたん設定をする必要があります。

1 基本設定画面 (☞ 39ページ) で「カメラ共通設定」を選択し (決定) を押す

- カメラ共通設定画面が表示されます。

カメラ共通設定

IPアドレス	192.168.0.131
管理者ユーザー名	
管理者パスワード	
電源周波数	50Hz

2 「管理者ユーザー名」を選択し (決定) を押す

- 文字入力画面が表示されます。

3 ユーザー名を入力する (文字入力方法 ☞ 112ページ)

4 「管理者パスワード」を選択し (決定) を押す

- 文字入力画面が表示されます。

5 パスワードを入力する (文字入力方法 ☞ 112ページ)

6 戻る◯ を押す

●基本設定画面に戻ります。

7 「設定完了」を選択し (決定) を押す

●かんたん設定開始確認画面が表示されます。(☞ 31ページ)

8 「はい」を選択し (決定) を押す

●かんたん設定を開始します。

● 管理者ユーザー名、管理者パスワードは半角英数字で6文字以上15文字以下で設定してください。ただし「”」、「<」、「>」、「:」、「&」は使用できません。

■ かんたん設定をする

基本設定完了後、BL-BR30との「かんたん設定」を自動で開始します。

●設定は約2分で完了します。設定が完了すると、画面に「設定完了」と表示され、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

かんたん設定

本体ﾈｯﾄﾜｰｸ	取得中
無線	取得中
カメラ1	未登録
カメラ2	未登録
カメラ3	未登録

かんたん設定

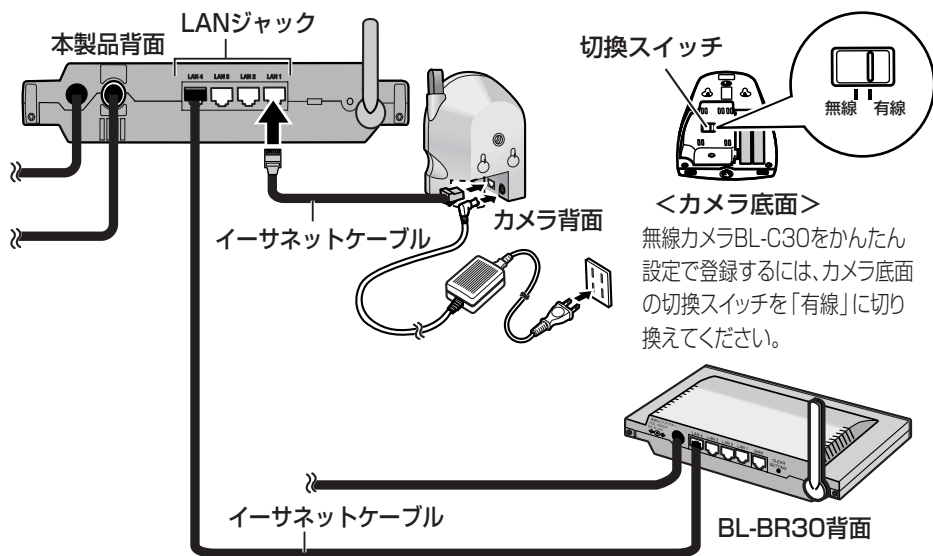
本体ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾙｰﾀｰから取得	設定完了
無線 対応ﾙｰﾀｰから取得	設定完了
カメラ1	未登録
カメラ2	未登録
カメラ3	未登録

BL-BR30とのかんたん設定が完了すると「設定完了」と表示されます。

●BL-BR30に接続されて設定が完了しているカメラは、本製品に自動で登録されます。

カメラを接続する

1 カメラを付属のイーサネットケーブルで本製品または BL-BR30のLANジャック1～4のいずれかに接続する

●本製品とBL-BR30は接続したままカメラを接続してください。

2 カメラの電源を入れる

●カメラとの「かんたん設定」を開始します。

- カメラを登録する際にカメラを再起動する場合があり、登録に時間がかかることがあります。カメラの再起動に1～2分かかる場合もあります。
- かんたん設定中はワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

●登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点滅します。

カメラの登録が完了すると「登録完了」と表示されます。

- カメラは電源投入後20分間、かんたん設定を行うことができます。
  カメラを認識しない場合、または画面下に「カメラを再起動しています」の表示が出て2分以上経過しても、カメラの登録が始まらない場合は、カメラを初期設定値に戻して (☞ 180ページ)、再度接続してください。

3 カメラを追加登録する場合は、イーサネットケーブルを追加するカメラにつなぎ直してカメラの電源を入れる

- 登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが登録したカメラの台数分、緑点滅します。

4 すべてのカメラを手順3の操作で登録後、本製品の電源を切る

- ユーザー名とパスワードが本製品と一致するカメラは、グループカメラとしてカメラリストに自動登録されます。(一致しないカメラは、グループ外カメラとして登録されます。)
- グループ外カメラとして登録されたカメラは、本製品のカメラ設定でユーザー名、パスワードを設定し直してもグループカメラには変更されません。
グループカメラとして登録し直すには、55ページを参照してください。

■カメラの画像を確認する

1 BL-BR30に接続されているイーサネットケーブルをはずし、電源を入れ直す

2 かんたん設定で登録したすべてのカメラを接続して、電源を入れる

- 無線カメラBL-C30を無線接続するときは、イーサネットケーブルを抜いて、カメラの切換スイッチを「無線」に切り換えてから、カメラの電源を入れ直してください。

<カメラ底面>

3 本製品背面のモード切換スイッチを「通常」に切り換えて電源を入れる

●起動画面表示後、カメラのモニタリング画面が表示されます。

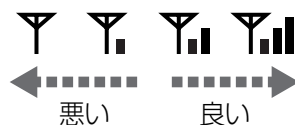
- カメラ起動時は、カメラリスト1に登録されているカメラのモニタリング画像が表示されます。複数台のカメラを登録した場合は、マルチカメラ画面で(☞ 64ページ) 登録したすべてのカメラのモニタリング画面が表示されることを確認してください。
- 時刻自動取得コマンドに対応しているカメラが1台も起動していない場合は、起動画面表示後、「時刻合わせ」画面が表示されます。
  キーで現在日時を選択して 決定 を押してください。

- カメラの画像が表示されない場合は、接続を確認して再度カメラの電源を入れ直してください。それでも表示されない場合は、カメラを初期設定値に戻してから (☞ 180ページ) 再度かんたん設定で登録し直してください。
- 取得した時刻は◯メニュー を押して表示されるメニュー画面の右上に表示されます。取得した時間が間違っている場合は、手動で時刻を設定する必要があります。設定メニューの「時刻合わせ」画面で時刻を設定してください。(☞ 91ページ)

■ BL-BR30とカメラを設置する

カメラの設置は、「カメラの画像を確認する」(☞ 43ページ) でカメラの画像が表示されるのを確認してから行ってください。

1 BL-BR30、カメラを設置場所に設置する

- カメラの設置は、カメラに付属の設置ガイドに従って行ってください。
- モニタリング画面表示中に 画面表示 を押すと画面情報が表示されます。無線カメラBL-C30を設置するときは、画面情報で電波状態を確認してください。電波状態が悪いとカメラとの接続ができない場合や、動画表示が停止することがあります。

カメラを接続する

かんたん設定をする（BL-BR30以外のルーターと接続して使用する場合）

本製品とテレビ、ルーターを接続する（☞ 47ページ）

基本設定画面が表示されます。

電源周波数を設定する（☞ 48ページ）

カメラのIPアドレスを設定する（☞ 49ページ）

ユーザー名とパスワードを設定する（☞ 40ページ）

- カメラをすでにルーターと接続して使用している場合は、カメラに設定されているユーザー名、パスワードを本製品に設定してから、かんたん設定を行ってください。設定しないで、かんたん設定を行うと、登録したカメラはグループ外カメラとして登録されます。
- お買い上げ時状態のカメラを登録する場合は、かんたん設定時に自動でユーザー名、パスワードを設定します。管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定する必要はありません。

かんたん設定をする（☞ 50ページ）

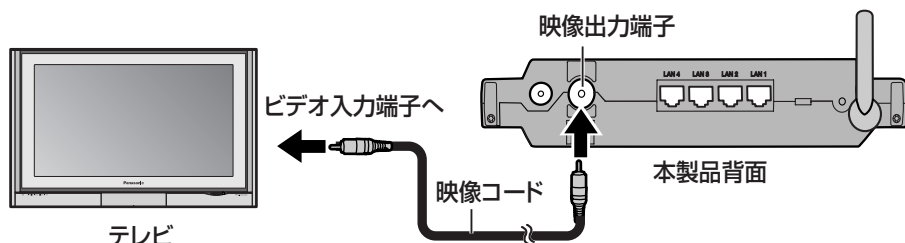
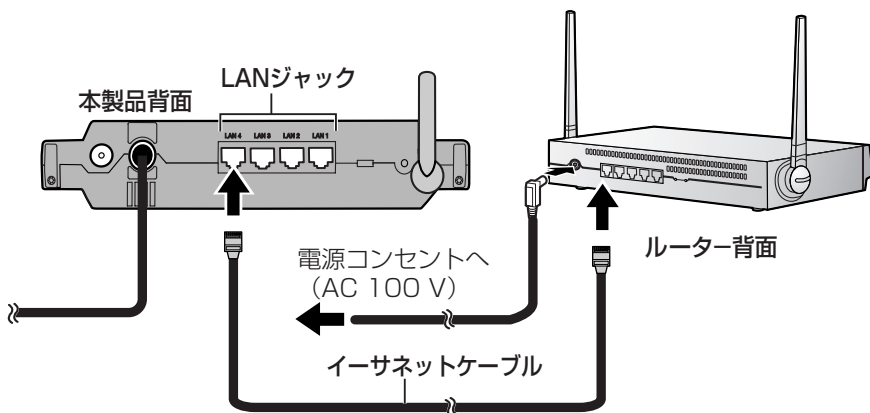
ルーターとカメラを接続するとかんたん設定を開始します。

カメラの画像を確認する（☞ 52ページ）

ルーターとカメラを設置する（☞ 54ページ）

カメラ画像をネットワークに公開するには（☞ 126ページ）

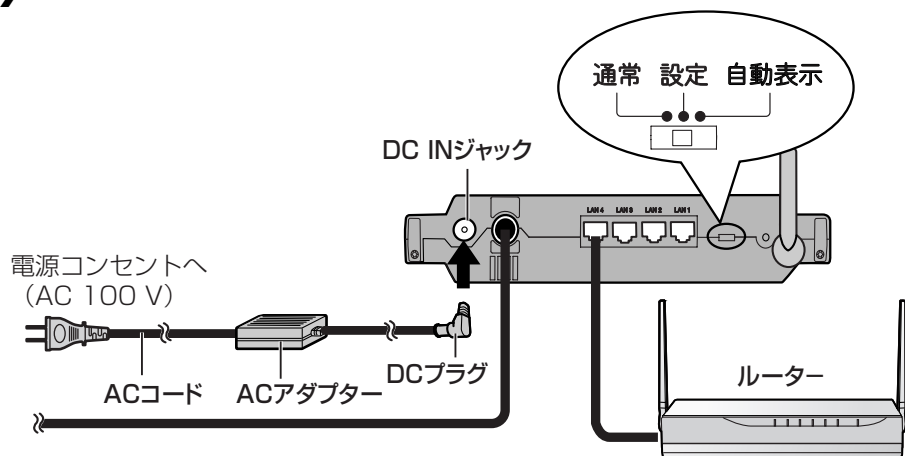
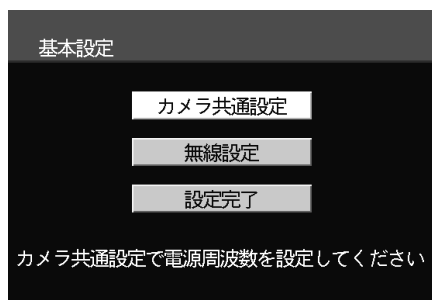
■本製品とテレビ、ルーターを接続する

1 映像コードで本製品の映像出力端子とテレビのビデオ入力端子 (黄色) を接続する

2 ルーターを付属のイーサネットケーブルで本製品のLANジャック1～4のいずれかに接続し、ルーターの電源を入れる

3 テレビの電源を入れる

4 テレビの入力切換を「ビデオ」にする

5 本製品背面のモード切換スイッチが「設定」になっていることを確認する

6 ACアダプターのDCプラグを本製品のDC INジャックに差し込む

7 ACアダプターにACコードをつなぎ、コンセントに差し込む

●テレビ画面に基本設定画面が表示されます。

● 基本設定画面は、かんたん設定を完了させると以降表示されません。
設定内容は、設定メニューで確認、変更ができます。(☞ 90ページ)
基本設定画面を再度表示するには、本製品をお買い上げ時の設定に戻す必要があります。(☞ 123ページ)

■電源周波数を設定する

西日本地区でお使いのお客さまは、30〜31ページの手順1〜4までの操作を行ってください。間違えて手順5〜6の「設定完了」の操作を行うと、自動でかんたん設定を開始します。カメラのIPアドレスを設定する (☞ 49ページ) ユーザー名、パスワードを設定する (☞ 50ページ) 場合は、お買い上げ時の設定に戻して (☞ 123ページ)、再度設定をやり直してください。

■カメラのIPアドレスを設定する

1 基本設定画面 (☞ 48ページ) で「カメラ共通設定」を選択し (決定) を押す

●カメラ共通設定画面が表示されます。

2 「IPアドレス」を選択し (決定) を押す

●開始アドレス入力画面が表示されます。

3 カメラに設定するIPアドレスを入力し (決定) を押す

●IPアドレスにはルーターが配布するDHCPアドレスと同じセグメント内で、DHCPで配布されないアドレスで未使用のアドレスを設定してください。

●カメラとのかんたん設定では、ここで設定した値から順に最大8つの使用していないアドレスをカメラ設定に使用します。

●設定するアドレスなどが不明な場合には、ルーターの設定状況やアドレスの使用状況の確認方法をルーターのメーカーにお問い合わせください。

■ ユーザー名とパスワードを設定する

40ページを参照してください。

- お買い上げ時状態のカメラには管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定しなくても自動でユーザー名、パスワードが設定されます。
  ただし、管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定しない場合には、カメラの画像をパソコンから見ることはできません。
  カメラの画像をパソコンで見るには、管理者ユーザー名、管理者パスワードを半角6文字以上で設定して、かんたん設定をする必要があります。

■ かんたん設定をする

基本設定完了後、ルーターとの「かんたん設定」を自動で開始します。

- 設定は約2分で完了します。設定が完了すると、画面に「設定完了」と表示され、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

- 本製品は、ルーターからDHCPでネットワーク情報を取得した後で、他の機器が使用していないIPアドレスを自動的に検索し、固定IPアドレスとして使用します。

かんたん設定

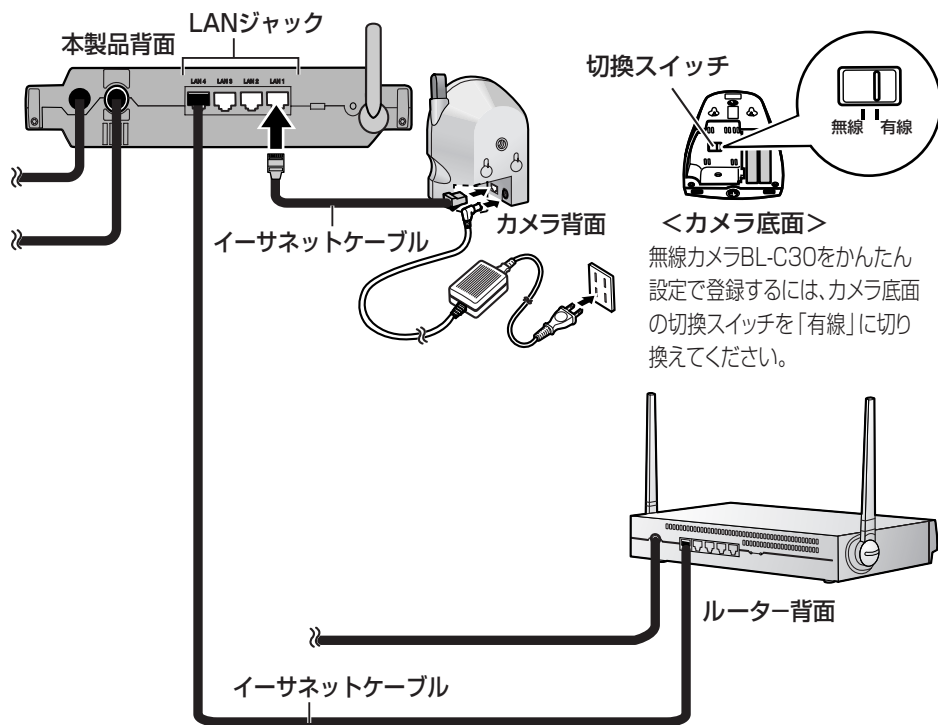
本体ネットワーク	取得中
無線	取得中
カメラ1	未登録
カメラ2	未登録

かんたん設定

本体ネットワーク ルーターから取得	設定完了
無線 対応ルーターなし	設定完了
カメラ1	未登録
カメラ2	未登録
カメラ3	未登録

ネットワークと無線のかんたん設定が完了すると「設定完了」と表示されます。

- すでに、ルーターに接続されて設定が完了しているカメラは本製品に自動でカメラリストに登録されます。接続モードがStatic設定でないカメラは、自動登録されますが使用中に接続できなくなることがあります。
  Static設定に変更して登録するか、いったんカメラを工場出荷状態に戻したあとで、かんたん設定で設定・登録を行ってください。

1 カメラを付属のイーサネットケーブルで本製品のLANジャック1～4のいずれかに接続する

2 カメラの電源を入れる

- カメラとの「かんたん設定」を開始します。

本製品背面

LANジャック

LAN 4　LAN 3　LAN 2　LAN 1

イーサネットケーブル

カメラ背面

切換スイッチ

無線　有線

<カメラ底面>

無線カメラBL-C30をかんたん設定で登録するには、カメラ底面の切換スイッチを「有線」に切り換えてください。

ルーター背面

イーサネットケーブル

- カメラを登録する際に、カメラを再起動する場合があり、登録に時間がかかることがあります。カメラの再起動に1～2分かかる場合もあります。
- かんたん設定中はワイヤレスインジケーターが緑点灯します。

カメラを接続する

●登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが緑点滅します。

カメラの登録が完了すると「登録完了」と表示されます。

● カメラは電源投入後20分間、かんたん設定を行うことができます。
カメラを認識しない場合、または画面下に「カメラを再起動しています」の表示が出て2分以上経過しても、カメラの登録が始まらない場合は、カメラを初期設定値に戻して (☞ 180ページ)、再度接続してください。

3 カメラを追加登録する場合は、イーサネットケーブルを追加するカメラにつなぎ直してカメラの電源を入れる

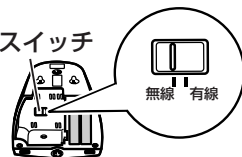
●登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが登録したカメラの台数分、緑点滅します。

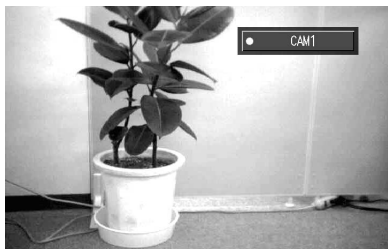
4 すべてのカメラを手順3の操作で登録後、本製品の電源を切る

● ユーザー名とパスワードが本製品と一致するカメラは、グループカメラとしてカメラリストに自動登録されます。(一致しないカメラは、グループ外カメラとして登録されます。)
● グループ外カメラとして登録されたカメラは、本製品のカメラ設定でユーザー名、パスワードを設定し直してもグループカメラには変更されません。
グループカメラとして登録し直すには、55ページを参照してください。

■カメラの画像を確認する

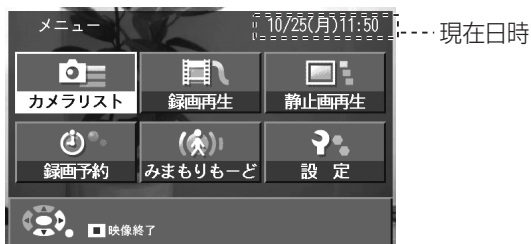
1 ルーター、すべてのカメラを接続して電源を入れる

● 無線カメラBL-C30を無線接続するときは、イーサネットケーブルを抜いて、カメラの切換スイッチを「無線」に切り換えてから、カメラの電源を入れ直してください。

<カメラ底面>

2 本製品背面のモード切換スイッチを「通常」に切り換えて電源を入れる

●起動画面表示後、カメラのモニタリング画面が表示されます。

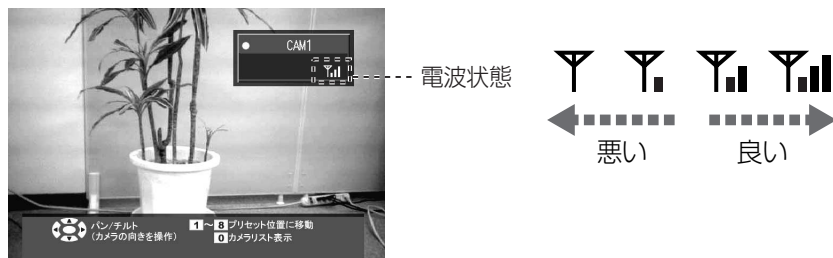
● カメラ起動時は、カメラリスト1に登録されているカメラのモニタリング画像が表示されます。複数台のカメラを登録した場合は、マルチカメラ画面で(☞ 64ページ) 登録したすべてのカメラのモニタリング画面が表示されることを確認してください。
● 時刻自動取得コマンドに対応しているカメラが1台も起動していない場合は、起動画面表示後、「時刻合わせ」画面が表示されます。
キーで現在日時を選択して 決定 を押してください。

カメラを接続する

- カメラの画像が表示されない場合は、接続を確認して再度カメラの電源を入れ直してください。それでも表示されない場合は、カメラを初期設定値に戻してから (☞ 180ページ) 再度かんたん設定で登録し直してください。
- 取得した時刻は◯メニュー を押して表示されるメニュー画面の右上に表示されます。取得した時間が間違っている場合は、手動で時刻を設定する必要があります。設定メニューの「時刻合わせ」画面で時刻を設定してください。(☞ 91ページ)

■ルーターとカメラを設置する

カメラの設置は、「カメラの画像を確認する」(☞ 52ページ) でカメラ、ルーターが正しく登録・接続されているのを確認してから行ってください。

1 ルーター、カメラを設置場所に設置する

- カメラの設置は、カメラに付属の設置ガイドに従って行ってください。
- モニタリング画面表示中に 画面表示 を押すと画面情報が表示されます。無線カメラBL-C30を設置するときは、画面情報で電波状態を確認してください。電波状態が悪いとカメラとの接続ができない場合や、動画表示が停止することがあります。

グループ外カメラをグループカメラに登録し直す

同一ネットワーク内で、グループ外カメラとして登録したカメラをグループカメラとして登録し直すには、以下の2つの方法があります。

(グループカメラ、グループ外カメラ ☞ 27ページ)

1. パソコンでカメラにアクセスし、カメラのユーザー名とパスワードを本製品の管理者ユーザー名と管理者パスワードと同じに変更する。(☞ 40ページ)
2. カメラリストから登録を削除する (☞ 110ページ)
3. かんたん設定でカメラを登録し直す (☞ 41、50ページ)

または

1. カメラリストから登録を削除する (☞ 110ページ)
2. カメラを初期設定値に戻す (☞ 180ページ)
3. かんたん設定でカメラを登録し直す (☞ 41、50ページ)

カメラの画像を見る

かんたん設定後、モード切換スイッチが「通常」になっていることを確認して、本製品の電源を入れると起動画面表示後、カメラリスト1に登録されているカメラのモニタリング画面が表示されます。

- モニタリング画面の表示サイズ、明るさは変更することができます。(☞ 115ページ)
- モード切換スイッチを「自動表示」に切り換えて電源を入れ直すと、一定時間間隔で登録しているカメラのモニタリング画面を順次表示します。(☞ 151ページ)

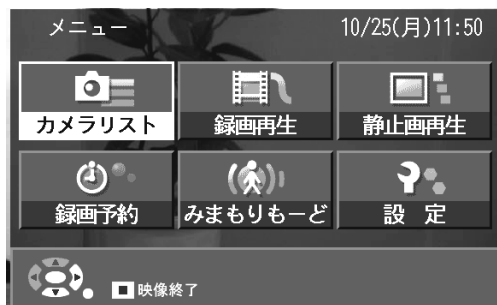
【パソコンやルーターを接続してお使いの場合】

- カメラリスト1にグループ外カメラを登録していて、パスワード保存を「しない」に設定していると (☞ 108ページ) 、本製品起動時にパスワード入力画面が表示されます。カメラのユーザー名とパスワードを入力して「OK」を押すと、モニタリング画面が表示されます。

- 管理者ユーザー名と管理者パスワードを設定せずにかんたん設定を行ったカメラは、自動でユーザー名・パスワードが設定されており、パソコンからカメラ画像を見ることはできません。カメラのユーザー名を変更してください。(☞ 125ページ)

メニュー画面を表示する

モニタリング画面表示中に ◯メニュー を押す

● メニュー画面が表示されます。

カメラリスト..............登録しているカメラのリストからカメラを選択します。(☞ 63ページ)

録画再生.....................録画した動画を表示します。(☞ 83ページ)
(SDメモリーカードが挿入されていないときは、「録画再生」の文字が薄いブルーで表示されます。)

静止画再生..................録画した静止画を表示します。(☞ 87ページ)
(SDメモリーカードが挿入されていないときは、「静止画再生」の文字が薄いブルーで表示されます。)

録画予約.....................タイマー録画、常時センサー録画の予約をします。(☞ 74ページ)

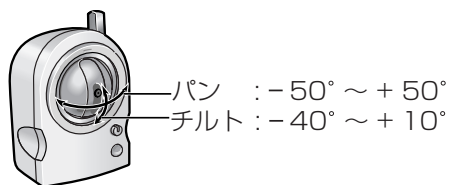
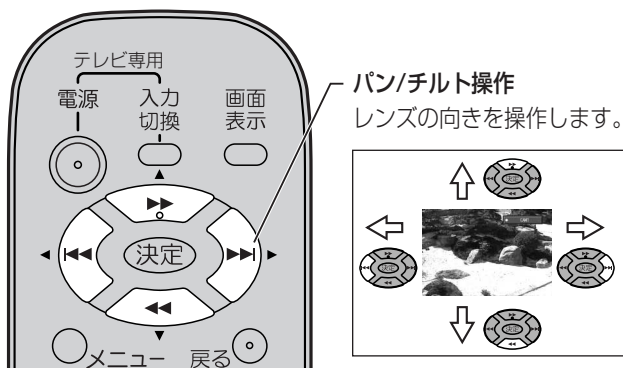
みまもりもーど..........カメラの人感センサーが温度変化を検知すると、モニタリングするカメラをセンサー検知したカメラに自動的に切り換える機能です。(☞ 66ページ)

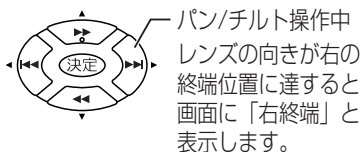
設定.............................時刻の設定、本製品の初期設定、カメラの設定、SDメモリーカードの管理をします。(☞ 90ページ)

- カメラリストやマルチカメラ画面表示をしているときにはメニュー画面は表示されません。
- メニュー画面を表示している時に、■(停止)を押すとカメラの映像表示を中止することができます。映像を再開するには、再度 ▶/II (再生)を押してください。(☞ 119ページ)
- 現在の時刻はメニュー画面の右上に表示されます。正しい時刻が設定されていない場合は、設定メニューの「時刻合わせ」で時刻を設定してください。(☞ 91ページ)

カメラの画像を見る

パン/チルト操作する

リモコンでモニタリング中のカメラのレンズの向きを左右 (パン)、上下 (チルト) に動かすことができます。

例) BL-C30

- 複数ユーザーでカメラをご使用の場合、パン/チルト操作をすると他のユーザーのモニタリング画面も切り換わります。
- パン/チルト操作中に、上下左右終端位置にレンズの向きが達すると、画面に終端通知を約4秒間表示します。

パン/チルト操作中レンズの向きが右の終端位置に達すると画面に「右終端」と表示します。

【パソコンからカメラ設定を行う】

- カメラ側の設定で「パン/チルト操作禁止」に設定している場合は、パン/チルト操作はできません。パソコンとカメラを接続して、カメラの「パン/チルト操作禁止」を解除してください。

見たいところの画像位置を登録して見る（ホームポジション／センサーポジション／プリセットキー）

カメラのホームポジション、センサーポジション、プリセットキーを登録できます。

ホームポジション (1カ所)　：カメラの電源を入れたときにレンズが向く位置です。
センサーポジション (1カ所) ：カメラの人感センサーが検知したときにレンズが向く位置です。
プリセットキー (8カ所)　　：リモコンの数字キーに見たい場所を登録します。

ホームポジション

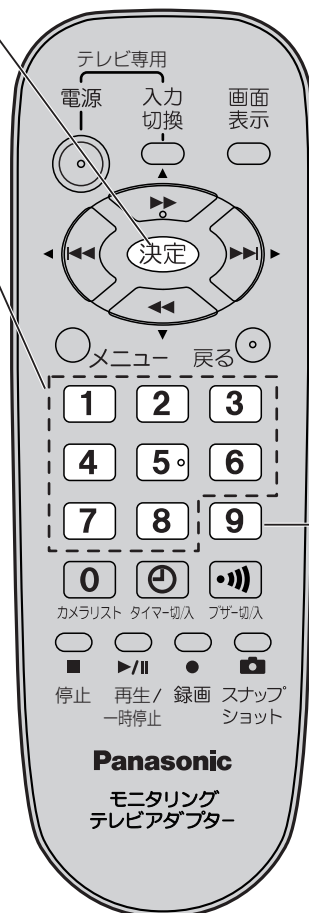
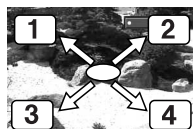
ホームポジションへレンズの向きを移動します。

長押し (約5秒) で表示中のレンズの位置をホームポジションに登録します。(☞ 60ページ)

プリセットキー

見たい場所を数字キーに登録できます。(☞ 61ページ)

数字キーを押すと登録した場所へ レンズの向きを移動します。

1 ～ 4 キーは初期設定でプリセット登録されています。

センサーポジション

センサーポジションへレンズの向きを移動します。

長押し (約5秒) で表示中のレンズの位置をセンサーポジションに登録します。(☞ 60ページ)

カメラの画像を見る

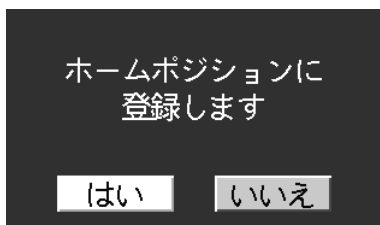
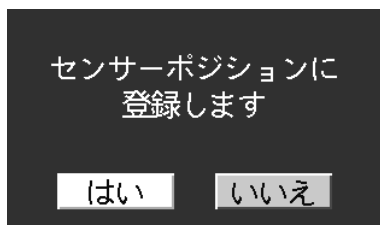
ホームポジション／センサーポジションを登録する

1 ホームポジションまたはセンサーポジションに登録する場所をパン/チルト操作で画面に表示させる

(パン/チルト操作方法 ☞ 58ページ)

2 ホームポジションに登録するには (決定) を、
センサーポジションに登録するには [9] を、長押し (約5秒) する

- 登録確認画面が表示されます。

ホームポジション確認画面

センサーポジション確認画面

3 「はい」を選択し (決定) を押す

- ホームポジション／センサーポジションはカメラに情報を書き込みます。複数ユーザーでカメラをご使用の場合は、最後に登録した人の情報が有効となりますので、登録したカメラの表示位置が他のユーザーによって書き換えられることもあります。
- カメラの人感センサーが検知したときに、カメラのレンズをセンサーポジションに向かないように設定することはできません。
- ホームポジション／センサーポジション登録では、登録時に設定されている明るさ、ホワイトバランス（☞ 103ページ） も一緒に登録されます。

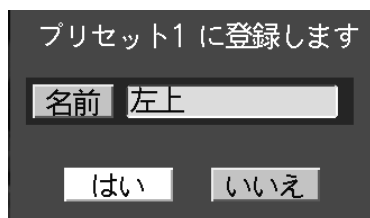
プリセットキーを登録する

カメラの表示場所をリモコンの数字キー (プリセットキー) に登録することができます。

1 プリセットキーに登録する場所をパン/チルト操作で画面に表示させる

(パン/チルト操作方法 ☞ 58ページ)

2 プリセットキーに登録する数字キー (1 ～ 8) を長押し(約5秒)する

- 登録確認画面が表示されます。
- プリセット名は現在設定中の名前が表示されます。
- 「はい」を選択すると表示中のプリセット名が設定されます。

3 プリセット名を手動で設定するには、「名前」を選択し 決定 を押す

- 文字入力画面が表示されます。プリセット名を設定してください。
  (文字の入力方法 ☞ 112ページ)

4 プリセット名を確認して「はい」を選択し 決定 を押す

- プリセット名は、半角15文字、全角7文字まで入力できます。
  ひらがな、全角カタカナ、半角英数字、全角記号、定型文が使えます。
  ただし、半角の[スペース]、["]、[']、[&]、[＜]、[＞] は使えません。
- プリセットキーはカメラに情報を書き込みます。
  複数ユーザーでカメラをご使用の場合は、最後に登録した人の情報が有効となりますので、他のユーザーによって書き換えられることもあります。
- プリセット登録では、登録時に設定されている明るさ、ホワイトバランス (☞ 103ページ) も一緒に登録されます。

カメラの画像を見る

ホームポジションキーを使う

モニタリング画面表示中に 決定 を押す

- ホームポジションの場所にレンズの向きが移動し、その場所を表示します。※
- 画面左上に「ホームポジション」と約4秒間表示します。

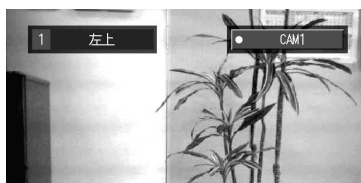
センサーポジションキーを使う

モニタリング画面表示中に 9 を押す

- センサーポジションの場所にレンズの向きが移動し、その場所を表示します。※
- 画面左上に「センサーポジション」と約4秒間表示します。

プリセットキーを使う

モニタリング画面表示中にプリセット登録した数字キー（1 ～ 8）を押す

- 登録した場所にレンズの向きが移動し、その場所を表示します。※
- 1 ～ 4 には初期設定で左上、右上、左下、右下の位置が登録されています。(☞ 59ページ)
- 画面左上にプリセット名を約4秒間表示します。

※ 登録時の明るさ、ホワイトバランスの設定に切り替り表示されます。

カメラリストからカメラを選択する

1 ◯メニュー を押す

●メニュー画面が表示されます。

2 「カメラリスト」を選択し (決定) を押す

●カメラリスト画面が表示されます。

● カメラリストでカメラを選択すると、選択したカメラのモニタリング画面が背景に表示されます。
● カメラリストは順番を入れ替えることができます。(☞ 111ページ)
● リモコンの 0 キーでカメラリストを表示することもできます。

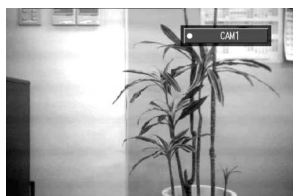
3 モニタリングするカメラを選択し (決定) を押す

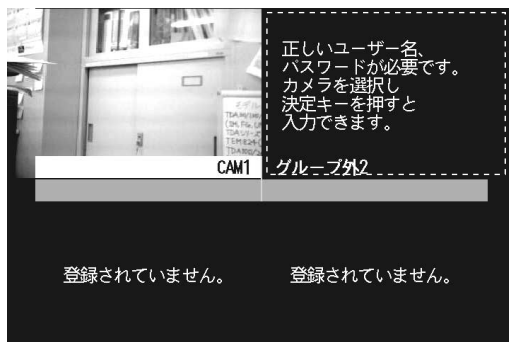
●モニタリング画面が表示されます。
●数字キーでカメラを選択することもできます。

カメラの画像を見る

マルチカメラ画面表示をする

カメラのモニタリング画面を表示中に 0 キーを押すと、画面が切り換わります。

- カメラリスト画面や、マルチカメラ画面表示中に、（決定）でカメラを選択して 決定 を押すと、モニタリングするカメラを選択することができます。

- グループ外カメラは、カメラに接続するときのパスワードを「保存する」、「保存しない」の設定をすることができます。(☞ 101、108ページ)
パスワードを「保存しない」に設定すると、カメラの接続には、ユーザー名、パスワードの入力が必要になります。

マルチカメラ画面での表示

パスワードを「保存しない」に設定しているグループ外カメラは画面が表示されません。

グループ外2カメラを選択すると

カメラに登録されているユーザー名とパスワードを入力して「OK」をクリックするとモニタリング画面が表示されます。

画像を見る

「みまもりもーど」を設定する

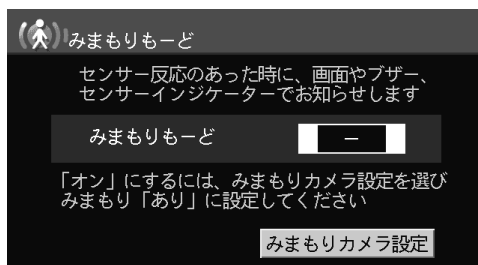
「みまもりもーど」は、カメラの人感センサー機能を利用して、モニタリングするカメラをセンサー検知したカメラに自動的に切り換える機能です。

- センサー検知するとセンサーインジケーターが点滅します。
- ブザー機能を「入」にすると、ブザー音でもセンサー検知をお知らせします。(☞ 68ページ)

1 ◯メニュー を押す

- メニュー画面が表示されます。

2 「みまもりもーど」を選択し 決定 を押す

- みまもりもーど画面が表示されます。

- 「みまもりもーど」を「オン」にするには「みまもりカメラ設定」で、１つ以上のカメラの「みまもり」を「あり」に設定する必要があります。

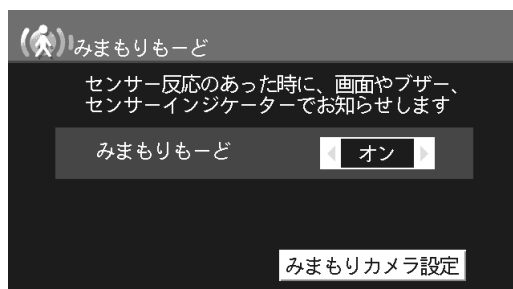
3 「みまもりカメラ設定」を選択し 決定 を押す

- みまもりカメラ設定画面が表示されます。

- KX-MS10では、あらかじめCAM1の「みまもり」が「あり」に設定されています。

4 それぞれのカメラの「みまもり」機能を の左右キーで「あり」、「なし」(ー) を選択後、（決定）を押す

●「みまもりもーど」設定画面に戻ります。

5 の左右キーで「オン」を選択して（決定）を押す

●「みまもりもーど」設定後、メニュー画面に戻ります。

● 「みまもりもーど」を設定するとセンサーインジケーターがオレンジ点灯します。
● カメラの人感センサーの検知範囲は、カメラの機種によって異なります。
カメラの設置場所についての注意事項などは、カメラの取扱説明書を参照してください。

センサー通知画面

「みまもりもーど」を設定しているカメラがセンサー検知すると、モニタリング画面は該当カメラに切り換わり、センサーポジションに、カメラのレンズの向きを移動します。センサーポジションは60ページで設定してください。

センサー検知すると、画面は該当カメラのセンサーポジションに移動し、4秒間「センサー反応」と表示されます。

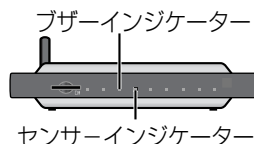
● 「みまもりモード」は、無検知状態が約5秒以上続いたカメラからのセンサー反応で動作します。いったんセンサー反応を表示したカメラで、無検知状態が約5秒続いていない場合には、あらたなセンサー検知動作は行いません。

カメラの画像を見る

- 「みまもりもーど」、「設定メニュー」、「通常録画中」、「スナップショット録画中」「録画予約」画面表示中、また画面をテレビに切り換えている場合は、センサーを検知しても画面は切り換わりません。ただし、センサーインジケーターの点滅と、[ブザー] (ブザー)「入」のとき (ブザーインジケーター緑点灯時) は、ブザー音でセンサー検知をお知らせします。
- テレビ映像をご覧の場合は、センサー検知で画面は切り換わりません。リモコンの「入力切換」キーを押して、カメラのモニタリング画面に切り換えてください。
- ブザー音量は調整できます。(☞ 93ページ)
- センサー検知したカメラが映像終了で一時的にカメラとの接続を切断中 (☞ 119ページ) でも、センサーを検知すると自動的に映像を開始します。

ブザー音を「入」にする

[ブザー] (ブザー) を押すと、ブザー機能が「入」になります。

- ブザーインジケーターが緑点灯します。

ブザー音を途中で止めるには

[ブザー] (ブザー) を押して、ブザー機能を「切」にしてください。

- ブザーインジケーターが消灯します。
- ブザー音「切」後、再度ブザー機能を「入」にするには、[ブザー] (ブザー) を押してください。

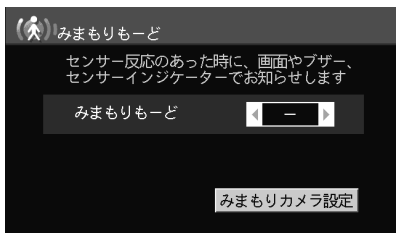
ブザー音量を変更する

音量は「設定メニュー」画面の「初期設定」画面で変更してください。
(☞ 92〜93ページ)
音量は「切」「1」「2」「3」「4」から選択できます。

センサーインジケーターの点滅を解除するには

「みまもりもーど」を設定時や、センサーを使った予約録画時 (☞ 74、78ページ) は、カメラがセンサー検知するとセンサーインジケーターは点滅し続けます。
点滅を解除するには：

1 「みまもりもーど」設定画面を表示する (☞ 66ページ)

2「みまもりもーど」で「オフ」(ー) を選択して (決定) を押す、
「オフ」(－) の状態でセンサーインジケーターが点滅し続けているときには、そのままこの画面で (決定) を押す

● センサーインジケーター点滅解除後、再度「みまもりもーど」を設定するには「みまもりもーど」設定画面で「オン」を選択して (決定) を押してください。

● グループ外カメラでは、設定画面で「センサー利用」を「する」に設定しているカメラのみ選択することができます。(☞ 109ページ)

【カメラをパソコンなどで共有して使う場合】

● グループカメラのタイマー録画でセンサー録画中は「一時保存／転送」の「動作条件」の「No.5」を使用しています。
本製品に接続したカメラを、パソコンなどで共有して使う場合、カメラ転送設定のNo.5は使用しないでください。
転送設定の詳細については、カメラの取扱説明書で「タイマーでカメラ画像を一時保存もしくは転送する」を参照してください。

画像を録画する

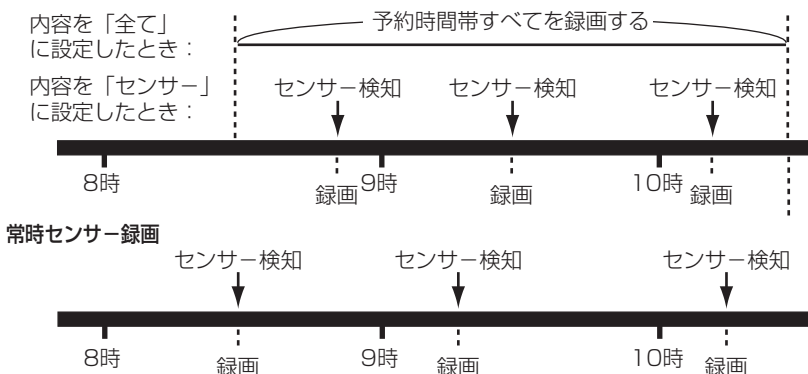
録画方法には通常録画、スナップショット録画、録画予約があります。

通常録画　　　　　　：モニタリング画面表示中に （録画）を押すと画像を動画で録画します。(☞ 72ページ)

スナップショット録画：モニタリング画面表示中に （スナップショット）を押すと画像を静止画で録画します。(☞ 73ページ)

録画予約

●タイマー録画　　：タイマー録画には2種類あります。(☞ 74ページ)
　・指定した日時のすべてを録画する
　・指定した日時でカメラがセンサー検知したときのみ、画像を録画する

●常時センサー録画：指定したカメラがセンサー検知したときのみ、画像を録画します。(☞ 78ページ)

- 録画するには、SDメモリーカードが必要です。
- 録画予約は、タイマー録画と常時センサー録画を同時に実行することはできません。どちらか一方を選択してください。
- センサー録画での録画枚数については79ページを参照してください。

録画モード	解像度	更新間隔
HIGH	高（640X480）	1秒
LOW	低（320X240）※	1秒
LONG	低（320X240）※	5秒

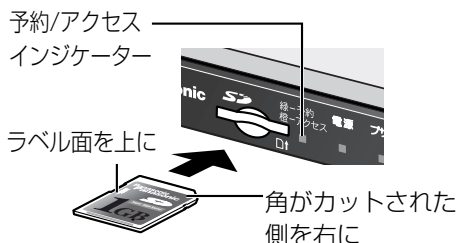
※ 解像度が「低」の場合は画像が小さく表示されます。

- センサー録画時は、録画モードを「HIGH」または「LOW」に設定することをお薦めします。

SDメモリーカードについて

本製品で使用するSDメモリーカードはPanasonic製を推奨します。
(他社製SDメモリーカードでの動作保証はいたしかねます。)
また、使用可能なサイズは1 GBまでです。

【SDメモリーカードの挿入方法】

【SDメモリーカードの取り出し方】

SDメモリーカードの中央部
を押してまっすぐ引き出す

- 予約/アクセスインジケーターがオレンジ点滅中は、データの読み込みまたは書き込みを行っています。オレンジ点滅中にSDメモリーカードを取り出す、本製品の電源を切る、クリアセッティングボタンを押すなどの操作は行わないでください。
  オレンジ点滅中にSDメモリーカードを取り出すと、データが壊れる可能性があります。そのような場合は、SDメモリーカードを本製品でフォーマットし直してからお使いください。(☞ 111ページ)

- SDメモリーカードは本製品 (BL-WV10) 専用でご使用ください。
  本製品で表示・再生できる画像データは、本製品で録画したデータのみです。
  ほかの機器でSDメモリーカードに保存した画像データについては、
  本製品で表示・再生しても正常に動作しません。
  また、本製品でSDメモリーカードに録画した画像データは、ほかの機器で使用しても正常に動作しません。
- SDメモリーカードの対応フォーマットはFAT12、FAT16です。
- SDメモリーカードは使用前に本製品でフォーマットすることをおすすめします。(☞ 111ページ)
  パソコンなど他の機器でフォーマットすると、使用できないことがあります。
- SDメモリーカードを抜き差しすると、画面はモニタリング画面に切り換わります。

画像を録画する

● SDメモリーカードに録画できる録画時間・枚数のめやすは以下のとおりです。画像のサイズは最大値で計算しています。画像によって録画される時間や枚数が異なります。

SDサイズ	録画時間 (予約録画)			録画時間 (通常録画)		静止画	
	LONG	LOW	HIGH	LOW	HIGH	LOW	HIGH
8 MB	60分	10分	3分	27秒	26秒	270枚	160枚
16 MB	1時間30分	30分	7分	1分	58秒	450枚	300枚
32 MB	5時間10分	1時間	10分	2分	2分	940枚	630枚
64 MB	10時間40分	2時間	30分	4分	4分	1930枚	1290枚
128 MB	21時間40分	4時間20分	1時間	8分	8分	3900枚	2600枚
256 MB	43時間20分	8時間40分	2時間	17分	16分	7780枚	5190枚
512 MB	87時間10分	17時間20分	4時間10分	34分	33分	15680枚	10460枚
1 GB	167時間50分	33時間30分	6時間	67分	65分	30170枚	20120枚

● 録画モード (LONG、LOW、HIGH) については79ページを参照してください。
● 録画内容の補償は致しかねます。本製品およびカードの不具合で撮影されなかった場合の、内容の補償についてはご容赦ください。

通常録画をする

モニタリング中の画像を、それぞれのカメラに設定している画像設定 (☞ 115ページ) に従って、SDメモリーカードに録画します。

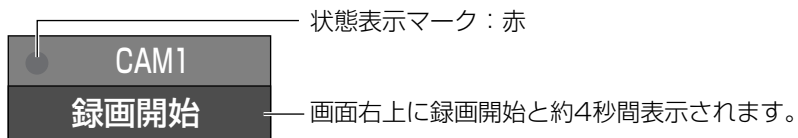
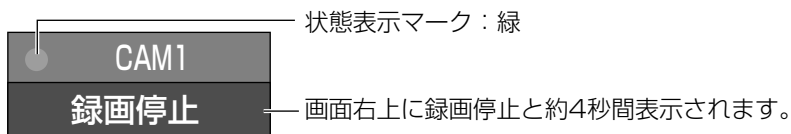
1 SDメモリーカードを本製品に挿入する (☞ 71ページ)

2 モニタリング画面を表示して (録画) を押す

●録画を開始します。

3 録画を停止するには（停止）を押す

状態表示マーク：緑

CAM1
録画停止

画面右上に録画停止と約4秒間表示されます。

- 録画した画像の一覧は、「録画再生」画面で見ることができます。(☞ 83ページ)
- 録画中に（情報）を押すと録画情報を表示します。(☞ 118ページ)

- 通常録画中にSDメモリーカードを取り出したり、本製品の電源を切ったりしないでください。
  録画中にSDメモリーカードを取り出すと、録画はキャンセルされ、データが壊れる可能性があります。
  そのような場合には、SDメモリーカードを本製品でフォーマットをしてから、お使いください。(☞ 111ページ)

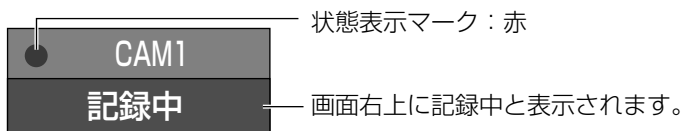
スナップショット録画をする

モニタリング中の画像を、静止画としてSDメモリーカードに保存します。

1 SDメモリーカードを本製品に挿入する (☞ 71ページ)

2 モニタリング画面を表示して（スナップショット）を押す

状態表示マーク：赤

画面右上に記録中と表示されます。

- （スナップショット）を押したときのモニタリング画像が、静止画としてSDメモリーカードに保存されます。
- 録画した静止画の一覧は、「静止画再生」画面で見ることができます。(☞ 87ページ)

- マルチカメラ画面表示中 (☞ 64ページ) は、スナップショット録画はできません。

録画予約を設定する

- 録画予約設定中に、SDメモリーカードを抜き差しすると、設定画面がモニタリング画面に切り換り、設定中の予約もキャンセルされます。

■ タイマー録画を設定する

1 SDメモリーカードを本製品に挿入する

●SDメモリーカードに録画しない場合 (☞ 76ページ) は必要ありません。

2 ◯メニュー を押す

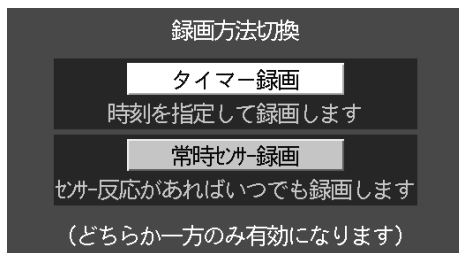
●メニュー画面が表示されます。

3 「録画予約」を選択し 決定 を押す

●録画予約画面が表示されます。

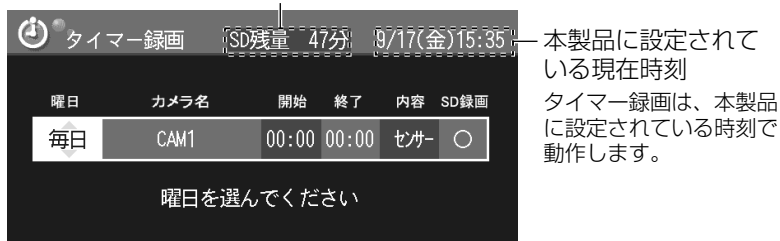
録画モードの変更は79ページを参照してください。

「常時センサー録画」が選択されているときは「録画方法」を選択し 決定 を押す

●録画方法切換画面が表示されます。

「タイマー録画」を選択し 決定 を押す

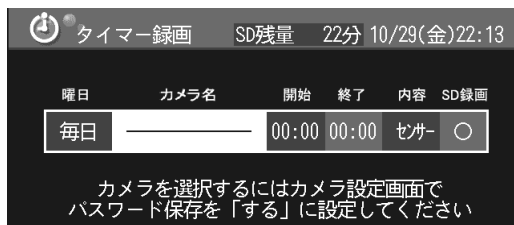
●タイマー録画予約画面が表示されます。

4 「新規予約」を選択し 決定 を押す

●予約設定画面が表示されます。

5 予約内容を設定する

●タイマー録画予約は最大5件まで設定できます。

項目	内容
曜日	録画予約する曜日を選択します。 の で選択項目 (毎週日〜毎週土、月〜金、月〜土、土日、毎日) が切り換わります。
カメラ名	録画予約するカメラを選択します。※1
開始／終了	録画開始と録画終了時刻を設定します。 の で1分単位で変更できます。 の長押しで15分単位で変更できます。

※1 グループ外カメラで「パスワード保存」を「しない」に設定しているカメラは表示されません。また登録カメラがすべてグループ外カメラで、「パスワード保存」を「しない」に設定している場合は、下記画面が表示されます。
グループ外カメラにタイマー録画を設定する場合は、「パスワード保存」を「する」に変更してください。(☞ 108ページ)

録画／再生する

項目	内容
内容	録画方法を選択します。 全て　　：設定時間中、すべての画像を録画します※2。 センサー：設定時間中、センサー検知時の画像を録画します※3。
SD録画	録画先をSDメモリーカードにする場合は「○」を選択します。 SDメモリーカードに録画しない場合は「—」を選択します※4。 内容で「センサー」を選択時は、「○」のみの選択となります。

※2　グループ外カメラにタイマー録画を設定する場合は、「パスワード保存」を「する」に設定してください。(☞ 108ページ)

※3　グループ外カメラでセンサー検知時の画像を録画するには、「センサー利用」を「する」に設定してください。(☞ 109ページ)

※4　モニタリング画面の画像をビデオデッキやDVD/HDDレコーダーに予約録画する場合は「—」を選択します。
本製品の映像出力端子をビデオデッキやDVD/HDDレコーダーの外部入力端子に映像コードで接続して、予約設定した時間をビデオデッキやDVD/HDDレコーダーの予約録画にも設定してください。予約時間になると画面が該当カメラのモニタリング画面に切り換わり、ビデオデッキやDVD/HDDレコーダーに録画されます。

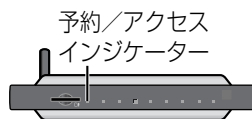
6　予約内容を設定後、（決定）を押す

- タイマー録画が設定されます。

7　[タイマー] (タイマー切／入)を押して、タイマー「入」にする

- タイマー「入」が設定されると、予約/アクセスインジケーターが緑点灯します。

- タイマー「入」にした時刻が録画開始時刻を過ぎている場合は、タイマー「入」にした時点から録画を開始します。
タイマー「入」に設定した時刻が録画終了時刻を過ぎている場合は、次の予約時刻に録画されます。
- 録画開始時刻と録画終了時刻が、すでに設定している予約時刻と重複するとエラーメッセージが表示され、設定できません。

以前に設定された予約と
時刻が重複しています

● タイマー録画中は録画中のカメラの画像に切り換わります。
カメラの画像は、予約時に設定した録画モードの解像度で表示されます。
タイマー録画中にタイマー「切／入」以外の操作を行うと、エラーメッセージが表示され操作を行うことはできません。

予約実行中です
他の操作はできません
解除するにはタイマー切/入キーを
押してください

● タイマー録画は、本製品に設定されている時刻で動作します。必ず表示されている現在時刻を確認して、間違っている場合は、時刻合わせ画面で時刻を合わせてください。(☞ 91ページ)
● タイマー「入」時にSDメモリーカードを取り出すと、タイマーは「切」となり予約はキャンセルされます。SDメモリーカードを再度挿入しても、録画は再開されません。
ただし、録画予約の中にSD録画を「ー」にしている予約が設定されている場合は、SDメモリーカードを取り出しても予約はキャンセルされません。
● タイマー録画で内容を「センサー」に設定したカメラが、センサー検知すると、カメラのレンズが該当カメラのセンサーポジション (☞ 59ページ) に向き、画像をSDメモリーカードに録画します。グループカメラの場合はセンサー検知の前と後の画像を録画します。 (☞ 70ページ)
● タイマー予約録画を実行中の状態で電源を切ると、録画が正常に行われない恐れがあります。
● タイマー予約録画で、センサー検知時の画像を録画する場合、カメラがセンサー検知するとセンサーインジケーターは点滅し続けます。
点滅を解除するには68ページを参照してください。

タイマー「入」時の画面表示について

タイマー録画を設定していると、予約時間が近づくと予約通知画面を約4秒間表示します。

・予約開始2分前

予約録画開始時刻が近づいています

・予約開始5秒前

現在の動作を終了し、予約録画を開始します

●5秒後に現在の画面を強制終了して、タイマー録画を実行するカメラのモニタリング画面に切り換わります。

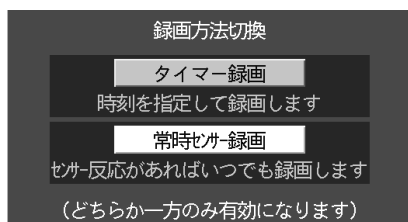
画像を録画する

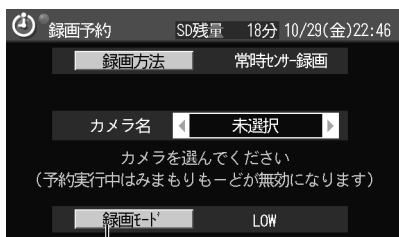
■ 常時センサー録画を設定する

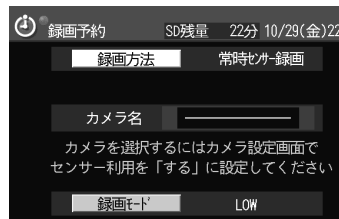
常時センサー録画を設定したカメラがセンサー検知すると、カメラのレンズがセンサーポジション (☞ 59ページ) に向いたあと、SDメモリーカードに画像を録画します。

一度常時センサー録画に設定しておけば、例えば外出前にリモコンで、タイマー予約「入」にして予約録画を開始しておき、帰宅後にタイマー予約「切」にして予約を終了し、録画された結果を見る、といった留守番電話のような使い方がワンタッチでできます。

1 「録画予約」画面 (☞ 74ページ) で「録画方法」を選択し (決定) を押す

●録画方法切換画面が表示されます。

2 「常時センサー録画」を選択し (決定) を押す

●常時センサー録画設定画面が表示されます。

録画モードの変更は79ページを参照してください。

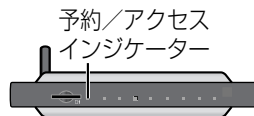
● グループ外カメラは「センサー利用」を「あり」に設定しなければ、常時センサー録画はできません。
常時センサー録画を設定するには、設定を変更してください。(☞ 109ページ)

3 設定するカメラ名を選択する

4 戻る◯ を押す

●選択したカメラ名が確定されて、常時センサー録画が設定されます。

5 常時センサー録画を実行するときは ◷ （タイマー切／入）を押して、タイマー予約を「入」にする

●タイマーを「入」にすると予約/アクセスインジケーターが緑点灯し、すぐに予約録画を開始します。

●予約録画を終了するには、◷ （タイマー切/入）を押して、タイマー予約を「切」にしてください。

● 常時センサー予約録画を実行中に電源を切ると、録画が正常に行われない恐れがあります。
● 常時センサー予約録画時、カメラがセンサー検知するとセンサーインジケーターは点滅し続けます。点滅を解除するには68ページを参照してください。

録画モードを変更する

タイマー録画、常時センサー録画時の画像モードを変更します。

1 「録画予約」画面で「録画モード」を選択して 決定 を押す

●録画モード変更画面が表示されます。

2 (決定) の左右キーを押して、モードを変更して 決定 を押す

● それぞれの録画モードで、64 MBのSDメモリーカードに録画できる時間のめやすは、以下のとおりです。(詳細は71ページを参照してください。)

録画モード	解像度	画質	画像間隔	64 MB SDメモリーカードに保存可能な時間
HIGH	高 (640X480)	標準	約1秒ごと	約30分
LOW	低 (320X240)	動き優先	約1秒ごと	約2時間
LONG	低 (320X240)	動き優先	約5秒ごと	約10時間

● グループカメラとグループ外カメラではセンサー録画の内容が異なります。
グループカメラでは、センサー検知の前と後の画像が録画できます。
センサー検知前の画像は、録画モード「HIGH」、「LOW」のとき、約1秒間隔で5枚、「LONG」のとき、約5秒間隔で5枚録画されます。
グループ外カメラをセンサー検知録画すると、センサー検知後の画像が録画されます。
● センサー検知録画では「HIGH」または「LOW」をお使いください。

画像を録画する

録画予約内容を確認／変更／取り消しする

メニュー画面の録画予約を選択すると、現在選択されている録画方法（タイマー録画、常時センサー録画）の予約画面が表示されます。

タイマー録画予約の内容を確認する

タイマー録画予約画面では、現在設定されている録画予約の内容を確認することができます。

タイマー録画実行時にエラーを起こすとエラーアイコンが表示されます。(☞ 下記参照)

録画内容で「全て」を選択すると、録画開始時刻と録画終了時刻から録画時間を計算して表示します。

【予約実行時のエラー表示について】

タイマー録画または常時センサー録画の実行時にエラーを起こすと、エラーアイコンが表示されます。エラーを起こしたタイマー録画は、以降実行されません。[1] を押して予約を取り消して、再度録画予約をやり直してください。

表示	原因と対策
	SDメモリーカードの空き容量がない。 →SD残量に残り録画時間が表示されます。不要な画像を削除して、必要な容量を確保してください。(☞ 86、89ページ)
	予約録画開始時にカメラへの接続に失敗した。 →カメラとの接続を再度確認してください。(☞ 34、43、52ページ) →かくれンズを解除してください。(☞ 104ページ)
	SDメモリーカードへの書き込みに失敗した。 →SDメモリーカードが書き込み禁止になっている場合は、書き込み禁止を解除してください。 →予約実行中はSDメモリーカードを挿入または取り出ししないようにしてください。
	カメラがかくれンズ中である。 →かくれンズを解除してください。(☞ 104ページ)
	SDメモリーカードが入っていない。 →SDメモリーカードを挿入してください。(☞ 71ページ)
	その他の原因で起きたエラーです。 →予約実行中はSDメモリーカードを挿入または取り出ししないようにしてください。

タイマー録画予約の内容を変更する

1 「録画予約」画面で、変更する録画予約を選択して（決定）を押す

- 予約設定画面が表示されます。

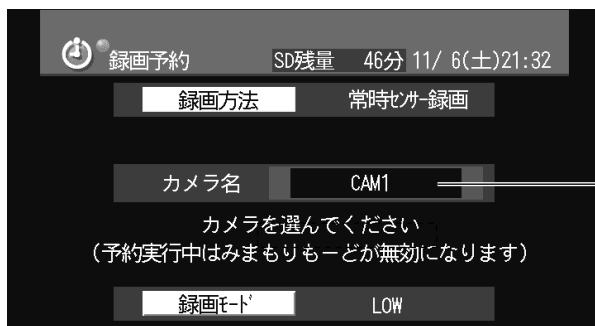
2 録画内容を変更して（決定）を押す

- 予約内容が変更されます。
- それぞれの項目については、75～76ページを参照してください。

タイマー録画予約を取り消す

「録画予約」画面で取り消す録画予約を選択して［1］を押す

常時センサー録画予約の内容を確認する

常時センサー録画予約画面では、センサー録画を行うカメラを確認することができます。

常時センサー録画を設定しているカメラ名が表示されます。

常時センサー録画予約の内容を変更する

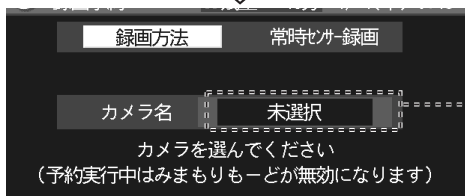
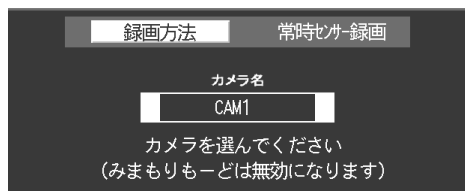
「録画予約」画面で変更するカメラ名を選択する

- 常時センサー録画を設定するカメラが変更されます。

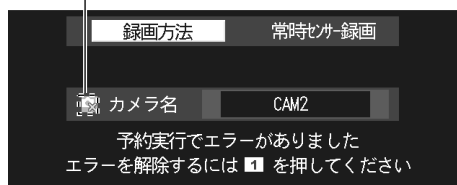
録画／再生する

常時センサー録画予約を取り消す

「録画予約」画面（☞ 78ページ）で 1 を押す

● 常時センサー録画予約は取り消され、カメラ名は「未選択」になります。

【エラーが発生したときは】

常時センサー録画の実行時にエラーを起こすと、エラーアイコンが表示されます。（☞ 80ページ）
エラーを起こした常時センサー録画は、以降実行されません。
1 を押して予約を取り消して、再度録画予約をやり直してください。

常時センサー録画実行時にエラーを起こすと
エラーアイコンが表示されます。（☞ 80ページ）

録画した動画や静止画を見る

録画した動画を再生する

録画した動画の再生には、リモコンの再生キーを押して再生する方法と、画像一覧で動画を選択して再生する方法があります。

■再生キーを押して再生する

1 録画画像を保存したSDメモリーカードを本製品に挿入する

2 モニタリング画面表示中に、▶/II (再生) を押す

- 動画再生 (動画一覧) 画面 (☞ 下記) で選択されている動画が再生されます。
- 動画再生中に 画面表示 を押すと画面情報を表示します。(☞ 116ページ)

■画像一覧で動画を選択して再生する

1 録画画像を保存したSDメモリーカードを本製品に挿入する

2 ◯メニュー を押す

- メニュー画面が表示されます。

3 「録画再生」を選択し 決定 を押す

- 録画再生画面が表示されます。

録画／再生する

4 再生する動画を選択し、(決定) を押す

- 動画が再生されます。
- 動画再生中に 画面表示 を押すと画面情報を表示します。(☞ 116ページ)

- 録画再生画面で一覧表示する画像 (サムネイル画像) を自由に選択することもできます。(☞ 85ページ)

動画再生中の便利な使い方

再生を一時停止する

動画再生中に ▶/II (ポーズ) を押すと再生を一時停止します。

- 一時停止を解除するには、再度 ▶/II を押してください。

CAM1
II 一時停止

- 一時停止中に (スナップショット) を押すと、一時停止中の画像が静止画として保存されます。
動画から必要な部分だけを静止画で保存して、残りの不要な動画をこまめに消去すると、カード容量が有効に使えます。 (録画時間 ☞71ページ)

コマ送り／コマ戻し再生をする

動画再生一時停止中に (決定) の ▶▶ を押すとコマ送り再生、 ◀◀ を押すとコマ戻し再生します。

早送り／早巻戻し再生をする

動画再生中に (決定) の ▶▶ を押すと早送り再生、 ◀◀ を押すと早巻戻し再生します。

次の (前の) 動画を再生する

再生中に (決定) の ▶▶ を押すと、次の動画を再生します。

再生を開始して約3秒以内に ◀◀ を押すと、前の動画を再生します。

再生開始から約3秒を超えて ◀◀ を押した場合は、再生動画の先頭に戻ります。

動画の情報を見る

録画再生画面で動画を選択して [3] を押すと、動画情報を見ることができます。

録画モードは、HIGH, LOW, LONG, ——のいずれかで表示されます。
通常録画した画像は、モニタリング画面での設定値で録画されるため —— で表示されます。

動画を連続表示する

録画再生画面で [4] を押すと、選択している動画を連続した静止画で見ることができます。画像は先頭画像から順番に表示されます。

- 連続表示されている画像を選択して (決定) を押すと、選択した画像が全画面で表示されます。
  画像表示中に (スナップショット) を押すと、静止画として保存されます。
- (停止) を押すと連続写真一覧画面に戻ります。
- 連続写真再生画面で画像を選択して [3] を押すと、録画再生画面で一覧表示する画像 (サムネイル画像) を指定できます。

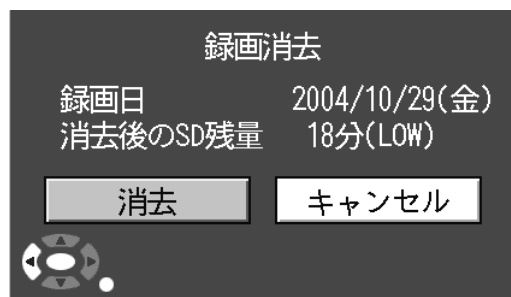
- 画像表示中に 画面表示 を押すと、画像情報が確認できます。静止画での情報表示と同じものです。(☞ 117ページ)

録画した動画や静止画を見る

録画した動画を消去する

動画を消去する

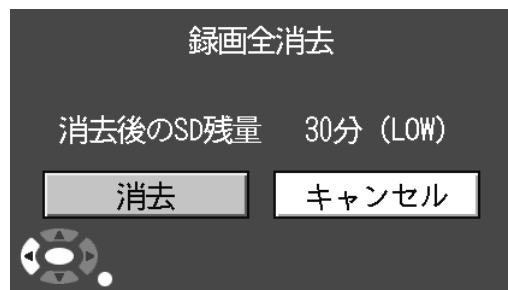
1 録画再生画面で消去する動画を選択し [1] を押す

●消去確認画面が表示されます。

2 「消去」を選択し (決定) を押す

●選択した画像が消去されます。

動画を全消去する

1 録画再生画面で [2] を押す

●消去確認画面が表示されます。

2 「消去」を選択し (決定) を押す

●録画した動画がすべて消去されます。

静止画を再生する

スナップショットで録画した静止画を再生します。

1 静止画を保存したSDメモリーカードを本製品に挿入する

2 ◯メニュー を押す

●メニュー画面が表示されます。

3 「静止画再生」を選択し (決定) を押す

●静止画再生画面が表示されます。

選択中の画像 (黄色枠表示) 情報を表示します。

SDメモリーカードの録画残り容量を表示します。

現在時刻

静止画の一覧を表示します。

次頁の一覧を表示します。

操作ガイダンスを表示します。

前頁の一覧を表示します。

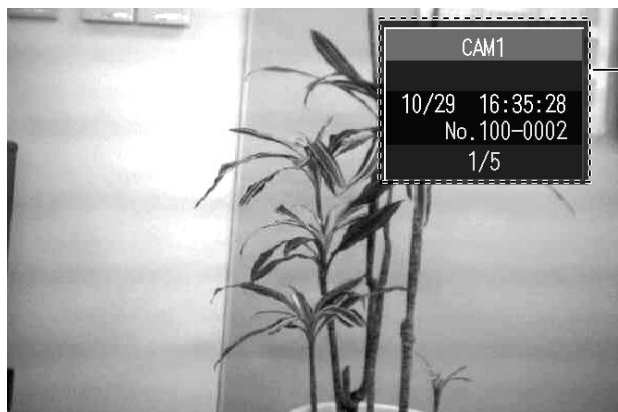
4 画像を選択し (決定) を押す

●静止画が表示されます。

●静止画表示中に 画面表示 を押すと画面情報を表示します。(☞ 117ページ)

静止画再生中の便利な使い方

スライドショーで画像を見る

静止画再生画面で 3 を押すと、静止画を連続表示で見ることができます。
画像は先頭画像から順番に表示されます。

画面表示 キーで画面情報表示が切り換わります。

連続表示が終わると、静止画再生画面に戻ります。

再生中に (停止) を押すと、連続表示を終了して静止画再生画面に戻ります。

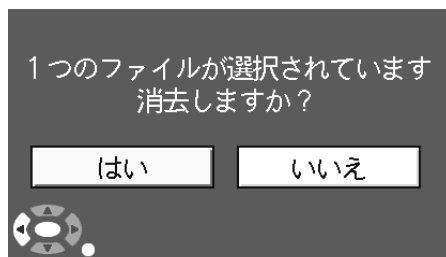
次の（前の）画像を見る

静止画表示中に 決定 の ▶▶、◀◀ で表示画像の前後の画像を表示します。

録画した静止画を消去する

静止画を消去する

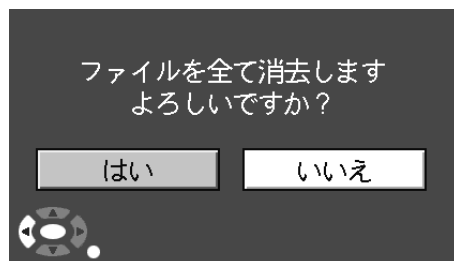
1 静止画再生画面で消去する静止画を選択し [1] を押す

●消去確認画面が表示されます。

2 「はい」を選択し (決定) を押す

●選択した画像が消去されます。

静止画を全消去する

1 静止画再生画面で [2] を押す

●消去確認画面が表示されます。

2 「はい」を選択し (決定) を押す

●録画した静止画がすべてが消去されます。

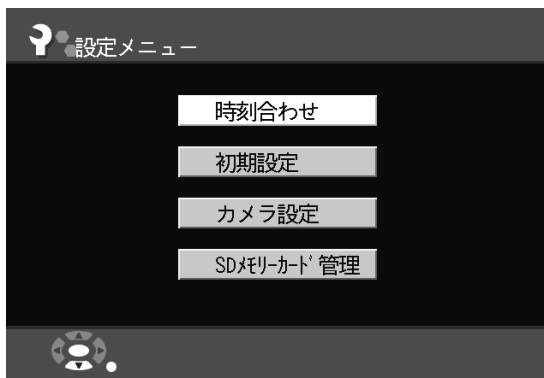
設定メニューについて

設定メニューでは、本製品の時刻合わせ、初期設定、カメラ設定、SDメモリーカード管理を行うことができます。

1 ○メニュー を押す

●メニュー画面が表示されます。

2 「設定」を選択し 決定 を押す

●設定メニュー画面が表示されます。

時刻合わせ......................時刻を手入力で設定します。(☞ 91ページ)

初期設定..........................本製品の初期設定を変更します。(☞ 92ページ)

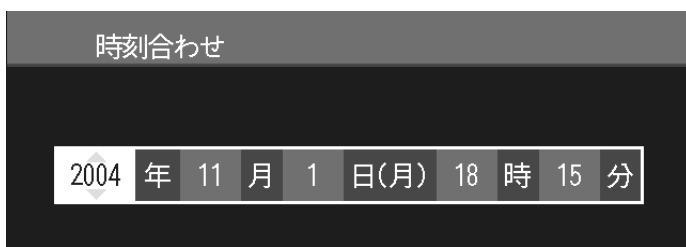
カメラ設定......................カメラの設定を変更します。(☞ 102ページ)

SDメモリーカード管理.....SDメモリーカードの情報表示、フォーマットをします。(☞ 111ページ)

時刻を設定する

本製品は、起動時に毎回カメラリストに登録されているカメラから時刻を取得しますが、取得した時刻が間違っている場合は、手動で時刻を設定してください。

1 「設定メニュー」画面 (☞ 90ページ) から「時刻合わせ」を選択し (決定) を押す

●時刻合わせ画面が表示されます。

2 修正する項目を選択し、 の上下キーで数字を選択し (決定) を押す

●手動で時刻を設定すると、接続されているグループカメラすべての時刻が修正されます。

【ルーターに接続してお使いの場合】

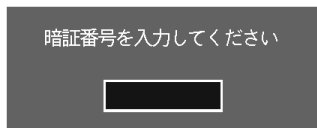
● グループ外カメラから時刻取得はできますが、時刻の書き換えはできません。モニタリング画面で表示される時刻、またタイマー録画は本製品の時刻で実行されます。
時刻にずれがある場合には、パソコンでカメラに接続してカメラの時刻を本製品に合わせてください。

● カメラが1台も接続されていない場合、本製品の起動時にカメラから時刻を取得できませんので、必ず手動で「時刻合わせ」を行ってから使用してください。

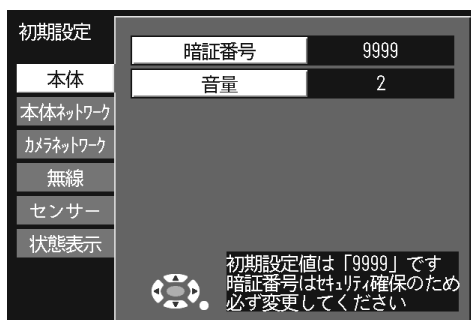
設定メニューについて

本製品の初期設定を変更する

1 「設定メニュー」画面 (☞ 90ページ) から「初期設定」を選択し 決定 を押す

●暗証番号入力画面が表示されます。

2 暗証番号を入力して、初期設定画面を表示させる

●お買い上げ時の暗証番号は「9999」に設定されています。

●初期設定画面が表示されます。

3 設定変更する項目を選択する

● 決定 キーで項目を選択して 決定 を押してください。

・本体 (暗証番号変更と音量設定) (☞ 93ページ)
・本体ネットワーク (☞ 94ページ)
・カメラネットワーク (☞ 95ページ)
・無線 (☞ 96ページ)
・センサー (☞ 98ページ)
・状態表示 (☞ 99ページ)

4 設定が終了したら 戻る○ を押して戻る

【本体】

本製品の暗証番号や、ブザー音量を設定します。

項目	内容
暗証番号	「初期設定」、「カメラ設定」を選択時に入力する暗証番号を設定します。 1 「暗証番号」を選択して(決定)を押す ● 暗証番号設定画面が表示されます。 2 新しい暗証番号（4桁）をリモコンの数字キーで入力して(決定)を押す ● 新しい暗証番号が設定されます。 ● 暗証番号は、セキュリティ確保の必要がある場合に変更してください。
音量	ブザーの音量を設定します。 1 音量を「切」「1」「2」「3」「4」のボタンから選択し(決定)を押す ● 設定される音量で確認音が鳴ります。

- **暗証番号を忘れると、設定画面に入ることができなくなります。お客様の責任において管理してください。**
- 暗証番号は、4桁を設定してください。
- 暗証番号を忘れた場合は、クリアセッティングボタンを押して本製品をお買い上げ時の設定に戻してください。(☞ 123ページ)
  ただし、設定情報もお買い上げ時の設定に戻りますので、カメラに接続できなくなります。かんたん設定で再度登録してください。(☞ 26ページ)

- ブザー音量を「切」にすると、リモコンのキー操作による操作音も「切」となります。

設定メニューについて

【本体ネットワーク】

本製品のネットワーク情報を設定します。

初期設定

本体	IPアドレス	192.168.0.250
本体ネットワーク	ネットマスク	255.255.255.0
カメラネットワーク	ゲートウェイ	192.168.0.1
無線	DNS1	0.0.0.0
センサー	DNS2	0.0.0.0
状態表示	プロキシサーバー	
	プロキシポート	8080

項目	内容
IPアドレス／ネットマスク	本製品のIPアドレス／ネットマスクを設定します。
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを設定します。
DNS1／DNS2	DNS サーバーのIPアドレスを設定します。 DNSは2つまで設定できます。
プロキシサーバー／プロキシポート	カメラの画像を見るのにプロキシサーバーを経由してアクセスする場合は、プロキシサーバー名とポート番号を設定してください。

- 本製品をネットワークに接続しない場合 (本製品とカメラを直接接続する場合) は、設定の必要はありません。

- 「かんたん設定」で自動設定された設定値を変更すると、ネットワークにつながらなくなることがありますので、変更する場合は注意して変更してください。
- 間違って設定した場合は、クリアセッティングボタンを押して、設定値をお買い上げ時の設定に戻すことができます。(☞ 123ページ)
  ただし、設定情報もお買い上げ時の設定に戻りますので、カメラに接続できなくなります。かんたん設定で再度登録してください。(☞ 26ページ)

【カメラネットワーク】

カメラのネットワーク情報を設定します。

設定項目	設定内容
開始アドレス	カメラをかんたん設定するときに使用するIPアドレスを設定します。設定したアドレスから、連続して最大8つのアドレスを使用します。BL-BR30と接続してかんたん設定を行うと、開始アドレスは「自動設定」と表示され、手動での設定はできません。
管理者ユーザー名	かんたん設定でグループカメラに設定するユーザー名を設定します。グループカメラに接続するときにも使用します。
管理者パスワード	かんたん設定でグループカメラに設定するパスワードを設定します。グループカメラに接続するときにも使用します。

- 管理者ユーザー名、管理者パスワードは半角英数字で6文字以上15文字以下で設定してください。ただし「”」、「<」、「>」、「:」、「&」は使用できません。
- 管理者ユーザー名、管理者パスワードを変更後に、かんたん設定でカメラを登録し直すと、工場出荷状態時のカメラには変更したユーザー名、パスワードが設定されます。一方すでにグループカメラとして登録済みのカメラには変更したユーザー名、パスワードは上書きされません。引き続き変更前のユーザー名、パスワードのまま、グループカメラとして利用できます。
  変更したユーザー名、パスワードでカメラを登録し直すには125ページを参照ください。
- パソコンでカメラをアクセスしない場合は、管理者ユーザー名、管理者パスワードの入力は必須ではありません。

設定メニューについて

【無線】

本製品の無線情報を設定します。

設定項目	設定内容
無線動作モード	「リピーターモード」または「アクセスポイント」を選択します。 本製品はBL-BR30を接続し、かんたん設定を行うと自動でリピーターモードに切り換わります。
通信モード	通信モードを「802.11b」、「802.11g専用」、「802.11b /g」から選択します。
SSID	使用している無線ネットワークグループの識別名を設定します。
無線ステルス機能	「使用する」、「使用しない」を選択します。 無線LANでは、容易にネットワークを検知するために、ネットワークの識別子であるSSIDを一定時間ごとに周囲に発信する機能があります。「使用しない」を選択すると、無線LAN機器は容易にネットワークを検知する事ができますが、不正規のユーザーも容易にネットワークを発見して接続を試みることができるため、セキュリティ上の弱点になる可能性があります。 「使用する」を選択するとANYキーによる接続を拒否するためネットワークの存在を検知されにくくできます。
通信チャンネル	使用する通信チャンネルを「AUTO」、「1」～「13」から選択します。 AUTOは本製品起動時に空いてるチャンネルを自動で検索します。通信状況がよくない場合は、「1」～「13」から手動で設定してください。
暗号化	暗号化を「使用する」、「使用しない」を選択します。 暗号化を使用する場合は暗号化キーを設定します。

設定項目	設定内容
暗号化キー	暗号化を使用する場合は暗号化キーを設定します。 暗号化キーはあらかじめ4つまで設定することができます。 使用キー番号：暗号化に使用するキー番号を1～4の中から設定します。 キー1～4タイプ：暗号化キーの設定方法と長さを16進数10文字(64bit)、16進数26文字(128bit)、16進数32文字(152bit)、英数5文字(64bit)、英数13文字(128bit)、英数16文字(152bit) から選択します。64bit→128bit→152bitの順で安全性が高まりますが、反対に通信速度が若干低下します。 キー1～4：キータイプで選択した指定方法、長さに従って暗号化キーを入力します。
MACアドレスフィルタリング	MACアドレスフィルタリング機能 (接続する機器のアドレスを指定する) を「使用する」、「使用しない」を選択します。使用する場合は、接続を許可するアドレスを設定します。最大16個まで設定が可能です。

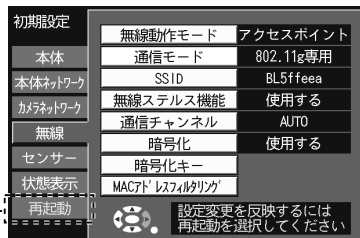
● 接続する無線端末にも同じ暗号化キー1～4を入力し、同じ使用キー番号を設定してください。

● BL-C30を登録するには、2つのMACアドレスを設定する必要があります。本製品MACアドレス（底面ラベル参照）とそのMACアドレスの末尾１文字を以下のテーブルで置きかえたMACアドレスを設定してください。

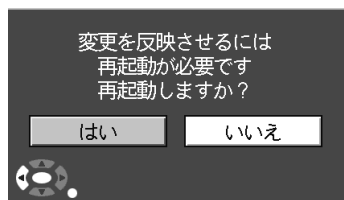
0 → 1	2 → 3	4 → 5	6 → 7	8 → 9	A → B	C → D	E → F

たとえば、BL-C30の本製品ＭＡＣアドレスが "00:80:F0:54:C0:C4" の場合は、 "00:80:F0:54:C0:C4"と"00:80:F0:54:C0:C5" を設定してください。

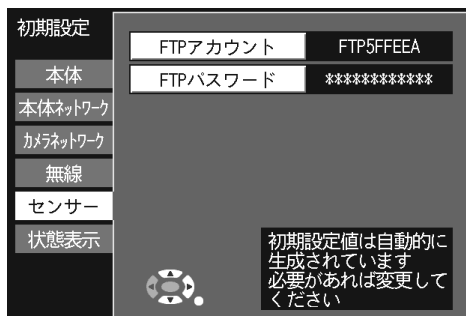
変更によっては、本製品の再起動が必要な場合もあります。

1. 設定を変更後、再起動が必要な場合は、「再起動」タブが表示されます。

設定メニューについて

2.「再起動」タブを選択すると
「再起動」ボタンが表示されます。

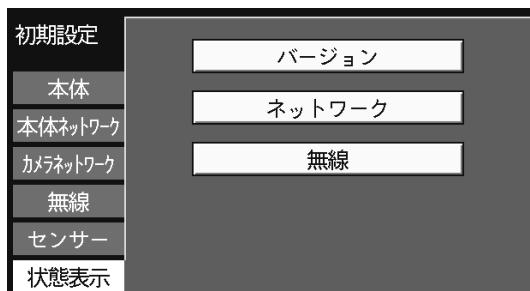
3.「再起動」ボタンを押すと再起動
確認画面が表示されます。
「はい」を選択して(決定)を押すと、
再起動します。

- 「かんたん設定」で自動設定された設定値を変更すると、ネットワークにつながらなくなることがありますので、変更する場合は注意して変更してください。

【センサー】

カメラがセンサー検知した画像を受け取るための、本製品内のFTPサーバーのアカウント名とパスワードを表示します。

設定項目	設定内容
FTPアカウント	本製品内のFTPサーバーにログインするためのアカウント名を設定します。
FTPパスワード	本製品内のFTPサーバーにログインするためのパスワードを設定します。

- 「FTPアカウント」と「FTPパスワード」は自動で設定されます。
セキュリティを確保する必要がある場合は変更してください。
- 「FTPアカウント」と「FTPパスワード」は半角英数字で6文字以上15文字以下で設定してください。ただし「"」は使えません。

【状態表示】

それぞれの設定値一覧を表示します。

項目	内容
バージョン	「本体ファーム」、「無線ファーム」情報を表示します。
ネットワーク	「IPアドレス」、「ネットマスク」、「DNS1」、「DNS2」、「プロキシサーバー」、「プロキシポート」、「MACアドレス」情報を表示します。
無線情報	「通信モード」、「SSID」、「無線ステルス」、「通信チャンネル」、「BSSID」、「MACアドレスフィルタリング」、「暗号化」情報を表示します。

設定メニューについて

カメラを手動で新規登録する

1 「設定メニュー」画面 (☞ 90ページ) から「カメラ設定」を選択し 決定 を押す

●暗証番号入力画面が表示されます。

2 暗証番号を入力して、カメラ設定画面を表示させる

●お買い上げ時の暗証番号は「9999」に設定されています。

●カメラ設定画面が表示されます。

● 暗証番号は初期設定で設定した暗証番号と同じです。(☞ 93ページ)

● グループカメラはカメラ名の右側の欄に「(グループ)」と表示されます。

3 登録カメラのリストから「未登録」を選択して 決定 を押す

● カメラ新規登録画面が表示されます。

4 それぞれの設定値を入力する

項目	内容
カメラ名	カメラ名を設定します。「カメラ名」を選択して 決定 を押すと文字入力画面が表示されます。(文字入力方法 ☞ 112ページ) カメラ名は半角1～15文字、全角1～7文字で設定してください。設定しなければ自動で登録されます。 ひらがな、全角カタカナ、半角英数字、全角記号、定型文が使えます。
カメラアドレス：ポート番号	カメラのIPアドレスまたはURLおよびポート番号を設定します。「IPアドレス：ポート番号」または「URL：ポート番号」の形式で入力してください。
プロキシ使用	プロキシサーバーを使用「する」、「しない」を設定します。 カメラアドレスで入力したURL、IPアドレスへのアクセスにプロキシを使用する必要がある場合は「する」を選択してください。 また、初期設定画面でプロキシサーバー、プロキシポートを入力してください（☞ 94ページ）
ユーザー名	カメラのユーザー名を設定します。
パスワード保存	パスワードの保存を「する」、「しない」を選択します。 「しない」を設定すると、カメラに接続するにはカメラのユーザー名とパスワードの入力が必要になります。 ● パスワードの保存を「しない」に設定すると、録画予約を設定することができません。(☞ 75ページ)
パスワード	カメラのパスワードを設定します。
画像確認	設定したカメラの画像を確認します。

5 「登録」を選択し 決定 を押す

● 「中止」を選択して 決定 を押すと入力値は登録されません。

● インターネット経由でカメラを登録する場合は、カメラアドレスにはカメラのIPアドレスまたはURLおよびポート番号を設定してください。
URLでカメラアドレスを設定する場合は、初期設定の「本体ネットワーク」の「DNS1/DNS2」に、正しいＩＰアドレスを設定してください。(☞ 94ページ)

● カメラアドレス：ポート番号には、http:// を省いて入力してください。

● カメラを手動で登録すると、登録したカメラはグループ外カメラとなります。グループカメラとして登録するには「かんたん設定」で登録してください。(☞ 26ページ)

設定メニュー

設定メニューについて

カメラの設定を変更する

カメラの設定を変更します。また、カメラをリストから削除したり、カメラリストの順番を入れ変えることができます。

1 カメラ設定画面を表示する (☞ 100ページ)

2 設定を変更するカメラを選択し (決定) を押す

●選択したカメラがグループカメラのときは、「グループカメラ設定」画面、グループ外カメラのときは、「グループ外カメラ設定」画面が表示されます。

【グループカメラ設定画面】

グループ
カメラ設定

カメラ情報
かくれンズ
ﾒﾝﾃﾅﾝｽ
状態表示
画像確認

カメラ名	CAM1
電源周波数	50Hz
ホワイトバランス	自動
ｾﾝｻｰﾎﾟｼﾞｼｮﾝ復帰時間	なし
画像更新間隔	動画
画質	標準

【グループ外カメラ設定画面】

●かくれンズを設定しているグループカメラを選択すると、「かくれンズ解除」画面が表示されます。
設定を変更するには、「はい」を選択してかくれンズを解除してください。

3 それぞれの設定値を入力する

●項目の選択方法は25ページを参照してください。

各種設定値 (グループカメラ設定)

【カメラ情報】

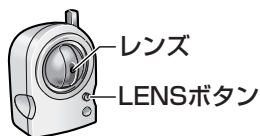
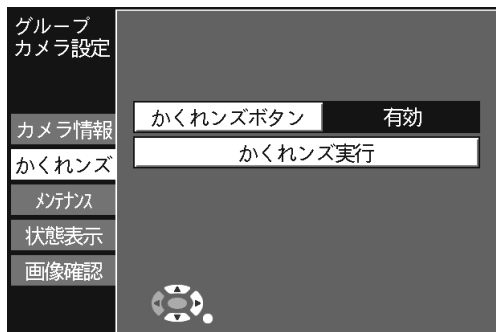
項目	内容
カメラ名	カメラ名を表示、変更します。 「カメラ名」を選択して (決定) を押すと文字入力画面が表示されます。(文字入力方法 ☞ 112ページ) カメラ名は半角1～15文字、全角1～7文字で設定してください。 設定しなければ自動で登録されます。 ひらがな、全角カタカナ、半角英数字、全角記号、定型文が使えます。ただし、半角の[スペース]、["]、[']、[&]、[<]、[>] は使えません。
電源周波数	「50 Hz」または「60 Hz」を選択します。 (東日本：50 Hz、西日本：60 Hz)
ホワイトバランス	「自動」、「屋内」、「蛍光灯（白色）」、「蛍光灯（昼白色）」、「屋外」、「ホールド※」から選択します。
センサーポジション復帰時間	「なし」、「1分」～「30分」から選択します。該当するカメラに、設定した時間内に操作が行われないと、センサーポジションの位置にレンズの向きを移動します。「みまもりもーど」やセンサー検知録画のためにあらかじめレンズの位置を自動的に戻しておくことができます。
画像更新間隔	モニタリング画面の画像更新間隔を「動画」、「3秒」、「5秒」、「10秒」から選択します。
画質	モニタリング画面の画質を「画質優先」、「標準」、「動き優先」から選択します。

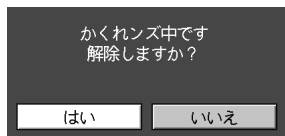
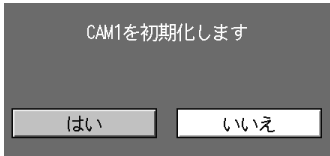
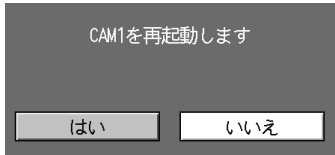
※「ホールド」を選択すると、現在設定中のホワイトバランスで登録されます。

- プリセット登録では、登録時に設定されている明るさ、ホワイトバランスも一緒に登録されます。(☞ 61ページ)
- プリセット操作を行うと、カメラの画像はプリセット登録時に設定した明るさ、ホワイトバランスで表示されます。

設定メニューについて

【かくれンズ】

「かくれンズ」は、モニタリングしないときや、されたくないときに、カメラのレンズの部分をカメラ本体内に隠して、誰からも見られていないことが、はっきりと分かるようにする機能です。カメラのLENSボタンを押して設定することもできます。

かくれンズ設定中はLENSボタンが赤点灯します。

項目	内容
かくれンズボタン	カメラのLENSボタン操作の有効／無効を選択します。 「無効」を設定するとカメラ側からのかくれンズ設定／解除はできません。
かくれンズ実行	かくれンズ機能を実行するには、「かくれンズ実行」を選択して（決定）を押す ● かくれンズ実行確認画面が表示されます。「はい」を選択して（決定）を押すと、かくれンズが設定されます。 かくれンズ実行 かくれンズを実行します はい　いいえ

- かくれンズを設定したカメラのモニタリング画面は表示されません。
- かくれンズを設定したカメラを選択すると下記画面が表示され、設定を変更することができません。
  設定を変更するには「はい」を選択して、かくれンズを解除してください。

- カメラのLENSボタンを押して設定したかくれンズも、上記画面で解除することができます。

【メンテナンス】

カメラの設定値初期化、再起動を行います。

項目	内容
設定初期化	カメラの設定を初期化するには、「設定初期化」を選択して決定を押します。 ● 初期化確認画面が表示されます。 「はい」を選択して決定を押すと、カメラの設定値が初期設定値に戻ります。※ CAM1を初期化します はい　いいえ
再起動	カメラを再起動するには、「再起動」を選択して決定を押します。 ● 再起動確認画面が表示されます。 「はい」を選択して決定を押すとカメラを再起動します。 CAM1を再起動します はい　いいえ

※ カメラのCLEAR SETTINGボタンを押さなくてもカメラを初期設定値に戻すことができます。

● カメラの設定を初期化すると ネットワークにつながらなくなります。再度かんたん設定でカメラを登録し直してください。

設定メニューについて

【状態表示】

カメラの設定値一覧を表示します。

グループ
カメラ設定
カメラ情報
かくれンズ
ﾒﾝﾃﾅﾝｽ
状態表示
画像確認

ネットワーク情報

モデル情報	BL-C30
アプリケーション	1.20b
CGI	1.01
IPアドレス	192.168.0.132
MACアドレス	00:80:F0:33:02:C8

項目	内容
状態表示	「モデル情報」、「アプリケーション」、「CGI」、「IPアドレス」、「MACアドレス」情報を表示します。

【画像確認】

設定内容を画面で確認します。

項目	内容
画像確認	設定した画像を画面で確認するには、「画像確認実行」を選択して (決定) を押します。 ● カメラの画像が低解像度で表示されます。

各種設定値 (グループ外カメラ設定)

【カメラ情報】

カメラ名、カメラアドレスを変更します。

項目	内容
カメラ名	カメラ名を表示、変更します。 「カメラ名」を選択して 決定 を押すと文字入力画面が表示されます。(文字入力方法　☞ 112ページ) カメラ名は半角1～15文字、全角1～7文字で設定してください。 設定しなければ自動で登録されます。 ひらがな、全角カタカナ、半角英数字、全角記号、定型文が使えます。ただし、[スペース]、["]、[’]、[＆]、[＜]、[＞] は使えません。
カメラアドレス：ポート番号	カメラのIPアドレスまたはURLおよびポート番号を設定します。 「IPアドレス：ポート番号」または「URL：ポート番号」の形式で入力してください。 ポート番号を設定しない場合は、80に設定されます。
プロキシ使用	プロキシサーバーを使用「する」、「しない」を設定します。 カメラアドレスで入力したURL、IPアドレスへのアクセスにプロキシを使用する必要がある場合は「する」を選択してください。 また、初期設定画面でプロキシサーバー、プロキシポートを入力してください（☞ 94ページ）
画像更新間隔	モニタリング画面の画像更新間隔を「動画」、「3秒」、「5秒」、「10秒」から選択します。
画質	モニタリング画面の画質を「画質優先」、「標準」、「動き優先」から選択します。

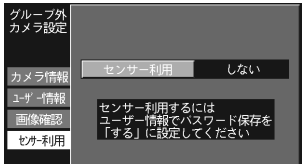
設定メニューについて

【ユーザー情報】

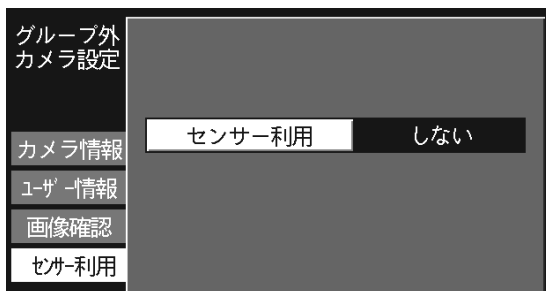
カメラのユーザー名およびパスワードの変更とパスワードを保存「する」／「しない」を選択します。

項目	内容
ユーザー名	カメラのユーザー名を表示、変更します。 「ユーザー名」を選択して 決定 を押すと文字入力画面が表示されます。(文字入力方法 ☞ 112ページ)
パスワード保存	パスワード保存を「する」、「しない」を選択します。 「しない」を設定すると、カメラに接続するには、ユーザー名とパスワードの入力が必要になります。また録画予約も設定できません。(☞ 75ページ)
パスワード	パスワードを変更します。 「パスワード」を選択して 決定 を押すと文字入力画面が表示されます。(文字入力方法 ☞ 112ページ)

【画像確認】

設定内容を画面で確認します。

項目	内容
画像確認	設定した画像を画面で確認するには、「画像確認実行」を選択して 決定 を押します。 ● カメラの画像が低解像度で表示されます。

【センサー利用】

センサー利用を設定します。

項目	内容
センサー利用	センサー利用を「する」／「しない」を選択します。 センサー検知録画をする場合や、みまもりもーどを設定する場合は「する」を設定してください。 ● パスワード保存を「しない」に設定しているとセンサー利用を設定できません。センサー利用を設定するにはパスワード保存を「する」に変更してください。(☞ 108ページ)

- 常時センサー録画を設定しているカメラの「センサー利用」を「しない」に変更すると「このセンサーは常時センサー録画に設定中です。予約を取り消してください」と表示されます。
  「センサー利用」を「しない」に設定するには、常時センサー録画の予約 (☞ 82ページ)、およびタイマー録画のセンサー録画 (☞ 76ページ) を取り消してください。
- グループ外カメラでみまもりモード（☞ 66ページ）やセンサー録画 (☞ 74ページ) 、常時センサー録画（☞ 78ページ）を行う場合にはセンサー利用を「する」に設定してください。

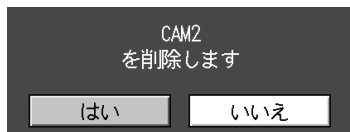
設定メニュー

設定メニューについて

カメラをリストから削除する

1 カメラ設定画面を表示する (☞ 100ページ)

2 カメラリストから削除するカメラを選択して [1] を押す

- 削除確認画面が表示されます。

3 「はい」を選択して (決定) を押す

- カメラリストからカメラが削除されます。
- 削除後は未登録となります。

- 録画予約中のカメラを削除すると下記エラー画面が表示されます。

このカメラは
タイマー録画で利用中です
予約を取消してください

【タイマー録画予約中】
→ 81ページの操作で、タイマー録画を取り消したあと、カメラを削除してください。

このカメラは
常時センサー録画で設定中です
予約を取消してください

【常時センサー録画予約中】
→ 82ページの操作で、常時センサー録画を取り消したあと、カメラを削除してください。

このカメラは
常時センサー録画で設定中です
タイマー録画で利用中です
予約を取消してください

【タイマー録画と常時センサー録画を予約中】
→ 82ページの操作で、常時センサー録画予約を取消したあと、81ページの操作でタイマー録画予約を取り消し、そのあとでカメラを削除してください。

- [⏲] キーでタイマーを「切」にしても録画予約を取り消していない場合は、カメラを削除できません。
- みまもりカメラ設定が「あり」のカメラを削除すると下記エラー画面が表示されます。

このセンサーは
みまもりもーどで使用中です
みまもりカメラ設定でみまもり
なし（—）にしてください

みまもりカメラ設定画面でカメラの「みまもり」を「なし (—)」に設定後 (☞ 66ページ)、カメラを削除してください。

カメラリストの順番を入れ替える

1 カメラ設定画面を表示する (☞ 100ページ)

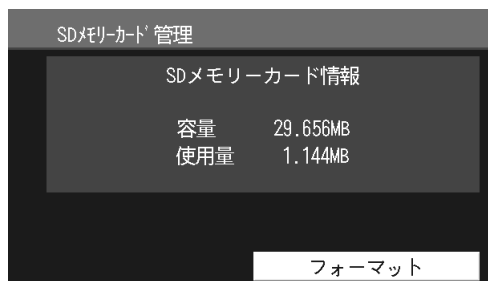
2 ■ 1つ上のカメラと順番を入れ替えるには
カメラリストでカメラを選択して [2] を押す

■ 1つ下のカメラと順番を入れ替えるには
カメラリストでカメラを選択して [3] を押す

- 通常モードのカメラリストに表示されるカメラの表示順序と、かんたん設定の画面で表示されるカメラの順序は別々に管理されています。
かんたん設定でカメラの追加などを行う場合、カメラ設定画面でカメラの表示順を変更していると、かんたん設定で登録されたカメラの順番と同じ順番でカメラ設定画面に表示されるとは限りません。

SDメモリーカードの情報を見る

1 「設定メニュー」画面 (☞ 90ページ) から「SDメモリーカード管理」を選択し (決定) を押す

●SDメモリーカード管理画面が表示されます。

SDメモリーカードを初期化する

「フォーマット」を選択して (決定) を押すと、SDメモリーカードが初期化されます。

- 「フォーマット」を実行するとすべてのデータが消去されます。
よく確認してから実行してください。

設定メニュー

文字を入力する

文字設定が必要な設定項目を選択して (決定) を押すと、文字入力画面が表示されます。

「終了」を選択して (決定)を押す、または ■(停止) を押すと、入力文字が登録され、前画面に戻ります。

- 「消去」を選択して (決定)を押す、または 1 を押すとカーソル部分の文字を消去します。
- カーソルが最後尾にあるときは、ひとつ前の文字を消去します。

- (決定) で項目を選択して (決定) を押すと、それぞれの文字入力パネルが表示されます。
- 表示される項目は、設定項目により異なります。

［例：パスワード設定での文字入力画面］

その他の機能

画面情報を表示する

モニタリング中の画面情報を表示する

モニタリング画面表示中に 画面表示 を押すと、「ショート情報表示」→「ロング情報表示」→「拡張操作パネル」→「画面表示なし」の順で画面情報が表示されます。

【ショート情報表示】

カメラ名とカメラの状態表示マークを表示します。

状態表示マーク	状態
緑	モニタリング中
グレー	カメラとの接続切断／再接続中
赤	録画中
(アイコン)	SDメモリーカードに録画しない予約 (ビデオやDVDなどに録画) 実行中
(アイコン)	センサー録画待機中

その他

その他の機能

【ロング情報表示】

モニタリング中のカメラの電波状態と設定状態を表示します。

モニタリング中のロング情報表示

項目	状態
タイマーアイコン	タイマー予約状態を表示します。 アイコン表示　　　：タイマー予約あり アイコン表示なし　：タイマー予約なし
ブザーアイコン	ブザー機能の「切／入」状態を表示します。 アイコン表示　　　：ブザー機能「入」 アイコン表示なし　：ブザー機能「切」
アンテナアイコン	無線電波状態をアンテナアイコン (4段階表示) で表示します。

【拡張操作パネル】

モニタリング中のカメラの拡張操作パネルを表示します。
拡張操作パネルには、解像度パネル、スキャン操作パネル、明るさ操作パネルがあり、それぞれの項目で設定を選択後 (決定) を押すと、背景の画面に反映されますので、設定変更後の画面を確認しながら設定することができます。

拡張操作パネル

解像度パネル

明るさ操作パネル

スキャン操作パネル

項目	状態
解像度	モニタリング画面の表示解像度を設定します。 高　：640×480ドット 低　：320×240ドット
スキャン	カメラのパンスキャン/チルトスキャン操作します。 パン　：左右終端位置までスキャンして元の位置に戻る チルト：上下終端位置までスキャンして元の位置に戻る
明るさ	モニタリング画面の明るさを調整します。 ー　：明るさのレベルを相対的に1つ下げる 標準　：明るさのレベルを標準にする ＋　：明るさのレベルを相対的に1つ上げる

- 拡張操作パネル表示中は [0] キー (カメラリスト表示)、○メニュー (メニュー画面表示) の操作はできません。
  画面表示 を押して画面を切り換えてから、操作を行ってください。
- プリセット登録では、登録時に設定されている解像度、明るさも一緒に登録されます。(☞ 61ページ)

その他

再生中の動画情報を表示する

動画表示中に 画面表示 を押すと、「ショート情報表示」→「ロング情報表示」→「画面表示なし」の順で表示されます。

【ショート情報表示】

【ロング情報表示】

※ 録画モードをHIGH, LOW, LONG, —— のいずれかで表示します。
通常録画した画像は、モニタリング画面の設定値で録画されるため —— で表示されます。

表示中の静止画情報を表示する

静止画表示中に［画面表示］を押すと、「ショート情報表示」→「ロング情報表示」→「画面表示なし」の順で表示されます。

【ショート情報表示】

【ロング情報表示】

その他

その他の機能

録画中の録画情報を表示する

通常録画、または予約録画中に 画面表示 を押すと、「ショート情報表示」→「ロング情報表示」→「画面表示なし」の順で表示されます。

【ショート情報表示】

録画方法により表示される録画中マークは異なります。

- SDメモリーカードに録画中

- SDメモリーカードへの録画を待機中

- SDメモリーカードに録画しない予約を実行中

【ロング情報表示】

一時的にカメラとの接続を切断する

複数のユーザーが同じカメラにアクセスしてモニタリングすると、ネットワークに負荷がかかりカメラの操作速度が遅くなることがあります。
必要ない場合 (テレビ番組に画面を切り換えている場合など) は、映像終了をしてカメラとの接続を切断してください。

1 ◯メニュー を押す

● メニュー画面が表示されます。

2 (停止) を押す

● 表示中のカメラとの接続が切れて、メニュー画面の背景がブルーになります。

カメラとの接続を再開 (映像開始) するには：

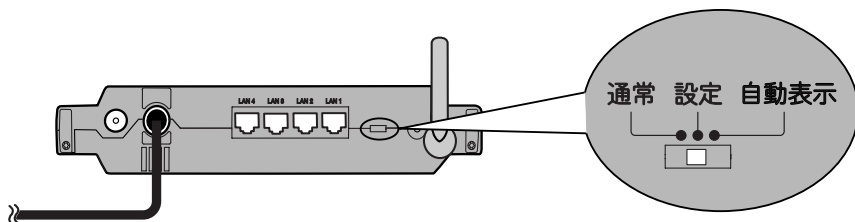
● メニュー画面で ▶/II (再生) を押す
● カメラリスト画面でカメラを選択する

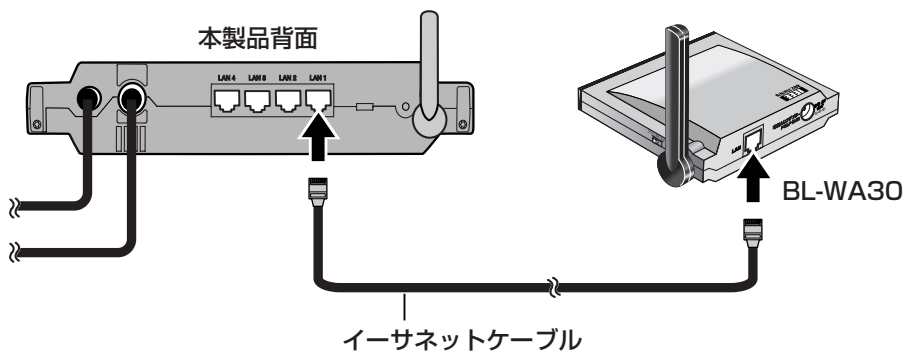
本製品を再起動した場合も、カメラとの接続が自動的に再開されます。

BL-C10を無線LANアダプターに接続して使う

BL-C10を無線LANアダプター (BL-WA30) に接続すると、BL-C10を無線で使用することができます。

● 無線LANアダプターに接続して使用するBL-C10は、あらかじめ、かんたん設定で登録しておいてください。(☞ 32ページ)

1 本製品の電源を切って、モード切換スイッチを「設定」に切り換える

2 本製品の電源を入れる

3 無線LANアダプターを付属のイーサネットケーブルで本製品のLANジャック1～4のいずれかに接続する

4 無線LANアダプターのモード切換スイッチを「設定」に切り換えて、無線LANアダプターの電源を入れる

- 「かんたん設定」を開始します。
- かんたん設定が完了すると「無線設定完了」と表示されます。

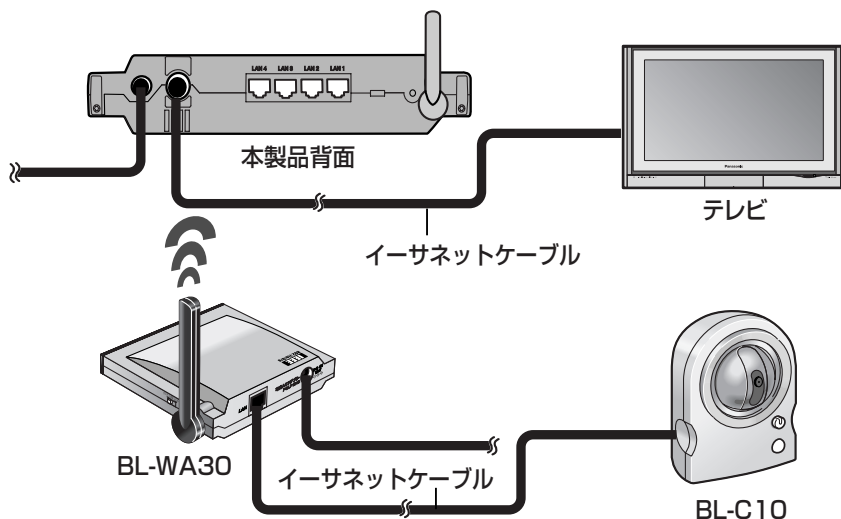
かんたん設定

本体ネットワーク ルーターなし	設定完了
無線 対応ルーターなし	設定完了
CAM1	登録完了
CAM2	登録完了
カメラ3	未登録
カメラ4	未登録
カメラ5	未登録
カメラ6	未登録
カメラ7	未登録
カメラ8	未登録

無線設定完了

5 無線LANアダプターのモード切換スイッチを「クライアント」に切り換えて電源を入れ直し、BL-C10と無線LANアダプターをイーサネットケーブルで接続する

6 本製品のモード切換スイッチを「通常」に切り換えて、電源を入れ直す

- 無線LANアダプターに接続したBL-C10のモニタリング画像を本製品で見ることができます。

その他の機能

各種動作中に他の操作が重なった場合の動作について

【カメラAでモニタリング中】

項目	動　作
カメラBでセンサー検知	カメラBのモニタリング画面に切り換わります。
カメラBでセンサー予約録画	カメラBのモニタリング画面に切り換わり、センサー録画を開始します。
カメラBでタイマー予約録画	カメラBのモニタリング画面に切り換わり、タイマー録画を開始します。
カメラリスト表示	表示できます。
パン/チルト操作	操作できます

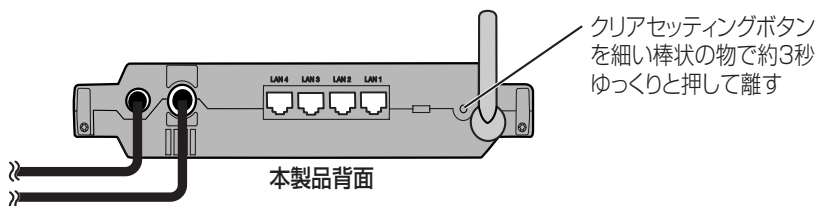
【カメラAで通常録画中】

項目	動　作
カメラBでセンサー検知	通常録画を優先します。
カメラBでセンサー予約録画	センサー予約録画時刻が近づくと「予約録画開始時刻が近づいています」と表示されます。 センサー予約録画時刻になると通常録画を中止します。
カメラBでタイマー予約録画	タイマー予約時刻が近づくと「予約録画開始時刻が近づいています」と表示します。 タイマー予約時刻になると通常録画を中止します。
カメラリスト表示	表示できません。
パン/チルト操作	操作できます。

【カメラAでセンサー録画中／タイマー録画中】

項目	動　作
カメラBでセンサー検知	画面は切り換わりません
カメラリスト表示	表示できません。
パン/チルト操作	操作できません

お買い上げ時の設定(初期設定値)に戻す

クリアセッティングボタンを押すと、初期設定値に戻り、カメラに接続できなくなります。
初期設定値に戻したあとは、再度基本設定から設定をし直してください。

1 電源が入った状態で、本製品の背面のモード切換スイッチを「設定」に切り換える

2 クリアセッティングボタンを約3秒間押して、離す

- 「ピッ」と鳴ったあとに、再度「ピー」と音がすれば完了です。
- 再起動後、基本設定画面が表示されます。

3 かんたん設定をやり直す (☞ 26ページ)

- KX-MS10は、お買い上げ時の設定でBL-C30と本製品のかんたん設定を完了していますが、クリアセッティングボタンを押すと、設定はクリアされ、カメラに接続できなくなります。基本設定から設定をし直してください。
- KX-MS10は、お買い上げ時の設定で「みまもりカメラ設定」が「あり」に設定されていますが (☞ 66ページ)、クリアセッティングボタンを押すと「なし」に設定されます。

カメラを増設する

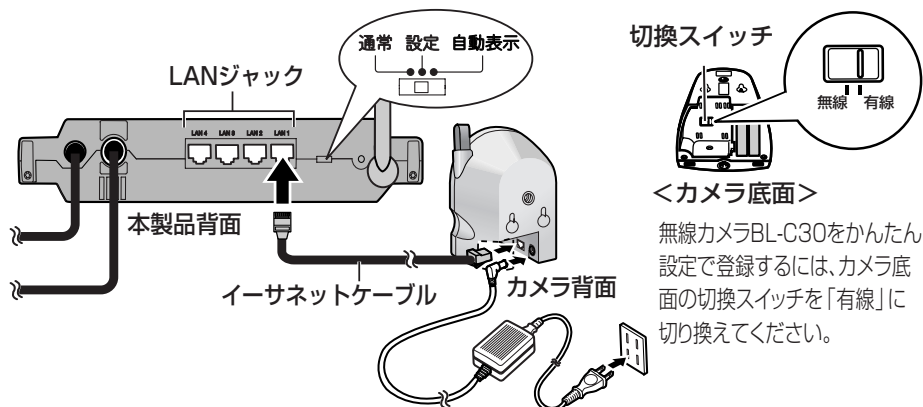
グループカメラとして、かんたん設定で追加できるカメラのバージョンは、1.20以上です。
本製品対応カメラのパッケージにはシールを貼っています。(☞ 3ページ)
ご確認のうえ、ご購入いただくようお願いいたします。
設定済みのカメラは、グループカメラとしてかんたん設定できません。
カメラを初期設定値に戻してから (☞ 180ページ) かんたん設定を行ってください。
接続できるカメラは、最大で8台です。

1 本製品背面のモード切換スイッチを「設定」に切り換え、電源をいったん切ってから入れ直す

- BL-BR30と接続してお使いの場合は、本製品のLANジャック1～4のいずれかと、BL-BR30を接続してからBL-BR30と本製品の電源を入れてください。

カメラを増設する

2 カメラを付属のイーサネットケーブルで、本製品のLANジャック1～4のいずれかに接続してカメラの電源を入れる

●BL-BR30と接続してお使いの場合は、本製品とBL-BR30は接続したままカメラを接続してください。
●カメラとの「かんたん設定」を開始します。

●登録が完了すると、ブザー音が鳴り、ワイヤレスインジケーターが登録したカメラの台数分、緑点滅します。

カメラの登録が完了すると「登録完了」と表示されます。

●かんたん設定の画面はお使いのネットワーク環境により異なります。
●手動でカメラを登録することもできます。(☞ 100ページ)
ただし、追加したカメラはグループ外カメラとなります。

● カメラをさらに追加するには、イーサネットケーブルを追加するカメラにつなぎ直して、手順2の操作を行ってください。

3 すべてのカメラを手順2の操作で登録後、本製品の電源を切る

4 カメラの画像を確認してください。

●カメラの設置は、カメラの画像が表示されるのを確認してから行ってください。(☞ 34ページ、43ページ、52ページ)

カメラのユーザー名を変更する

管理者ユーザー名、管理者パスワードを設定せずに、かんたん設定で登録したカメラの画像をパソコンで見るには、カメラのユーザー名、パスワードを変更する必要があります。下記手順を行ってください。

1 初期設定画面を表示する (☞ 92ページ)

2 カメラネットワークで、管理者ユーザー名と管理者パスワードを設定する (☞ 95ページ)

3 本製品のモード切換スイッチを「設定」に切り換え、電源を入れ直す

4 カメラを初期設定値に戻して (☞ 180ページ)、登録する (☞ 123ページ)

- かんたん設定を開始すると、かんたん設定画面で該当カメラの表示が「登録済み」から「登録中」に変わります。
  登録が完了すると「登録完了」と表示されます。
- 管理者ユーザー名、管理者パスワードは半角英数字で6文字以上15文字以下で設定してください。ただし「”」、「<」、「>」、「:」、「&」は使用できません。

カメラをネットワークに公開するには

BL-BR30に接続したカメラの画像をインターネットで公開するには

カメラの画像をインターネットで公開し、携帯電話やパソコンで見ることが出来るようにするには、以下の手順に従って設定を行ってください。
なお、BL-BR30はインターネットに接続できるように設定されているものとします。

1 パソコンのウェブブラウザを起動し、アドレスバーに半角でhttp://blbr.webpageと入力し、Enterキーを押す

- BL-BR30のポート番号の工場出荷時設定は80です。ポート番号が80以外に設定されている場合は、http://blbr.webpage:ポート番号と入力してください。

2 カメラモニター画面のカメラ枠内をクリックする

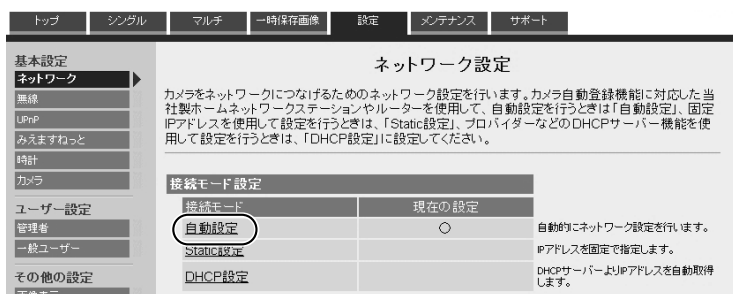
3 カメラユーザー名とパスワードの入力画面が表示されるので、本製品の基本設定で設定した管理者ユーザー名と管理者パスワードを入力し OK をクリックする

- カメラのシングル画面が表示されます。

4 自動設定をクリックする

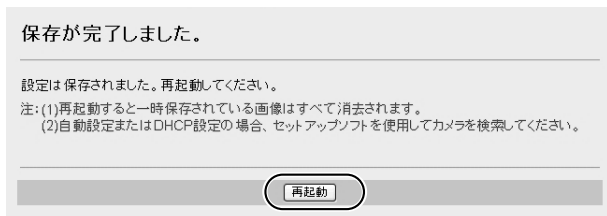
●ネットワーク設定画面が表示されます。

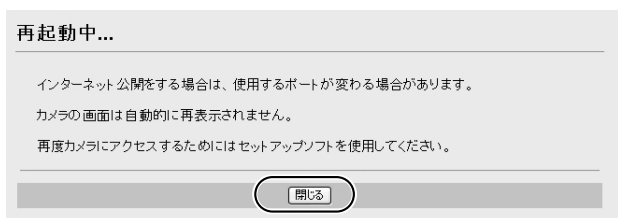
5 画面上部の設定タブをクリックする

●自動接続設定画面が表示されます。

6 ネットワーク公開設定で、「公開」にチェックをし 保存 をクリックする

カメラをネットワークに公開するには

7 再起動 をクリックする

- カメラが再起動し、再起動中の画面が表示されます。

8 閉じる をクリックする

- カメラの再起動が完了すると、設定は完了です。

9 複数のカメラをインターネット公開するには上記手順1から8を繰り返す

- インターネットからアクセスするグローバルアドレスについては、BL-BR30の設定画面上で、 ステータス → ネットワーク接続情報 にアクセスし、ネットワークインターフェース欄に表示されるWAN側IPアドレスを参照してください。カメラ画像を携帯電話でモニターするには、カメラの取扱説明書を参照ください。

BL-BR30以外のルーターに接続したカメラの画像をインターネットで公開するには

かんたん設定を行う前に、パソコンからカメラの設定画面にアクセスして、インターネット公開の設定を行ってください。
その際、カメラのIPアドレスは固定IPアドレスにしてください。
そのあと、かんたん設定でカメラを登録してください。(☞ 46ページ)
詳しくは、ルーターの取扱説明書を参照してください。

本製品の初期設定値（お買い上げ時の設定）

項　目			初期設定値
時刻合わせ			2004年1月1日(木)00分
初期設定	本体	暗証番号	9999
		音量	2
	本体ネットワーク	IPアドレス	192.168.0.250
		ネットマスク	255.255.255.0
		ゲートウェイ	192.168.0.1
		DNS1	0.0.0.0
		DNS2	0.0.0.0
		プロキシサーバー	—
		プロキシポート	8080
	カメラネットワーク	開始アドレス	192.168.0.131
		管理者ユーザー名	—
		管理者パスワード	—
	無線	無線動作モード	アクセスポイント
		通信モード	802.11b/g
		SSID	本製品の背面に記載
		無線ステルス機能	使用する
		通信チャンネル	AUTO
		暗号化	使用する
		暗号化キー	使用キー番号：1
			キー1タイプ～キー4タイプ：英数13文字
			キー1～キー4：本製品の背面に記載
		MACアドレスフィルタリング	使用しない
		許可アドレス	—
	センサー	FTPアカウント	—
		FTPパスワード	—

製品仕様

【本体】

LANインターフェース

項　目	仕　様
ポート数	4ポート
コネクター形状	8ピンモジュラージャック(RJ-45)
物理インターフェース	IEEE802.3 (10BASE-T) IEEE802.3u (100BASE-TX) MDI／MDI-X自動検知有

無線インターフェース

項　目	仕　様
＜IEEE802.11g＞	
伝送方式	OFDM方式(IEEE802.11g準拠)/DS-SS方式 (IEEE802.11b互換)、半二重
通信速度 ([規格値] Mbps)	54／48／36／24／18／12／9／6※ (IEEE802.11g準拠)：自動フォールバック
周波数範囲(MHz)	2412～2472 (中心周波数)
チャネル数	13
＜IEEE802.11b＞	
伝送方式	DS-SS方式、半二重
通信速度 ([規格値] Mbps)	11／5.5／2／1※　(IEEE802.11b準拠)：(自動フォールバック)
周波数範囲(MHz)	2412～2472(中心周波数)
チャネル数	13
通信飛距離	屋内見通し：約120 m　(BL-C30との通信時) 屋外見通し：約600 m　(BL-C30との通信時) ・通信距離は環境条件により変化します。鉄筋コンクリートの建物および大型金属製品、電子レンジの近く、盗難防止機器の近くなどでは、通信距離が短くなることがあります。間に障害物（壁や家具、什器）などがある場合、周囲の環境により利用できる範囲は短くなります。

※表示の数値は、無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

映像出力

項　目	仕　様
映像方式	NTSC方式
出力端子	1系統
出力レベル	1.0Vp-p(75Ω)

ユーザーインターフェース

項　目	仕　様
クリアセッティングボタン	工場出荷時設定用
モード切換スイッチ	通常、設定、自動表示（3ポジション）
ブザー	カメラのセンサー検知
インジケーター表示	電源 (緑／オレンジ／赤色)、センサー (オレンジ) ブザー (緑)、SDメモリーカード (緑／オレンジ) ワイヤレス (緑)、LAN1 ～ LAN4 (緑)
記録メディア	SDメモリーカード

その他

項　目	仕　様
電源ACアダプター	AC100 V (50 Hz/60 Hz) DC12 V (品番：PQLV202JP) DCコード長：約1.8 m ACコード長：約55 cm（別付け） 消費電力：7.5 W
アンテナ	ダイバーシティアンテナ
外形寸法	幅 x 高さx 奥行き：約220 mm x 42 mm x 171 mm (アンテナ収容状態／スタンド無し)
質量	約 500 g (本体のみ)
使用環境	温度 0～40 ℃、湿度 20～85 %（ただし、結露なきこと）
電波障害防止	VCCI クラスB

製品仕様

【ソフトウェア】

カメラビューア

項　目	仕　様
カメラ画像表示	最大8台のカメラ画像を表示 動画（モーションJPEG）：640×480、320×240 1画面8ページ、4画面2ページ カメラのパン/チルト操作、画像サイズ切換、画質切換
SDメモリーカードへの録画再生	動画（モーションJPEG）：640×480、320×240 QuickTime形式で保存 静止画（JPEG）：640×480、320×240 時刻指定によるカメラ画像録画
カメラの人感センサーサポート	センサー入力イベントによるカメラ画像自動切り換え センサー入力をブザー／LEDで通知 センサー入力イベントによるカメラ画像自動録画

設定

項　目	仕　様
かんたん設定	当社製カメラ、ルーターとの接続に必要なネットワーク、無線関連の設定を自動で行う

無線端末機能

項　目	仕　様
セキュリティ	WEP (64 bit/128 bit/152 bit)、無線ステルス機能（SSID隠蔽、ANYキーによる接続拒否／許可）、MACアドレスフィルタリング

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェア使用許諾条件

本製品は、以下のGPL/LGPLライセンス適用のソフトウェアを使用しております。
お客様へこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、および再配布の権利があることをお知らせいたします。
詳細は後述の「GNU GENERAL PUBLIC LICENSE」および「GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE」の内容によるものとします。

なお、ソースコードの詳細は義務に従い記載しています。
お問い合わせには、お答えいたしかねますのでご了承ください。

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.
For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.
We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally,, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

   b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

   c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a

warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

   a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

   b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

   c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control

compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.
This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. **BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE**

COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be
introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be
consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain
special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.
In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

   A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

   The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

   "Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

   Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

   You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.

   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.

   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

   (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

   Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

   This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

   If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

   However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not.
Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6.
Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system,

rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.

b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

    If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

    It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

    Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. **BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.**

16. **IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY**

MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting
redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the
"copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

> *one line to give the library's name and a brief idea of what it does.*
> *Copyright (C) year name of author*
>
> This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.
>
> This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.
>
> You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

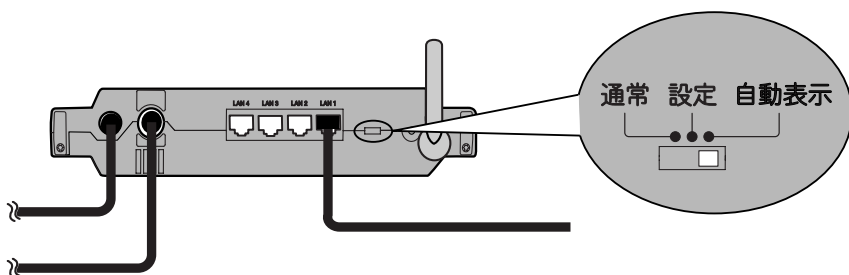
signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

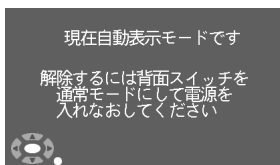
That's all there is to it!

リモコンをなくしたときは

「自動表示」モードに切り換える

本製品の操作はリモコンで行います。
リモコンをなくした場合は、ご購入先の販売店にて再度ご購入ください。（リモコン品番：EUR648055）
ただし、モード切換スイッチを「自動表示」に切り換えると、リモコンなしでも登録カメラの画面を順次表示させることができます。

1 本製品のモード切換スイッチを「自動表示」に切り換えて電源を入れ直す

- 起動画面表示後、カメラのモニタリング画面が表示されます。
- 画面は一定時間間隔で、カメラリストに登録されているカメラの画面を順次表示します。

- 自動表示モード中にリモコン操作を行うと、下記画面が表示され操作を行うことができません。

- 自動表示モードでは表示のみを行い、録画予約は実行されません。
- グループカメラ、グループ外カメラを問わず登録されているカメラの画像を順次表示します。ただし、グループ外カメラでパスワードを「保存しない」に設定しているカメラの画像は、スキップして次の画像を表示します。
- カメラの電源が入っていないなどの原因で、接続できないカメラの場合は、画面上に「カメラに接続できません」と5 ～10秒間表示後、次のカメラの画像を表示します。

エラーメッセージ一覧

【かんたん設定中のエラーメッセージ】

エラーメッセージ	原因と対策
カメラのかんたん設定に失敗しました 接続を確認して設定をやり直してください	● カメラのかんたん設定中に、応答がなくなったなどの理由により、かんたん設定処理が完了しなかった場合に表示されます。 →ケーブル抜けがないかどうかを確認して、カメラのCLEAR SETTINGボタンを押してから、かんたん設定をやり直してください。
無線のかんたん設定に失敗しました 接続を確認して設定をやり直してください	● 無線ＬＡＮアダプターのかんたん設定中に、応答がなくなったなどの理由によりかんたん設定処理が完了しなかった場合に表示されます。 →ケーブル抜けがないかどうかを確認して、無線LANアダプターの電源を入れ直してください。
旧ファームを搭載したカメラです カメラのバージョンアップを行ってください	● かんたん設定で接続されたカメラが、バージョン1.2未満の旧ファームウェアのカメラである場合に表示されます。 カメラはグループ外カメラとして登録されますが、カメラに対して利用できる機能が著しく制限されます。 →カメラをバージョンアップ後、いったんカメラリストから削除して再度登録し直すことをおすすめします。
旧ファームを搭載したカメラが見つかりました カメラのバージョンアップを行ってください	● すでに設定済みのカメラで、バージョン1.2未満の旧ファームウェアのカメラを見つけた場合に表示されます。カメラはグループ外カメラとして登録されますが、カメラに対して利用できる機能が著しく制限されます。 → カメラをバージョンアップ後、いったんカメラリストから削除して再度登録し直すことをおすすめします。

症　状	原因と対策
ネットワークの設定に失敗しました 初期設定値とルーターの設定を見直してください	● ルーターの設定でサブネットマスクが255.255.255.248, 255.255.255.252の場合は、かんたん設定できません。 →サブネットマスクの設定255.255.255.0 としてお使いください。 ● ルーターの設定でサブネットマスクが255.255.255.0以外の場合、カメラの開始アドレスを手動で設定する必要があります。 →上級設定画面のカメラIPアドレスに、ルーターと同じネットワークセグメントのアドレスを入力してください。

【通常モード時のエラーメッセージ】

エラーメッセージ	原因と対策
暗証番号が違います	● 初期設定およびカメラ設定選択時の暗証番号入力で、暗証番号を間違えて入力した場合に表示されます。 →正しい暗証番号を入力してください。 暗証番号を忘れた場合は、クリアセッティングボタンを押して、お買い上げ状態に戻してから、再度かんたん設定でカメラを登録し直してください。
カメラに接続できません	● カメラの電源が入っていない、またはカメラが正しく接続されていない場合に表示されます。 →カメラの電源と接続、ならびにカメラ設定の状態表示でカメラのIPアドレスを確認してください。
カメラと通信できません	● カメラの電源が入っていない、またはカメラが正しく接続されていない場合に表示されます。 →カメラの電源と接続、ならびにカメラ設定の状態表示でカメラのIPアドレスを確認してください。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	原因と対策
設定できませんでした	● グループカメラの設定変更をした際に、カメラにアクセスできなかった場合に表示されます。 →カメラの電源と接続、ならびにカメラ設定の状態表示でカメラのIPアドレスを確認してください。 ● プリセット登録やグループカメラ設定のカメラ名登録において、使用できない文字を使用して登録した場合に表示されます。 → 使用可能な文字で登録してください。
入力に誤りがあります	● プリセット登録画面でプリセット登録名を空白のままで登録した場合に表示されます。 → プリセット登録名を入力してください。
開始時刻と終了時刻が同じためタイマー予約ができません	● タイマー録画設定で、開始時刻と終了時刻を同じ時刻に設定した場合に表示されます。 → 開始時刻と終了時刻との差を１分以上あけてください。
以前に設定された予約と時刻が重複しています	● タイマー録画設定で、設定した曜日、時刻などが、すでに登録されている設定内容と重複した場合に表示されます。 →重複しない設定内容に変更してください。
センサーを利用するにはユーザー情報設定で管理者のユーザー名、パスワードを入力する必要があります	● グループ外カメラ設定でセンサー利用変更時に、設定しているID，パスワードが管理者用でなかった場合に表示されます。 →ユーザー情報にて、管理者のユーザー名、パスワードを入力してください。
カメラ名が入力されていません	● グループ外カメラの新規登録時に、カメラ名が未入力の状態で画像確認ボタンおよび登録ボタンを押した場合に表示されます。 →カメラ名を入力してください。
カメラアドレス：ポート番号が入力されていません	● グループ外カメラの新規登録時に、カメラアドレスが未入力の状態で画像確認ボタンおよび登録ボタンを押した場合に表示されます。 →カメラアドレスを入力してください。

エラーメッセージ	原因と対策
記録に失敗しました（通信エラー）	● 通常録画中、カメラからの画像受信が何らかの要因でできなくなった場合に表示されます。 →カメラモニタリングが可能な状態で録画を行ってください。
このセンサーはみまもりもーどで使用中です みまもりカメラ設定でみまもりなし（－）に設定してください	● みまもりカメラ設定を「あり」に設定しているグループ外カメラのセンサー利用を「しない」に変更した場合に表示されます。 → みまもりカメラ設定画面にて、「－（なし」に設定してください。 ● みまもりカメラ設定を「あり」に設定しているカメラを削除しようとした場合に表示されます。 →みまもりカメラ設定画面にて、「－（なし」に設定してください。
このセンサーは常時センサー録画で設定中です 予約を取消してください	● 録画予約を「常時センサー録画」に設定しているグループ外カメラのセンサー利用を、「しない」に変更した場合に表示されます。 →常時センサー録画の設定カメラを「未選択」にするか、別のカメラに設定し直してください。
このセンサーはタイマー録画で利用中です 予約を取消してください	● タイマー録画予約の内容を「センサー」で設定しているグループ外カメラのセンサー利用を、「しない」に変更した場合に表示されます。 → タイマー録画予約の内容を全てに変更するか、予約を取消してください。
このセンサーは常時センサー録画で設定中です タイマー録画で利用中です 予約を取消してください	● 録画予約を「常時センサー録画」に設定していて、かつタイマー録画予約の内容を「センサー」で設定しているグループ外カメラのセンサー利用を、「しない」に変更した場合に表示されます。 →常時センサー録画の設定カメラを「未選択」にするか、別のカメラに設定し直してください。 またはタイマー録画予約の内容を全てに変更するか、予約を取消してください。

エラーメッセージ一覧

エラーメッセージ	原因と対策
このカメラは常時センサー録画で設定中です 予約を取消してください	● 録画予約を「常時センサー録画」に設定しているカメラを削除しようとした場合に表示されます。 →常時センサー録画の設定カメラを「未選択」にするか、別のカメラに設定し直してください。
このカメラはタイマー録画で利用中です 予約を取消してください	● タイマー録画予約しているカメラを削除しようとした場合に表示されます。 →タイマー録画予約を取消してください。
このカメラは常時センサー録画で設定中です タイマー録画で利用中です 予約を取消してください	● 録画予約を「常時センサー録画」に設定しているかつ、タイマー録画予約しているカメラを削除しようとしたとき →常時センサー録画の設定カメラを「未選択」にするか、別のカメラに設定し直してください。 またはタイマー録画予約の内容を全てに変更するか、予約を取消してください。

【自動表示モード時のエラーメッセージ】

エラーメッセージ	原因と対策
現在自動表示モードです 解除するには背面スイッチを通常モードにして電源を入れなおしてください	● 自動表示モード中にリモコン操作をした場合に表示されます。 →背面のモード切換スイッチを「通常」にして電源を入れ直してください。

【SDメモリーカード使用時のエラーメッセージ】

エラーメッセージ	原因と対策
プロテクトがかかっています プロテクトをはずして実行してください	● SDメモリーカードのプロテクトがONになっている場合に表示されます。 → SDメモリーカードのプロテクトをOFFにしてください。
SDメモリーカードが入っていません	● SDメモリーカードが挿入されていない場合に表示されます。 → SDメモリーカードを挿入してください。
SDメモリーカードがいっぱいです	● SDメモリーカードの空き容量が足りない場合に表示されます。 → 空き容量のあるSDメモリーカードを挿入する、または不要なデータを削除してください。
有効なSDメモリーカードではありません	● 本製品で認識できないSDメモリーカードを使用した場合に表示されます。。 → 認識可能なSDメモリーカードを使用する、または本製品でフォーマットし直してください。(☞ 111ページ)
フォーマットできませんでした	● フォーマットに失敗した場合に表示されます。 → 再度フォーマットし直してください。それでもフォーマットできない場合は、別のSDメモリーカードをご使用ください。

エラーメッセージ一覧

【基本設定画面、初期設定画面でのエラーメッセージ】

エラーメッセージ	原因と対策
6文字以上入力してください 文字入力パネルに戻り 編集を続けますか？	●「管理者ユーザー名」、「管理者パスワード」、「FTPアカウント」、「FTPパスワード」の設定において、6文字未満の入力で登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
ユーザー名とパスワードは異なるものを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「管理者ユーザー名」の設定において、「管理者パスワード」と同じ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
パスワードとユーザー名は異なるものを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「管理者パスワード」の設定において、「管理者ユーザー名」と同じ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
アカウントとパスワードは異なるものを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「FTPアカウント」の設定において、「FTPパスワード」と同じ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
パスワードとアカウントは異なるものを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「FTPパスワード」の設定において、「FTPアカウント」と同じ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。

エラーメッセージ	原因と対策
SSIDを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「SSID」の設定において、1文字も入力せずに登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
使用できない文字が含まれています 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「管理者ユーザー名」、「管理者パスワード」の設定において、使用不可能な文字を含んだ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
本体IPアドレスとは異なる値を設定してください もう一度設定を行いますか？	● 本体ネットワーク「IPアドレス」の設定において、登録した値がカメラネットワーク「開始アドレス」と同じ値である場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
16進数 0〜9,A〜F,a〜fで設定してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「暗号化キー 1 〜 4 」の設定において、使用不可能な文字を含んだ値を登録した場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。
キータイプで設定した長さを入力してください 文字入力パネルに戻り編集を続けますか？	●「暗号化キー 1 〜 4 」の設定において、登録した値が暗号化キータイプで設定した値で指定した長さと異なる場合に表示されます。 →「はい」を選択し、文字パネルから使用可能な設定値を入力するか、「いいえ」を選択し入力を中止してください。

故障かなと思ったとき (BL-WV10)

共通

症　状	原因と対策
電源が入らない	● 電源プラグがコンセントから抜けていませんか。
リモコンが操作できない	● 電池が消耗していたり、電池の極性が違っていませんか。 ● リモコン受光部に日光などの強い光が直接当たっていませんか。 ● リモコンと本製品の間に障害物（ラックなどの色つきガラスも含む）がありませんか。 ● 背面のモード切換スイッチが「自動表示」になっていませんか。 → 切換スイッチを「通常」にして電源を入れ直してください。
リモコンでテレビの電源が入らない	● テレビの本体の電源が「入」になっていますか。 ● テレビのメーカーコードが間違っていませんか。
操作できない	● 電源インジケーターが赤色に点滅し続けていませんか。あるいは、3回以上のブザー音が鳴り続けませんか。 → 電源コンセントからACアダプターを抜き、再度差し込んでください。 解決しない場合は、お買い上げの販売店へ連絡してください。
管理者パスワード、暗証番号を忘れた	● 初期設定の内容をお買い上げ時の状態に戻してください。 → 電源が入っているときに、背面の「クリアセッティング」ボタンを細い棒状の物で約3秒ゆっくりと押して離す

テレビ画面や映像

症　状	原因と対策
映像が出ない	● 映像ケーブルの接続やテレビ側の入力切り換えを確認してください。
カメラ画像が出ない	● イーサネットケーブルが正しく接続されていますか。 → イーサネットケーブルが正しく接続されているとLANインジケーターが緑色に点灯します。
ＴＶ画面に「お客様ご使用機器に不具合を発見しました。下記コードを添えて修理をご依頼ください。エラーコード：F□□」（F□□は３桁の英数字でF30,F40,F50,F91など）が表示された	● 電源コンセントからACアダプターを抜き、再度差し込んでください。 → 解決しない場合は、お買い上げの販売店へ連絡してください。

症　状	原因と対策
画像が左右に伸びる 画面サイズがおかしい	● テレビの画面モードなどを使って調節してください。 (ワイド画面のモード設定によって、左右に伸びる場合があります)

録画

症　状	原因と対策
録画ができない	● 録画ができないSDメモリーカードが入っていませんか。 ● フォーマットされていないSDメモリーカードが入っていませんか。 ● SDメモリーカードが書き込み禁止（プロテクト）になっていませんか。 ● SDメモリーカードの残量はありますか。不要なデータを削除するか、新しいSDメモリーカードを使ってください。
録画したデータが消えた	● 録画中に停電や電源コードが抜けるなどで電源が切れませんでしたか。 → データが消えたり、SDメモリーカードが使えなくなることがあります。SDメモリーカードを初期化するか、新しいSDメモリーカードを使ってください。 （当社では消えたデータや、使えなくなったSDメモリーカードの補償はいたしません。）
録画画像の日時が ＊＊/＊＊ になっている	● 録画中にSDメモリーカードを取り出しませんでしたか。 → 録画中には、SDメモリーカードを取り出さないでください。

予約

症　状	原因と対策
予約録画できない	● 予約内容が間違っていませんか。 ● 予約インジケーターが点灯していますか。 → リモコンの「タイマー切／入」を押して予約インジケーターを点灯してください。 ● 時刻が合っていますか。
「■」（停止）を押しても予約録画が停止しない	● 予約録画を停止するには、リモコンの「タイマー切／入」を押してください。

故障かなと思ったとき (BL-WV10)

SDメモリーカード

症　状	原因と対策
フォーマットできない	● SDメモリーカードが書き込み禁止（プロテクト）になっていませんか。 ● 本製品で使用できないMMCなどを使っていませんか。

かんたん設定

症　状	原因と対策
グループカメラにならない	● パソコンなどで設定済みのカメラをかんたん設定しようとしていませんか。 → パソコンなどで設定済みカメラを、グループカメラとしてかんたん設定するには、基本設定で管理者ユーザー名,管理者パスワードの欄に、かんたん設定したいカメラと同じユーザー名とパスワードを、設定しておく必要があります。 ● BL-C10とBL-C30以外のカメラはグループカメラとしては登録されません。 ● BL-C10とBL-C30のファームウエアは、バージョン1.20以上になっていますか。 ● 一度グループ外カメラとして登録されたカメラはカメラを初期化してもグループカメラとして登録されません。 → 通常モードのカメラ設定画面にて、カメラを削除してから､カメラを初期化して再度かんたん設定してください。 ● BL-WV10を2台接続した状態でカメラのかんたん設定を行うと、片方のBL-WV10にはグループカメラとして登録されますが、もう片方のBL-WV10にはグループ外カメラとして登録されます。 → まず両方のBL-WV10に、カメラの管理者ユーザー名と管理者パスワードを同じものを設定します。 次にBL-WV10同士を接続せずに、カメラをそれぞれのBL-WV10に接続して1回ずつ登録してください。
かんたん設定できない	● かんたん設定できるカメラは、最大8台です。 ● イーサネットケーブルが正しく接続されていますか。 → イーサネットケーブルが正しく接続されているとLANインジケーターが緑色に点灯します。 ● お買い上げ時の設定(初期設定値)のカメラは、電源投入後20分以上経過するとかんたん設定できません。 → 再度カメラの電源を入れ直してください。

症　状	原因と対策
かんたん設定できない	● BL-C30をかんたん設定する場合、カメラの切換スイッチは「有線」になっていますか。 ● パソコンなどで設定済みカメラをかんたん設定する場合、WV10のIPアドレスとカメラのIPアドレスが同じネットワーク上のアドレスになっていますか。
ルーターを接続しているのにルーターなしと表示される	● ルーターの電源はBL-WV10よりも先に入っていますか。 → ルーターの電源を入れて1分以上待ってからBL-WV10の電源を入れてください。 ● ルーターの設定でDHCPサーバー機能がOFFになっていませんか。 → かんたん設定はできません。通常モードで起動し、初期設定メニューの本体ネットワークの項目を手動で設定してください。
無線 対応ルーターなしと表示される	● BL-BR30を接続していない場合に表示されます。 → 無線情報は機器ごとに異なる初期値で設定されていますので、そのままご利用いただけます。 ● BL-BR30の無線設定で、無線を使用しないになっていませんか。
無線 対応ルーターなし(取得値NG)と表示される	● BL-BR30の無線設定で、通信モードが 802.11a になっていませんか。 → BL-WV10をリピーターとしてお使いになる場合には、BL-BR30の通信モードを802.11a以外にしてください。BL-WV10をアクセスポイントとして使用する場合には通常モードで起動し、初期設定メニューの無線の項目を手動で入力してください。
カメラのかんたん設定が失敗する	●「カメラを接続する」の手順通りになっていますか。 → 登録失敗となった場合は、カメラを初期化したあと、BL-WV10の電源を入れ直してかんたん設定をやり直してください。 ● BL-BR30をお使いの場合、BL-BR30とBL-WV10がイーサネットケーブルで接続されていますか。
カメラのかんたん設定が失敗する	● BL-BR30をお使いの場合、BL-BR30の設定でカメラ設定の項目は正しいですか。 ● ルーター以外に、当社製アクセスポイントが接続されていませんか。 → 該当するアクセスポイントをネットワークから外して、BL-WV10の電源を入れ直してください。
「無線設定中」と表示される	● BL-WV10に無線LANアダプター(BL-WA30)を接続したり、他のBL-WV10を接続した場合に表示されます。 接続した機器に対して同じ無線情報の設定を行ったという意味で表示されます。

故障かなと思ったとき (BL-WV10)

症　状	原因と対策
カメラの登録に時間がかかる	● ネットワーク構成によってはカメラの再起動を伴い、登録完了まで2～3分かかる場合があります。
ネットワークカメラの画像が見れない	● 本製品は、かんたん設定時に、ルーター本体からネットワーク情報を取得した後で、他の機器が使用していないアドレスを自動的に検索し、固定IPとして使用します。また、かんたん設定を行ったカメラも固定IPアドレスで設定されています。 かんたん設定を行った後で、同じIPアドレスを持った他の機器が接続されると、IPアドレスの重複により正常に動作しないことがあります。 → IPアドレスが重複している他の機器の設定を変更するか、本製品およびカメラのネットワーク設定を変更するか、本製品をお買い上げ状態時の設定に戻し、カメラを初期化したあとで､かんたん設定をやり直してください。
ルーターを接続していないのに無線対応ルーターから取得と表示される	● BL-BR30以外にも、当社製かんたん設定対応機器(BL-WV10自身も含みます) と接続して無線情報を取得した場合には、このように表示されます。
2台のBL-WV10同士を接続した場合に本体IPアドレスの値が重複してしまう	● BL-WV10同士を接続してかんたん設定した場合、どちらにも同じIPアドレスが設定されます。 → 重複している、本体ネットワークのIPアドレスを重複しないように変更してください。(☞ 94ページ)

故障かなと思ったとき (BL-C10/BL-C30)

無線

症　状	原因と対策
かんたん設定したカメラの画像が見れない	● BL-C30を1m以内に近づけた状態でカメラのかくれンズボタンが緑点灯していますか。 ■ カメラのかくれンズボタンが緑点灯していない場合 → カメラの切替スイッチが「有線」になっている場合は「無線」に切り替えてください。 → カメラの切替スイッチが「無線」になっている場合は、再度かんたん設定で登録をし直してください。 ■ カメラのかくれンズボタンが緑点灯している場合 → 無線の電波状態を確認して、電波状態の良い場所に設置してください。(☞ 36ページ)
無線端末に接続できない	● 無線端末の通信モードを、「Infrastructure(インフラストラクチャー)」にしてください。工場出荷時設定は、機器固有のSSIDと128bit暗号キーが設定されています。SSIDと128bit暗号キーの工場出荷時設定は、本製品背面に記載してあります。本製品に接続する無線端末に同じSSIDと128bit暗号キーを設定してください。 ● 無線端末の通信モードを「802.11a」に設定していませんか。 → 本製品は、「802.11a」に対応していません。無線端末の通信モードを「802.11a」以外に変更してください。 ● 無線端末や本製品が、電波の届かない場所にあるか、コンクリートの壁などの障害がある可能性があります。無線端末を近くに設置してください。 ● 無線動作モードを「リピーター」で使用する場合は、BL-BR30と本製品の電源を入れたあとに、無線端末を再起動してください。BL-BR30以外のルーターを使用するか、ルーターを使用しない場合は、無線通信モードを「アクセスポイント」にして使用してください。 ● 無線接続していたネットワーク機器を有線接続にかえるなど、ネットワーク構成を変えた場合は、本製品を再起動してください。

接続

症　状	原因と対策
BL-C30をMACアドレスフィルタリング登録してもBL-C30と通信できない	● BL-C30をMACアドレスフィルタリング登録する場合は、BL-C30の2つのMACアドレスを登録してください。(☞ 97ページ)

困ったときには

故障かなと思ったとき (BL-C10/BL-C30)

本製品のインジケーター表示について

症　状	原因と対策
電源を入れたあと、インジケーターがオレンジに点灯または点滅する	● イーサネットケーブルが正しく接続されていない。 →イーサネットケーブルを正しく接続してください。 ● ルーターが正しく動作していない。 →ルーターが正しく動作しているか確認してください。 ● 有線モードで接続しようとしているのに有線／無線切換スイッチが「無線」になっている、あるいは、無線モードで接続しようとしているのに有線／無線切換スイッチが「有線」になっている。(BL-C30の場合) →切換スイッチを該当するモードに設定してください。 ● 無線設定がルーターや本製品と同じ設定になっていない。(BL-C30の場合) →かんたん設定をやり直してください。
インジケーターが緑に点滅し続ける	● かんたん設定が完了していない。 →かんたん設定をやり直してください。
インジケーターが赤に点滅し続ける	● カメラが故障している。 →お買い上げの販売店へ連絡してください。
インジケーターが赤に点灯している	● かくれンズ機能を使っている。 →カメラ前面にあるLENSボタンを押す、もしくはかくれンズ機能を解除してください。(☞ 104ページ)
無線LANでの通信時にインジケーターが緑点灯しない	● 電波状態が悪い。(BL-C30の場合) →カメラの設置場所を変えたり、障害物を除いて見通しを良くしてから再度通信してください。

カメラ画像、画面表示について

症　状	原因と対策
画像の焦点が合わない	● レンズにゴミ、汚れ、指紋、曇りなどが付着している。 →綿棒でゴミなどをふきとってください。(☞ 181ページ) ● 被写体までの距離が近すぎる。 →近距離 (0.5 m未満) では、焦点が合いません。被写体から0.5 m以上離して使用してください。
画像の色がよくない	● ホワイトバランスが合っていない。 →設定画面で、ホワイトバランスを設定してください。(☞ 103ページ)

症　状	原因と対策
画像にノイズが入る	● 被写体の環境が暗い。 →使用環境を明るくしてください。 ● 設置している場所の電源周波数とカメラの設定値が合っていない。 →設定画面のカメラ設定項目の電源周波数を、設置場所の電源周波数に合わせてください。（(☞ 103ページ) ● 明るい被写体を写しているときは、カメラ画像にフリッカーノイズ（横方向のノイズ）が発生することがあります。 →被写体を変えると、フリッカーノイズは消えます。
明るさが急激に変化したときに、数十秒間画像が適切な明るさに戻らない	● カメラの仕様です。 →カメラを明るさが急激に変化しない場所に設置してください。
画像の更新が遅い	● 複数のユーザーが同時にアクセスしている。 →複数のユーザーが同時にアクセスすると、画像の更新が遅くなります。
無線でカメラに接続しているときに、動画が停止する	● 無線接続は、環境によって、接続が切れ、動画が停止する場合があります。(BL-C30の場合) →カメラリストから再度カメラを選択してください。
無線端末に接続できない	● 無線端末や本製品が、電波の届かない場所にあるか、コンクリートの壁などの障害がある可能性がある。 →無線端末を近くに設置してください。
無線接続が不安定である	● 他の無線LANと通信チャンネルが重なっている。 →ルーターの通信チャンネルを変更することで改善されることがあります。 ● 電波障害となる電子機器や障害物があります。 →画面情報で電波状態を確認してください。(☞ 114ページ)障害となる電子機器や障害物を移動することで改善されることがあります。

故障かなと思ったとき（BL-C10/BL-C30）

人感センサーについて

症　状	原因と対策
人感センサーが反応しない	● かくれンズ設定中で人感センサーが動作していない。 →かくれンズ設定中は、人感センサーも停止します。かくれンズ設定を解除してください。（☞ 104ページ） ● 人感センサーの前に障害物がある。 →ガラスやアクリルなどの透明な材質のものでも人感センサーの反応に大きな影響を与えます。障害物を取り除いてください。 ● 検知範囲外で人や動物などの動きを検知しようとしている。 →人感センサーは、検知範囲（水平方向約30゜、垂直方向約85゜、距離約5 m）の温度と人体などの移動するものとの温度差を検知します。したがって、この温度差が小さくなると検知距離が徐々に短くなります。温度差がないときは、検知範囲内でも検知しないことがあります。また、温度差が大きくなると検知距離は長くなります。 ● 人感センサーの表面が汚れている。 →柔らかい乾いた布でふいて、汚れを取り除いてください。
人感センサーが誤検知する	● カメラの設置場所が下記のようなところでは、誤検知することがあります。 • 直射日光のあたる場所 • 台所など油汚れがついたり、蒸気がかかったりする場所 • エアコンのそばなど温度変化の激しい場所 • 前方にガラスなどの障害物がある場所 • 温度に影響するような強い発光物がある場所 • 強い電波を発信する製品のそば →カメラの設置場所を変更してください。

用語解説

英字

DHCP
(Dynamic Host Configuration Protocol)

各パソコンがネットワークを利用するのに必要な情報をサーバーから自動的に取得するプロトコルです。DHCPサーバーは、ネットワークに関連した情報 (IPアドレスの割り振り範囲やデフォルトゲートウェイなど) を保持しており、DHCPクライアントから要求がくると、それらの情報を割り振ります。

DNS
(Domain Name System)

ネットワーク環境で実際使用されるIPアドレスは、憶えにくく実用的ではありません。その解決法としてわかりやすい名前(ドメイン名)をつけて、IPアドレスに変換して通信が行われます。ドメイン名では、たとえば“panasonic.jp”などがあります。

FTP
(File Transfer Protocol)

インターネットやイントラネットなどのTCP/IPネットワークでファイルを転送するときに使われるプロトコル。現在のインターネットでHTTPやSMTP/POP3と並んで頻繁に利用されているプロトコルです。

IEEE 802.11b

IEEE(米国電気電子学会)の無線LANの規格です。802.11は赤外線も含む無線ネットワーク全般に関する規格であり、その中の802.11bは2.4 GHz帯を使用する最高11 Mbps※1のネットワーク規格を定めています。この規格の作成には、米国だけでなく日本やヨーロッパからも参加しています。

IEEE 802.11g

IEEE(米国電気電子学会)の無線LANの規格です。802.11gは、IEEE 802.11bと互換性を持ち、同じ2.4 GHz帯を使いながら、最大で54 Mbps※1のデータ通信が行えます。本製品では、IEEE 802.11bと互換性のある
モードを802.11b/gと記載し、IEEE 802.11bと互換性のないモードを802.11g専用と記載しています。

IPアドレス

IPプロトコルで使用するためのアドレス情報です。IPで通信するすべてのネットワーク機器にはこのIPアドレスを割り振っておかなければなりません。特に、インターネットに接続されているネットワーク機器(端末)では、世界中でユニークな(単一な)IPアドレスを割り振っておく必要があります。

※1 無線LAN規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

用語解説

JPEG
(Joint Photographic Experts Group)

TU-TS (国際電気通信連合：旧CCITT)とISO (国際標準化機構)で定めたカラー静止画の圧縮、伸張を定める標準規格。静止画を1/10 ～ 1/100に圧縮することができます。

LAN
(Local Area Network)

フロアの中や同一建物内、キャンパスの中など、比較的狭い地域でのコンピューターネットワークのことです。

MAC アドレス
(Media Access Control Address)

LANカードなどに固有でつけられている物理アドレスのことです。00:11:22:AA:BB:CC といった形式で表されます。同じMACアドレスをもつネットワーク機器は存在しません。すべて異なる物理アドレスが割り振られています。

POP3
(Post Office Protocol Version 3)

インターネットやLANで、Eメールを受信するためのプロトコル。クライアントが、メールサーバーからEメールを受信する際に用いられ、認証機能をもちます。この認証機能をSMTPでEメール送信する場合に、利用するメールサーバーもあります（POP before SMTP)。

SMTP
(Simple Mail Transfer Protocol)

インターネットやLANでEメールを送信するためのプロトコル。サーバー間でEメールの送受信をしたり、クライアントがサーバーにEメール送信する際に用いられます。

SSID

無線ネットワークグループの識別名です。無線接続をグループ分けするためのものです。「ESSID」とも言います。半角英数字記号1～32文字まで入力できます。(英字は大文字、小文字の区別があります。)

SD(Secure Digital)メモリーカード

小型・軽量で大きな記憶容量をもつ着脱可能な外部メモリーカードです。カードへの書き込みやフォーマットを禁止する書き込み禁止スイッチを備え、SDMI(デジタル音楽著作権保護協会)の規格に対応可能な著作権保護機能をもっています。

URL
(Uniform Resource Locator)

インターネット上のリソースを指定する方式です。具体例としては、インターネット上のウェブサイトにアクセスする際に使用する「http://panasonic.jp」のことです。

あ

アクセスポイント

プロバイダーやパソコン通信に電話回線で接続する際に、接続できるサーバーのある場所や電話番号のこと。

暗号化

第三者によるデータの傍受を防ぐために、ネットワークの伝送経路で規則に従ってデータを変換することを意味します。暗号化方式には、共通鍵暗号方式(Shared Key)、公開鍵方式(Open System)などがあります。

暗号化キー

無線通信における暗号化技術を意味します。第三者によるデータの傍受を防ぐために、送信パケットを暗号化することでセキュリティを高める技術です。16進数入力の場合は0 ～9、A～Fもしくはa～fの入力ができます。英数字入力の場合はアスキー文字の入力ができます。

暗号化キーサイズ

64/128/152 bitの暗号化方式が選択できます。

備考：暗号化は、64 bit、128 bit、152 bitの順でセキュリティ強度が高くなります。逆に、実質の通信速度は、なし、64 bit、128 bit、152 bitの順で遅くなります。

インターネット

地球規模でマルチメディア通信ができるネットワークです。プロバイダーがインターネットへの接続サービスを行っています。

か

ゲートウェイ

ゲートウェイは、ルーティング情報を交換しネットワークを管理しているコンピューター(ルーターなど)でネットワークのパケットの道先案内をします。ローカルネットワーク以外への通信は、デフォルトゲートウェイを介して行われます。

さ

サブネットマスク

IPアドレスは、ネットワークIDとホストIDによって構成されます。そのネットワークIDとホストIDとを区別するために、サブネットマスクがネットワークIDの長さを判定する役目をします。

人感センサー

人感センサーとは、人や動物などの温度をもつものから自然に放射されている赤外線による温度変化を検知するセンサーです。焦電センサーとも呼ばれています。

用語解説

ストレートケーブル
通常は、パソコンとイーサネットハブを接続するためのケーブルの種類です。

た

チャンネル
無線通信で使用できる周波数帯域を分割すると、別々の通信ができます。分割したそれぞれの周波数がチャンネルです。(全13チャンネル)

な

ネットマスク
「サブネットマスク」を参照。

ネットワーク
情報交換のためにコンピューターなどの各種装置、機器などがケーブルや公衆回線、無線などを介して接続されていることです。

は

パスワード
ファイルやネットワークを利用する際に鍵の役目をする合言葉(文字や数字)です。ネットワークのセキュリティ上、ユーザー識別のためにあらかじめ言葉を登録します。登録されている言葉と一致しない場合は、ファイルやネットワークを利用することはできません。

ファームウェア
本製品を動作させるプログラムです。本製品ではフラッシュメモリの中に格納されています。

フレームレート
表示や動画の再生において、単位時間に何回画面を書き替えることができるかを表す指標です。

プロキシサーバー
組織内のネットワークとインターネットとの境界で、内部ネットワークの「代理(プロキシ)」として、インターネットとの接続を行うコンピューターやソフトウェアを意味します。内部ネットワークからの特定接続の許可や、外部ネットワークからの不正なアクセスの遮断を行います。回線の負荷を軽減するために、読み込んだファイルを一定時間保存しておくキャッシュ機能をもつプロキシサーバーもあります。

ポート番号

TCPやUDPで、サービス(アプリケーションの種類)を区別するために使われる番号。たとえば、EメールのSMTPは25、HTTPは80が一般的に用いられます。

ホワイトバランス

被写体の白色部分を基準にして、全体の色調を合わせる機能を意味します。白色を再現できれば、撮影する場所の光の種類によって自然な色合いを再現できます。

ま

無線LAN

配線を必要としないLAN(ローカルエリアネットワーク)のことです。同一建物内や敷地内など、比較的狭い範囲で電波や赤外線、レーザーなどを使用してネットワークを構築します。

無線LANアダプター

デスクトップパソコンなどを接続して、無線端末として利用することができます。

無線ステルス機能

無線LAN機器が容易にネットワークを検知するために、ネットワークの識別子であるSSIDを一定時間ごとに周囲に発信する機能があります。
無線LAN機器は、容易にネットワークを検知できる反面、セキュリティ上の弱点となる可能性があります。無線ステルス機能は、SSIDを隠蔽することでネットワークの存在を容易に検知されないようにします。

ら

リピーター

無線機器とアクセスポイントの中継機器として使用できます。
リピーターモードで使用することにより、より広い範囲、また死角エリアへの中継を可能とします。

ルーター

異なるネットワーク同士を相互接続するネットワーク機器です。異なるネットワーク間の中継点に設置して、ネットワークを介して送信されるデータをきちんと目的の場所に届ける役目をもっています。ネットワーク内を流れてきたデータが外部のネットワークあてであれば、ルーターはそのデータを外部に送り出し、ルーターはそのときにどういう経路でデータを配信するかまで判断し、最適なルートに送りだしています。

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申しつけください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- 使いかた・お買い物などのお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■補修用性能部品の保有期間

当社は、このモニタリングテレビアダプターの補修用性能部品を、製造打ち切り後7年間保有しています。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理を依頼されるとき

「故障かなと思ったとき」(☞ 160〜168ページ) に従ってご確認のあと、直らないときは、まずACアダプターを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
  保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間を過ぎているときは**
  修理すれば使用できる製品については、ご要望により修理させていただきます。
  下記修理料金の仕組みをご参照のうえ、ご相談ください。
- **修理料金の仕組み**
  修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
  技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
  部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
  出張料 は、お客様のご依頼により製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	モニタリングテレビアダプター
品　番	BL-WV10/K
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

お願い

- **停電などの外部要因により生じたデータの損失ならびに、その他直接、間接の損害につきましては、当社は責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。**

本製品は日本国内用です。国外での使用に対するサービスはいたしかねます。

修理に関するご相談

ナショナル・パナソニック
修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル・パナソニック
お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電 話 フリーダイヤル **0120-878-365** (パナは 365日)

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品(ツーリスト商品他)等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30
(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

ナショナル・パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

北 海 道 地 区

地区	住所・電話
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241(函館流通卸センター内) ☎(0138)48-6631

東 北 地 区

地区	住所・電話
青森	青森市第二問屋町3-7-10 ☎(017)739-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120
宮城	仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
山形	山形市平清水1丁目1-75 ☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南/内65 ☎(0243)34-1301

首 都 圏 地 区

地区	住所・電話
栃木	宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555
群馬	高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109
茨城	つくば市花畑2丁目8-1 ☎(029)864-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960
千葉	千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
山梨	甲府市宝1丁目4-13 ☎(055)222-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
新潟	新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-0171

保証とアフターサービス

ナショナル・パナソニック 修理ご相談窓口

中部地区

石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683	名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
富山	富山市寺島1298 ☎(076)432-8705	岡崎	岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
福井	福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606	岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
長野	松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)86-9209	高山	高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
静岡	静岡市西島765 ☎(054)287-9000	三重	久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近畿地区

滋賀	守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021	奈良	大和郡山市筒井町800番地 ☎(0743)59-2770
京都	京都市伏見区竹田中川原町71-4 ☎(075)672-9636	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225	兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

中国地区

鳥取	鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695	浜田	浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629
米子	米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129	岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162
松江	松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128	広島	広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
出雲	出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133	山口	山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050

四国地区

香川	高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477	高知	南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125	愛媛	松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144

九州地区

福岡	春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036	宮崎	宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213
佐賀	佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151	熊本	熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
長崎	長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658	天草	本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
大分	大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815	鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
		大島	名瀬市長浜町10-1 ☎(0997)53-5101

沖縄地区

沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。 0904

さくいん

英字

あ

か

さ

さくいん

た

は

ま

や

ら

BL-C10/BL-C30について

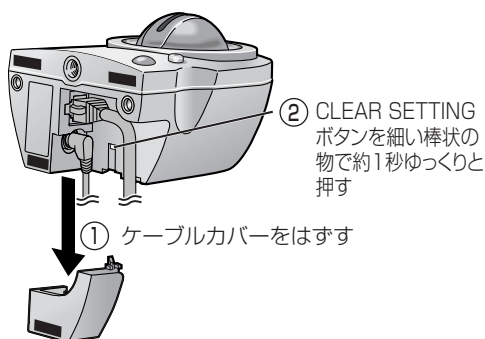
BL-C10/BL-C30の操作については、それぞれのカメラのセットアップCD-ROM内に入っている取扱説明書のPDFデータを参照してください。

以下に、BL-C10／BL-C30のセットアップCD-ROM内から「CLEAR SETTINGボタンについて」、「お手入れ」、「仕様」について抜粋して記載します。

CLEAR SETTINGボタンについて

設定した値やパスワードは、CLEAR SETTINGボタンを押すと、初期設定値に戻ります。

CLEAR SETTINGボタンは、カメラの底面にあります。

■ BL-C10

■ BL-C30

電源が入っているときにCLEAR SETTINGボタンを約1秒押してください。

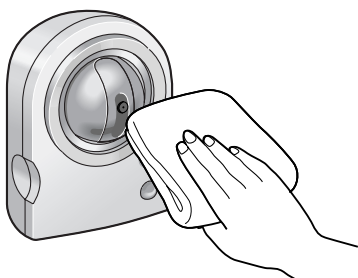
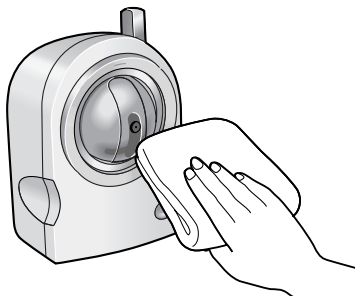
- インジケーターが橙点滅をはじめます。カメラのレンズが左右上下に動作して、停止すれば終了です。作業には約1分かかります。
  設定した内容やパスワードは消去され、初期設定値に戻ります。
- 初期化が完了すると、ひきつづき橙色の点滅のまま起動動作をはじめます。
  起動後約3分でネットワークに接続されない場合は、インジケーターが橙点灯します。
  ネットワークに接続された場合には、緑点灯します。

- CLEAR SETTINGボタンを押して設定値を初期設定値に戻すと、ネットワークに接続できなくなります。
  再度かんたん設定（☞ 26ページ）で設定を行ってください。
  電源を入れて20分以上経過したカメラは、かんたん設定できません。
  その場合は、再度電源を入れ直してください。

お手入れについて

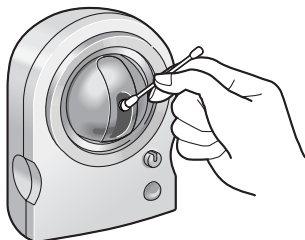
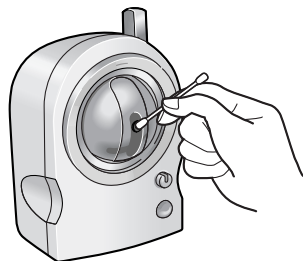
お手入れは、カメラの電源を切ってから行ってください。

【本体】

柔らかい乾いた布でふいてください。

■ BL-C10

- アルコール類、みがき粉、粉せっけん、ベンジン、シンナー、ワックス、石油、熱湯は使わないでください。また、殺虫剤、ガラスクリーナー、ヘアスプレーなどをかけないでください。（変色、変質の恐れがあります。）
- 布でふくときに、パン／チルト可動部に無理な力を加えないでください。故障の原因になります。
- 人感センサーが汚れていると温度変化を検知しにくくなることがありますので、きれいにふいておいてください。

【レンズ】

レンズに汚れがつくと、画質が悪くなったり、ピントが合いにくくなる原因になります。綿棒で、ゴミ、ホコリなどをふきとってください。

■ BL-C10

■ BL-C30

レンズに直接触れないでください。
（指紋がつくと、焦点がぼける原因となります。）

BL-C10/BL-C30について

仕様

■ BL-C10

ホームネットワークカメラ

項　目	仕　様
パン・チルト角度	パン：−50°～+50°、チルト：−40°～+10°
撮像素子	1/4インチ　32万画素　CMOSセンサー
対応照度	1～10,000ルクス
ホワイトバランス	オート／マニュアル／ホールド
調整可能部分	明るさ
焦点	固定焦点
フォーカス範囲	0.5 m～∞
レンズ　F　No.	F2.8
水平画角	43°
露光制御	オート

その他の仕様

項　目	仕　様
画像圧縮方式	JPEG (3レベル)
画像解像度	640×480ドット、320×240ドット（初期設定値）、160×120ドット
一時保存画像※1	時刻表示つきで約250枚（320×240ドット）画質標準
フレームレート※2	最大7.5枚／秒（640×480ドット） 最大15枚／秒（320×240ドット、160×120ドット）
サポートプロトコル	TCP、UDP、IP、HTTP、FTP、SMTP、DHCP、DNS、ARP、ICMP、POP3
画像転送条件	人感センサー、タイマー設定：曜日 / 時 / 分 / 秒
画像転送方法	SMTP／FTP

※1 一時保存画像の枚数は、被写体により変わります。
※2 フレームレートは、被写体、画質、ネットワーク環境やパソコンの性能で変わります。

その他の仕様

項　目	仕　様
インターフェース	10／100Base-T(X) イーサネット×1ポート コネクター形状：8ピンモジュラー（RJ-45）
センサー検知方式	焦電型赤外線センサー
センサー検知範囲	水平方向約30 °、垂直方向約85 °、距離約5 m （検知範囲の温度20 ℃のとき）
インジケーター	電源表示用 (ネットワークのリンクと動作表示用)
外形寸法 （幅、高さ、奥行）	約 74 mm × 約 98 mm × 約 61 mm（本体のみ、突起部除く）
質量	約160 g（本体のみ）
電源	専用ACアダプター　(品番 PQLV1JPY) 入力：　AC 100 V、50/60 Hz 出力：　DC 8.5 V、270 mA 消費電力：　待機状態　約2.5 W （カメラ本体接続時）　最大（パンスキャン時）約4 W
温度	動作時：5 ℃～+40 ℃　保存時：0 ℃～+50 ℃
湿度	動作時：20%～80%（ただし、結露なきこと） 保存時：20%～90%（ただし、結露なきこと）

付録

BL-C10/BL-C30について

■ BL-C30

ホームネットワークカメラ

項　目	仕　様
パン・チルト角度	パン：－50°～+50°、チルト：－40°～＋10°
撮像素子	1/4インチ　32万画素　CMOSセンサー
対応照度	1～10,000ルクス (カラーナイトビューモード時)
ホワイトバランス	オート／マニュアル／ホールド
調整可能部分	明るさ
焦点	固定焦点
フォーカス範囲	0.5 m～∞
レンズ　F　No.	F2.8
水平画角	43°
露光制御	オート

その他の仕様

項　目	仕　様
画像圧縮方式	JPEG (3レベル)
画像解像度	640×480ドット、320×240ドット（初期設定値)、160×120ドット
一時保存画像※1	約250枚（320×240ドット）画質標準
フレームレート※2	最大7.5枚／秒（640×480ドット） 最大15枚／秒（320×240ドット、160×120ドット）
サポートプロトコル	TCP、UDP、IP、HTTP、FTP、SMTP、DHCP、DNS、ARP、ICMP、POP3、NTP
画像転送条件	人感センサー、タイマー設定：曜日 / 時 / 分 / 秒
画像転送方法	SMTP／FTP

※1 一時保存画像の枚数は、被写体により変わります。
※2 フレームレートは、被写体、画質、ネットワーク環境やパソコンの性能で変わります。

その他の仕様

項　目	仕　様
インターフェース	■ 有線 10／100Base-T(X) イーサネット×1ポート コネクター形状：8ピンモジュラー（RJ-45） ■ 無線 IEEE 802.11b/g (内蔵)
センサー検知方式	焦電型赤外線センサー
センサー検知範囲	水平方向約30 ゜、垂直方向約85 ゜、距離約5 m （検知範囲の温度20 ℃のとき）
インジケーター	電源表示用 (ネットワークのリンクと動作表示用)
外形寸法 （幅、高さ、奥行）	約74 mm × 約98 mm × 約73 mm（本体のみ、突起部除く）
質量	約200 g（本体のみ）
電源	専用ACアダプター　(品番 PQLV202)(コード長 約3 m) 入力：　AC 100 V、50/60 Hz 出力：　DC 12 V、750 mA 消費電力：（カメラ本体接続時）　待機状態　約4.5 W 最大（パンスキャン時）　約6.4 W ACコード　コード長 約55 cm (別付け)
温度	動作時：5 ℃～＋40 ℃　　保存時：0 ℃～＋50 ℃
湿度	動作時：20%～80%（ただし、結露なきこと） 保存時：20%～90%（ただし、結露なきこと）

■ 本製品は、外国為替および外国貿易法に定める規制対象貨物（または技術）に該当します。本製品を日本国外へ持ち出す場合は、同法に基づく輸出許可等必要な手続きをお取りください。

This product is a Restricted Product (or contains a Restricted Technology) subject to the Japanese Foreign Exchange and Foreign Trade Law. In case that it is exported or brought out from Japan, you are required to take the necessary procedures, such as obtaining an export license from the Japanese government, in accordance with the Law.

■ 本製品は日本国内用です。国外での使用に対するサービスはいたしかねます。

This product is designed for use in Japan.
Panasonic cannot provide service for this product if used outside Japan.

QuickTimeおよびQuickTimeロゴは、ライセンスに基づいて使用される商標です。QuickTimeは米国および他の国々で登録された商標です。

愛情点検　**長年ご使用のモニタリングテレビアダプターの点検を!**

こんな症状はありませんか?

- ACアダプターやACコードが傷んでいる。
- こげくさい臭いや異常な音がする。
- 内部に水や異物が入った。
- 日付·時刻が大幅にずれることがある。
- その他の異常や故障がある。

▶ このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故防止のため、コンセントからACコードを抜いて、必ず**販売店に点検を**依頼してください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　月　日	品　番	BL-WV10
販　売　店　名	電話（　　　）　　—		

松下電器産業株式会社
パナソニック コミュニケーションズ株式会社
テレコムカンパニー

〒812-8531　福岡市博多区美野島4丁目1番62号

Printed in Japan　**PSQX3598YA**　KK1104HK2124